



Japan Weightlifting Association

ウェイトリフティング



全日本ジュニア選手権大会 女子+75kg級優勝

嶋本 麻美 選手(金沢学院大学)

スナッチ97kg、クリーン＆ジャーク127kg、トータル224kg

ジュニア日本新記録樹立

2007 NO.97

(社) 日本ウェイトリフティング協会会報

平成18年度

日本ウェイトリフティング協会功劳賞・年間優秀者賞

福島県小松会長以下26名が3月21日、3月25日に山田会長より表彰を受ける。

<功労賞10名>

小松鴻一（福島県協会会长）	西野正次（石川県協会顧問）	藤代末男（兵庫県協会理事）
福井不二男（岐阜県協会会长）	後藤節哉（埼玉県協会理事長）	篠田健治（兵庫県協会理事）
伊波清孝（沖縄県協会会长）	関慶三郎（東京都協会理事）	増井 優（徳島県協会理事）
安藤春三（岐阜県協会副会長）		

<優秀選手賞8名>

三宅宏実（法政大学）	*世界大会3位	山田政晴（群馬ガードシステム）	*日本新記録
太田和臣（九州国際大学）	*アジアJr優勝	平岡勇輝（静岡県協会）	*日本新記録
橋田麻由（金沢学院大学）	*日本新記録	城内史子（早稲田大学）	*日本新記録
新谷義人（金沢学院大学職員）	*日本新記録	今鉢一恵（自衛隊体校）	*日本新記録

<優秀指導者賞8名>

三宅義行（三宅宏実の指導者）	平岡 力（平岡勇輝の指導者）
福田登美男（太田和臣の指導者）	原 徹（山田政晴の指導者）
長谷場久美（橋田麻由の指導者）	岡田純一（城内史子の指導者）
小畑直之（新谷義人の指導者）	西澤勝美（今鉢一恵の指導者）



3月21日 上野精養軒にて代表の篠田健治氏。受賞者の皆様おめでとうございます

表彰基準

<功労者>

- (1) 本協会加盟団体長として通算10年以上在籍し退任した者。
- (2) 本協会加盟団体にあって、20年以上当該団体の運営及びウェイトリフティング競技の普及振興に貢献した者。

<優秀選手>

- (1) オリンピック競技大会及び世界選手権大会で8位以内に入賞した者。
- (2) Jr世界選手権、アジア大会、アジア選手権大会で3位以内に入賞した者。
- (3) 東アジア競技会、世界学生選手権、ジュニアアジア選手権で優勝した者。
- (4) 日本記録を樹立した者。

<優秀指導者>

上記優秀選手を育成した指導者

競技規則の変更

IWFルールの変更に伴い、平成19年1月1日より変更

1 変更内容

競技規則 5-5-5

(旧) 成功の試技の重量増加は、いずれの場合も 1 kg 以上とする。



(新) 成功の試技の重量増加は、第一試技から第二試技へは 2 kg 以上、第二試技から第三試技へは、1 kg 以上とする。失敗の試技後は、いずれも同重量を選択することができる。ただし、第一試技失敗後、第二試技において増量したい場合は 2 kg 以上増量しなければならない。

競技規則 5-5-9

(旧) 各試技について、通常の申込みの他に最大 2 回の重量変更が許される。ただし、1 kg の自動増加は変更回数には数えない。ファイナルコール後は重量変更できない。



(新) 各試技について、通常の申込みの他に最大 2 回の重量変更が許される。ただし、第一試技から第二試技への 2 kg の自動増加、第二試技から第三試技への 1 kg の自動増加は変更回数には数えない。ファイナルコール後は重量変更できない。

未来のオリンピック選手のジュニア強化合宿始まる
期 間 平成18年12月23日から26日まで
*toto*スポーツ振興くじの助成を得て全国各地で開始。
<ジュニアユース>

近畿男子



東海・北信越男子



関東男子



**2012年ロンドン五輪、2016年東京（候補）
五輪に向け強化合宿
<ジュニアエリート>**

西日本男子



東・西日本女子



東日本男子



目 次

<巻頭言>	審判委員長	中川 豊美	6
「特集」女子ウエイトリフティング20年の歩み			
・女性レフリー・役員の20年の歴史とその将来			
知念 令子 22			
宮田 秀樹 32			
第27回全日本ジュニア選手権大会			
・優勝選手インタビュー 33			
第22回全国高校選抜大会			
・優勝選手インタビュー 38			
平成18年度全国指導者講習会報告			
平成18年度日韓共同未来プロジェクト			
「韓国遠征強化合宿」報告			
新井 健一 43			
鈴木 靖二 52			
良い事尽くめの「マスターズリフティング」			
ウエイトリフターにおける第一肋骨疲労骨折の			
発生頻度とケンビキとの関連性について 54			
中嶋 耕平			
高校紹介（大分県立宇佐高校）			
梶原 誠 59			
大学紹介（中央大学）			
並木 良憲 63			
平成19年度事業計画案について 66			
平成19年度行事開催計画案 70			
《公認記録表》			
第54回関西学生選手権大会 73			
第27回全日本ジュニア選手権大会 74			
第22回全国高等学校選抜大会 75			
平成18年度 高校選抜ブロック大会 76			

卷頭言



理事 中川豊美

昨年の世界選手権大会で三宅宏実選手が銅メダルを獲得した。この原稿を書いている時にも、水泳とフィギュアスケートの世界選手権大会が開催されており、水泳のシンクロナイズド・スイミングでは連日のメダルラッシュが、フィギュア男子でも高橋選手が史上初の銀メダルに輝いたことが報道されている。表彰式では国旗が揚がり、優勝すれば国歌が流れる。スポーツや文化活動における効果は、本人自身および指導者を含むスタッフ、並びに所属団体の名誉と実績となることは言うまでもないが、それを観ている観客にも大きな感動と勇気を与えることである。大会や活動母体が大きくなればなるほど、観客のみならず日本中にその波及効果が及ぶ。トリノ冬季オリンピック大会での荒川選手の金メダル獲得で日本中が沸いたことは、まだ記憶に新しいことである。これからスポーツや芸術活動で自分の才能を伸ばしたいと思っている少年少女達にとっても、世界のトップ選手や芸術家の活躍は大きな刺激となり、自分の可能性を信じてその道に進む若者が多いと思われる。

その意味で、トップ選手を育成することは喫緊の要事であるが、併せて魅力ある大会運営をすることも大切なことであろう。これまで、選手がやりやすいことを第一に考えた運営が行われていたが、これに加えて、「観て楽しい」・「観て面白い」大会になるような工夫もなされるべきではないかと思う。例えば、競技の進行（順位の状況）が、初めての観客にも判るような工夫なども必要であろう。いずれにせよウェイトリフティングの普及のために、理事として貢献できることをやってみたいと願っているが、会員の皆様の協力を大いに期待し、巻頭の言葉とする。

特集 女子ウエイトリフティング 20年の歩み

—各種大会から—

日本体育大学教授
元全日本コーチ 関口 健

これまでに男性のみのスポーツとして考えられてきたウエイトリフティングは、1983年モスクワ市で行われたIWFの理事会において、第1回世界女子選手権大会をフロリダ州デートナビーチ（米国）で行う事を決定した。ここに至るには、ウエイトリフティングが女性にとって安全なスポーツであるのか？女性らしさを失うことはないのか？スポーツ医科学委員会を中心に健闘され、ウエイトリフティングが器械体操（後方2回宙返りのできる女性には体重の5～6倍の負荷が掛かっているなど）や陸上競技（片足踏み切りの種目）など数多くの種目より安全であることや女子トップアスリートがウエイトトレーニングをやっているのが安全であることに対して、競技会で害があるとはナンセンスなど多くの調査結果から、意見の一致が得られて女子ウエイトリフティングが誕生したのである。

1984年には、女子のルールができあがり、階級も男子より少なく、44キロ、48キロ、52キロ、56キロ、60キロ、67.5キロ、75キロ、82.5キロ、+82.5キロの9階級に決定した。また、第1回大会の準備として、1986年3月、初の国際大会第1回ウーマンズカップ（ブタペスト）が、中国、ハンガリー、英国、カナダ、米国の3大陸5カ国23名の選手の参加でスタートした。



1986年 初の国際大会第1回ウーマンズ
カップで活躍した67.5kg級の
コバッヂ選手（U.S.A.）

アップ場でのイギリスチーム

次いで第2回大会では、34名の参加があり、徐々に女子リフターの広がりが見られた。この間、IWFは、各国の女子リフターの活動に関する調査を実施した。その報告によると、米国では、1981年に第1回の国内大会を開催しており、中国では、500名近い女子選手があり、1985年開催されたWave-Cup IIの大会では、181名が参加したことや英国、カナダ、ハンガリーなどにおいても盛んに活動しているとの事であった。

一方、日本では、1983年、IWFから女子リフターの活動調査要請を受け、当時、調査した32都道府県からの回答では、京都、東京、北海道、埼玉、群馬、岡山、沖縄の7都道府県で18名の女子リフターが活動しているとの調査結果が得られている。さらに、日本協会が初めて一般公開として女子リフターを紹介したのは、1984年5月に開催されたロサンゼルスオリンピック大会、日本代表最終選考会の中で、特別記録会として、60kg級の田鹿香主美（日本体育大）が92.5kgが最初であり、次いで1987年4月のアジア選手権大会の中で第1回女子公式記録会として67.5kg級加藤令子（日本体育大・大学院）95kg、75kg級長谷場久美（埼玉栄・教）145kgの2人が紹介された。そして、この年に第1回全国女子選手権大会が開催される運びとなり、第1回世界女子選手権大会（デートナビーチ）に繋がる大会となったのである。



初の日本女性リフター 田鹿香主美（日体大）
特別記録会にて

日体大でのトレーニング風景
(1984年アサヒグラフより)

<国内大会での活躍>

★全国女子選手権大会から全日本女子選手権大会へ

第1回全国女子選手権大会は、1987年9月に藤沢市の日本大学農獸医学部体育館にて開催され、33名の参加（内訳は、高校生48.5%、社会人36.3%、大学生15.2%）で9階級（44キロ、48キロ、52キロ、56キロ、60キロ、67.5キロ、75キロ、82.5キロ、+82.5キロ）にて競われた。その結果、高校生を含む4名の選手が第1回世界女子選手権大会の日本代表に選考された。以降、本大会は、世界選手権などの国際大会への代表選考となる重要な大会に位置づけられている。また、第7回大会（1993年）より、階級が46キロ、50キロ、54キロ、59キロ、64キロ、70キロ、76キロ、83キロ、+83キロの9階級に変更され、第11回大会（1999年）より、全日本女子選手権大会と大会名称も変わり、毎年、参加基準記録を突破した40名前後の選手で競われている。

更に第12回大会（1998年）では、オリンピック大会に向けた階級として、7階級（48キロ、53キロ、58キロ、63キロ、69キロ、75キロ、+75キロ）に変更され、現在に至っている。オリンピック大会予選となった第13回大会（1999年）では、代表選手の健闘により、シドニーオリンピック大会出場枠3名を獲得したが、第17

回大会（2003年）では、アテネオリンピック大会出場枠1名と厳しい状況になっている。本年度の記念すべき第20回大会（2006年）は、甲府市において、45名の選手参加（内訳は、大学生63.4%、社会人24.4%、高校生12.2%）で競われた。

第1回大会では、高校生が48.5%と多くを占め活躍していたが、本大会では、大学生が63%と大幅に多くなり、レベルも上がり、大学生と社会人とのトップ争いに変わってきており、これまでの軽量級の活躍のみならず、75kg級の今鉢一恵（自衛隊）のスナッチ100kg、+75kg級城内史子（早稲田大）のジャーク130kgなど重量級の活躍も目覚ましくなっている。

次に、これまでの個人の成績に関しては、女子競技の牽引者となった13回優勝の長谷場久美（埼玉栄高・教）を始め、8回優勝の植村ひろみ（日本体育大）、阿部真美（日本体育大）、新井美雪（さとえクラブ）らの活躍は立派であり、敬意を表したい。

★国体記念杯女子競技大会

国体記念杯は、女子の国体参加を目標に女子リフターの普及を狙いとした大会で国体開催県の前年に行われる国体リハーサル大会としてスタートした。第1回大会（京都国体記念杯女子トーナメント）は、1987年11月に京都の岩滝町にて31名の参加で競われた。本大会は、一般と高校生が同じプラットホームで競技する全日本選手権に準ずる大会となっており、表彰は高校の部、一般の部に区別されている。第20回大会（秋田国体記念杯女子競技大会）では、高校生56名、一般44名の100名が参加するなど益々充実してきており、女子リフターの底辺拡大に繋がる重要な大会となっている。

★全日本大学女子選手権大会／全日本大学対抗女子選手権大会

大学生の大会に関しては、1989年5月第35回全日本学生個人戦大会の中で第1回大会はオープン大会として開催され、4階級に5名エントリーでスタートした。1991年の第37回全日本学生個人戦大会から第3回大会で全日本大学女子選手権大会と名称変更がなされ、本年で第18回大会となり、8大学20名前後のエントリーで個人戦が行われている。



1989年 全日本大学女子選手権大会オープン大会（サンケイ新聞）

団体戦については、2000年に第1回全日本大学対抗女子選手権大会が開催され、7階級4名エントリーで競われ、現在、第7回大会を迎える。日本体育大学の5連覇、早稲田大学の2連覇の記録が残っている。



第1回全日本大学対抗女子選手権大会 団体優勝の日本体育大学

★全国高等学校女子選手権大会

本大会は、1999年8月に尼ヶ崎市にて、第1回大会が開催され、30校59名の選手がエントリーし競われた。個人戦と団体戦があり、団体戦は、兵庫県立須磨友ヶ丘高校が3回優勝している。次いで埼玉栄高校と京都府立加悦谷高校が2回優勝で続いている。

本年で第8回大会となるが参加49校、113名エントリーと参加者も多くなり、女子高校生最高の大会となっている。今後インターハイの中に組み込まれることを願っている。

★全国女子中学生大会

これまでの中学生大会は、男子の大会として行われて本年で第20回大会を迎える。

女子中学生の第1回大会は、2002年8月松戸市において、5階級（48キロ、53キロ、58キロ、69キロ、75キロ）6名のエントリーでスタートした。第3回大会では、山田翔子（埼玉栄中）が優秀選手となり、本年の第5回大会では、4階級（48キロ、53キロ、58キロ、+75キロ）に11名エントリーされ、福田明（京都市立四条中）が優秀選手で表彰された。

本大会は、女子リフターの底辺拡大のための大会として重視されており、今後の成果が楽しみである。

<国際大会での活躍>

★世界女子選手権大会

第1回大会は、1987年米国のフロリダ州デイトナビーチで開催された。23カ国100名がエントリーされ、日本は4名の選手が出場し、全員入賞。52kg級の植村ひ

ろみの第4位と最も良い成績を残した。日本選手が世界大会初のメダル獲得に輝いたのは、1989年第3回大会（マンチェスター）で26カ国140名がエントリーされた中、52kg級の植村ひろみが待望の銀メダルに輝きメダル第1号となった。以降、1990年第4回大会（サラエボ）では、44kg級斎藤さと美と52kg級植村ひろみが共に銀メダル、1991年第5回大会（ドナウシングテン）では、67.5kg級長谷場久美の銀メダル、52kg級植村ひろみの銅メダル（3大会連続メダリストとなる）。1992年第6回大会（バルナ）では、75kg級長谷場久美が銀メダルと重量級でのメダルに輝いた。また、階級変更後の1993年第7回大会（メルボルン）でも46kg級斎藤さと美の銅メダル、70kg級長谷場久美の銀メダルは3大会連続銀メダリストとなり、団体でも第4位に入賞した。



第3回世界大会 52kg級植村ひろみ銀メダル
日本人第1号のメダル獲得

第4回大会 44kg級
斎藤さと美銀メダル

更に、1996年第10回大会（ワルシャワ）では、59kg級高橋百合子が銅メダルとなり、ジャーク種目別で待望の金メダルに輝いたのである。



第5回大会 67.5kg級
長谷場久美銀メダル



第10回大会 59kg級
高橋百合子ジャーク種目別金メダル

その後、オリンピック大会に向けての階級変更となり、1999年第13回大会（アテネ）では、シドニーオリンピック大会出場枠3名を獲得したが、オリンピック大会後の2001年第14回大会（アンタリア）～2005年第17回大会（カタール）までメダリストは出現しなかった。しかし、本年18回大会（サントドミンゴ）で48kg級の三宅宏実が銅メダルを獲得し、団体第8位入賞と北京オリンピック大会に繋がる成績を残している。2007年の第19回大会（チェンマイ）は、北京オリンピック出場枠の最終予選でもあり、選手の活躍を期待したい。

★オリンピック競技大会

2000年シドニーカンタリア大会は、念願であった女子初参加のオリンピック大会となった。日本からは3選手が出場し、48kg級二柳かおりが第6位入賞。53kg級仲嘉真理が第7位入賞し、メダルにこそ届かなかったが健闘した。



2000年シドニーオリンピック大会
48kg級二柳かおり スナッチ80kg 2000年シドニーオリンピック大会
53kg級仲嘉真理 ジャーク110kg

2回目の参加となった2004年アテネ大会では、48kg級の三宅宏実の1人のみの出場となり、第9位で終わったが、次回の北京大会では、成長著しい三宅選手や松宮選手重量級の今鉢選手らの活躍に期待したい。



2004年アテネオリンピック大会48kg級三宅 宏実 ジャーク97.5kg

恵が金メダルを獲得した。本大会での経験は、ジュニア選手の世界大会活躍へのステップとなっている重要な大会といえる。

★アジアユース女子選手権大会

1999年第1回大会は、中国の武漢市にて開催された。日本では、2000年第2回大会（全州）に53kg級田中涼子（銅メダル）を1人エントリーしたが、日本の場合ユースレベルの選手層が薄いこともあり、その後、2005年第7回大会（タシケント）まで参加していない。しかし、今後中学生大会の充実に伴い、ユース選手の世界進出への登龍門となる大会にしていきたいものである。

★東アジア競技大会

1997年釜山市で開催された第2回大会より、女子競技が実施された。本大会は、アジアの強国が参加する厳しい大会であったが、50kg級二柳かおりが銀メダル、50kg級長谷川倫子、54kg級仲嘉真理、76kg級長谷場久美、+83kg級新井深雪ら4階級で銅メダルを獲得した。

2001年第3回大会（大阪）でも、48kg級今岡益美、53kg級松宮紅美恵、58kg級仲嘉真理ら3階級で銀メダルを獲得し、中国、韓国、に次いで団体でも第3位と活躍している。女子の場合アジアのレベルが高いだけに選手の自信に繋がる大会となっている。また、2005年第4回大会（マカオ）で48kg級三宅宏実が銀メダルを獲得したことは、北京オリンピック大会の上位入賞に繋がる布石と期待している。



1997年 第2回東アジア競技大会
50kg級二柳かおり銀メダル 長谷川倫子銅メダル

★世界ジュニア選手権大会

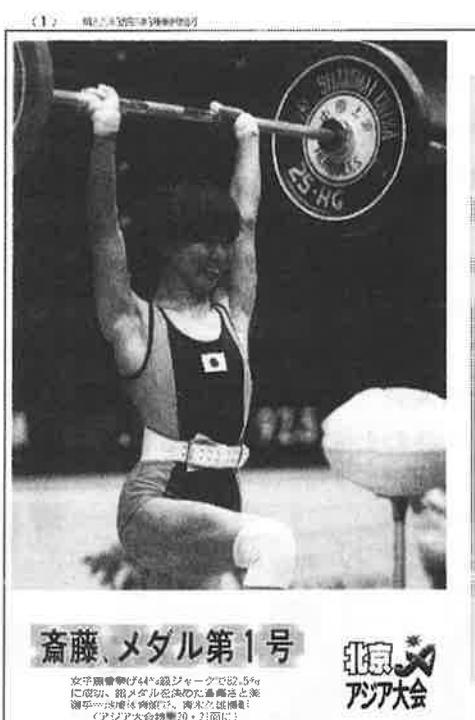
第1回大会は、1995年にワルシャワにて開催され、17カ国48名の選手で競われた。日本は、1997年第3回大会（ケープタウン）より参加し、本大会では50kg級野村依可の銀メダル、松宮紅美恵の銅メダル獲得でスタートした。

1999年第5回大会（サバンナ）でも53kg級松宮紅美恵が銅メダル、2001年第7回大会（テッサロニキ）でも69kg級斎藤里香が銅メダルを獲得。

★アジア競技大会

1990年第11回大会（北京）より、女子競技がスタートした。本大会での日本選手はフルエントリーされ、大会メダル1号となった44kg級斎藤さと美、67.5kg級長谷場久美が銀メダル、56kgで阿部真美が銅メダルと活躍した。1994年第12回大会（広島）では、76kg級長谷場久美が銀メダル、64kg級高橋百合子が銅メダルと上位入賞を果たしたが、1998年第13回大会（バンコク）以降2006年第15大会（カタール）まで上位入賞者が出現していない。

女子アジアのレベルは、世界レベルと同じだけに早くアジアを制する実力を持つことが当面の強化目標でもあり本大会を目安に、世界での活躍に繋げてほしい。



1990年 北京アジア大会
48kg級斎藤さとみジヤーク82.5kg

★アジア女子選手権大会

第1回大会は、1988年ジャカルタで開催された。第2回世界女子選手権大会の中でアジア女子選手権と兼ねて、7カ国40名のエントリーでスタートした。また、アジア競技大会もアジア選手権を兼ねた大会となっており、昨年、カタール国ドーハ市で開催された第15回アジア競技大会が第19回大会を兼ねて実施されている。

★アジアジュニア女子選手権大会

世界ジュニア女子選手権大会と同年の1995年に中国の南沙市にて、第1回大会が開催され、本大会では、46kg級二柳かおり、59kg級大竹実穂が銀メダル、64kg級諒訪治子、76kg級高橋沙弥香が銅メダルを獲得するなど、エントリーした全員が上位入賞する活躍でスタートし、1999年第4回大会（武漢）では、53kg級松宮紅美

2005年第11回大会（釜山）では、48kg級角田祥子が待望の金メダルに輝き、53kg級三宅宏実も銀メダルを獲得している。

本大会は、ジュニア選手の強化レベルをチェックする大会でもあり、男子同様ジュニア選手の成長は、オリンピックに繋がる総合力となるので重要視されている。



1998年 第4回世界ジュニア女子選手権大会
女子団体4位 ショードルIWF会長と

★世界大学選手権大会

第1回大会は、1998年4月テルアビブにて開催され、11カ国62名がエントリーされた。日本は、3名がエントリーし、48kg級二柳かおりが銀メダル、今岡益美が銅メダルを獲得し、1999年第2回大会（千葉）では、48kg級二柳かおりが、2001年第4回大会（スロバキア）63kg級大倉妙子が、2004年第7回大会（フレデリック）では、53kg級沼田洋子がそれぞれ優勝して、金メダルを獲得するなど活躍している大会である。大学生の場合、上級学年の選手は国際大会への出場チャンスが少ないこともあり、大学生の国際大会に対する意欲と競技レベル向上に大いに役立つ重要な大会の位置づけとなっている。

<女性リフターの可能性>

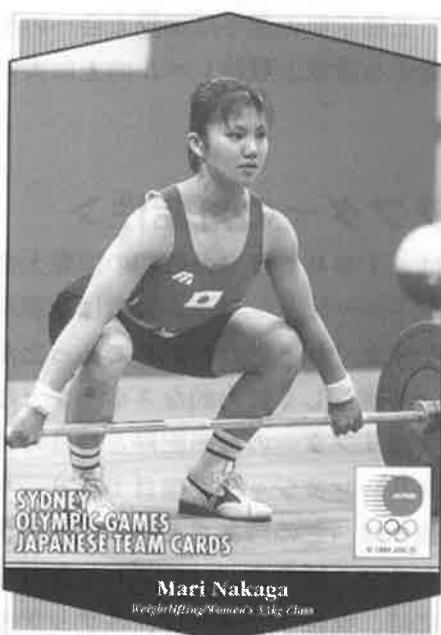
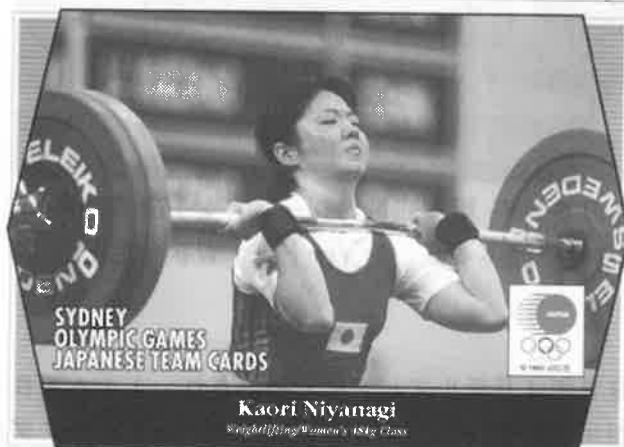
女子のウエイトリフティングは、1986年3月の初の国際大会ウーマンズカップを皮切りに2000年には、念願のシドニーオリンピック大会に初参加するようになった。

大会開始当初は、単なる流行や気まぐれと思われがちであったが、女性の真剣な競技ぶりは、多くの観衆に感動を与え、素晴らしい魅力的なスポーツとなっている。

挙上記録に関しては、当時の女性リフターの最高記録と男性の世界記録の差において、スナッチ種目で平均48%、クリーン＆ジャーク種目で48.9%と男性との比較で49%に満たない状態であった。我々は、この時あまり難しい技術を要さないパワーリフティングのスクワット種目やデッドリフト種目やベンチプレス種目などの記録から約69%前後の男女差を基に10数年後には、女性リフターは、スナッチやクリーン＆ジャークで65%に近づくと予測したが、20年に達した現在では、スナッチ種目で74.5%、ク

クリーン＆ジャーク種目で79.6%と大幅に向上しており（男女同じ階級から）、体重1kg当たりの挙上記録においても、スナッチ種目で男子2.54倍に対し、女性2.04倍。クリーン＆ジャーク種目でも男子3.16倍に対し女性2.47倍と著しい向上（挙上率の高い階級から）がみられた。この事は近い将来、スナッチ種目、クリーン＆ジャーク種目共に男性の80%台の記録を上回ることは時間の問題であると推測している。

最後に、これまでの間、女子競技の発展に活躍された先駆者とも言うべき女性リフターに対し、感謝と敬意を表し、今後更なる活躍を期待したい。



特別記録会プログラム



国内女子大会の各種プログラム



<女子創設20年> 全国女子選手権大会優勝者

<p>1987年(昭和62年) 第1回大会 神奈川県藤沢市 9月21日</p> <p><成績></p> <table border="0"> <tbody> <tr><td>44kg級</td><td>内田 典子</td><td>75.0kg</td></tr> <tr><td>48kg級</td><td>新崎 有香</td><td>92.5kg</td></tr> <tr><td>52kg級</td><td>植村ひろみ</td><td>125.0kg</td></tr> <tr><td>56kg級</td><td>魚留 三奈</td><td>120.0kg</td></tr> <tr><td>60kg級</td><td>山川 直美</td><td>130.0kg</td></tr> <tr><td>67.5kg級</td><td>安宅あかね</td><td>115.0kg</td></tr> <tr><td>75kg級</td><td>長谷場久美</td><td>160.0kg</td></tr> <tr><td>82.5kg級</td><td>本田 政美</td><td>120.0kg</td></tr> <tr><td>+82.5kg級</td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>	44kg級	内田 典子	75.0kg	48kg級	新崎 有香	92.5kg	52kg級	植村ひろみ	125.0kg	56kg級	魚留 三奈	120.0kg	60kg級	山川 直美	130.0kg	67.5kg級	安宅あかね	115.0kg	75kg級	長谷場久美	160.0kg	82.5kg級	本田 政美	120.0kg	+82.5kg級			<p>1992年(平成4年) 第6回大会 埼玉県上尾市 4月3日</p> <p><成績></p> <table border="0"> <tbody> <tr><td>44kg級</td><td>今 真紀子</td><td>120.0kg</td></tr> <tr><td>48kg級</td><td>斎藤さと美</td><td>152.5kg</td></tr> <tr><td>52kg級</td><td>植村ひろみ</td><td>165.0kg</td></tr> <tr><td>56kg級</td><td>阿部 真美</td><td>175.0kg</td></tr> <tr><td>60kg級</td><td>安田 直子</td><td>170.0kg</td></tr> <tr><td>67.5kg級</td><td>長谷場久美</td><td>200.0kg</td></tr> <tr><td>75kg級</td><td>翁長真由美</td><td>172.5kg</td></tr> <tr><td>82.5kg級</td><td>新井 深雪</td><td>160.0kg</td></tr> <tr><td>+82.5kg級</td><td>山下恵美子</td><td>150.0kg</td></tr> </tbody> </table>	44kg級	今 真紀子	120.0kg	48kg級	斎藤さと美	152.5kg	52kg級	植村ひろみ	165.0kg	56kg級	阿部 真美	175.0kg	60kg級	安田 直子	170.0kg	67.5kg級	長谷場久美	200.0kg	75kg級	翁長真由美	172.5kg	82.5kg級	新井 深雪	160.0kg	+82.5kg級	山下恵美子	150.0kg
44kg級	内田 典子	75.0kg																																																					
48kg級	新崎 有香	92.5kg																																																					
52kg級	植村ひろみ	125.0kg																																																					
56kg級	魚留 三奈	120.0kg																																																					
60kg級	山川 直美	130.0kg																																																					
67.5kg級	安宅あかね	115.0kg																																																					
75kg級	長谷場久美	160.0kg																																																					
82.5kg級	本田 政美	120.0kg																																																					
+82.5kg級																																																							
44kg級	今 真紀子	120.0kg																																																					
48kg級	斎藤さと美	152.5kg																																																					
52kg級	植村ひろみ	165.0kg																																																					
56kg級	阿部 真美	175.0kg																																																					
60kg級	安田 直子	170.0kg																																																					
67.5kg級	長谷場久美	200.0kg																																																					
75kg級	翁長真由美	172.5kg																																																					
82.5kg級	新井 深雪	160.0kg																																																					
+82.5kg級	山下恵美子	150.0kg																																																					
<p>1988年(昭和63年) 第2回大会 埼玉県上尾市 6月6日</p> <p><成績></p> <table border="0"> <tbody> <tr><td>44kg級</td><td>内田 典子</td><td>90.0kg</td></tr> <tr><td>48kg級</td><td>田中 智子</td><td>112.5kg</td></tr> <tr><td>52kg級</td><td>植村ひろみ</td><td>145.0kg</td></tr> <tr><td>56kg級</td><td>魚留 三奈</td><td>145.0kg</td></tr> <tr><td>60kg級</td><td>安田 直子</td><td>137.5kg</td></tr> <tr><td>67.5kg級</td><td>長谷場久美</td><td>175.0kg</td></tr> <tr><td>75kg級</td><td>佐々木千景</td><td>100.0kg</td></tr> <tr><td>82.5kg級</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>+82.5kg級</td><td>山下恵美子</td><td>140.0kg</td></tr> </tbody> </table>	44kg級	内田 典子	90.0kg	48kg級	田中 智子	112.5kg	52kg級	植村ひろみ	145.0kg	56kg級	魚留 三奈	145.0kg	60kg級	安田 直子	137.5kg	67.5kg級	長谷場久美	175.0kg	75kg級	佐々木千景	100.0kg	82.5kg級			+82.5kg級	山下恵美子	140.0kg	<p>1993年(平成5年) 第7回大会 岡山県倉敷市 5月29日~30日</p> <p><成績></p> <table border="0"> <tbody> <tr><td>46kg級</td><td>斎藤さと美</td><td>152.5kg</td></tr> <tr><td>50kg級</td><td>安田 直子</td><td>150.0kg</td></tr> <tr><td>54kg級</td><td>植村ひろみ</td><td>162.5kg</td></tr> <tr><td>59kg級</td><td>阿部 真美</td><td>180.0kg</td></tr> <tr><td>64kg級</td><td>高橋百合子</td><td>192.5kg</td></tr> <tr><td>70kg級</td><td>長谷場久美</td><td>195.0kg</td></tr> <tr><td>76kg級</td><td>翁長真由美</td><td>182.5kg</td></tr> <tr><td>83kg級</td><td>新井 深雪</td><td>175.0kg</td></tr> <tr><td>+83kg級</td><td>山下恵美子</td><td>155.0kg</td></tr> </tbody> </table>	46kg級	斎藤さと美	152.5kg	50kg級	安田 直子	150.0kg	54kg級	植村ひろみ	162.5kg	59kg級	阿部 真美	180.0kg	64kg級	高橋百合子	192.5kg	70kg級	長谷場久美	195.0kg	76kg級	翁長真由美	182.5kg	83kg級	新井 深雪	175.0kg	+83kg級	山下恵美子	155.0kg
44kg級	内田 典子	90.0kg																																																					
48kg級	田中 智子	112.5kg																																																					
52kg級	植村ひろみ	145.0kg																																																					
56kg級	魚留 三奈	145.0kg																																																					
60kg級	安田 直子	137.5kg																																																					
67.5kg級	長谷場久美	175.0kg																																																					
75kg級	佐々木千景	100.0kg																																																					
82.5kg級																																																							
+82.5kg級	山下恵美子	140.0kg																																																					
46kg級	斎藤さと美	152.5kg																																																					
50kg級	安田 直子	150.0kg																																																					
54kg級	植村ひろみ	162.5kg																																																					
59kg級	阿部 真美	180.0kg																																																					
64kg級	高橋百合子	192.5kg																																																					
70kg級	長谷場久美	195.0kg																																																					
76kg級	翁長真由美	182.5kg																																																					
83kg級	新井 深雪	175.0kg																																																					
+83kg級	山下恵美子	155.0kg																																																					
<p>1989年(平成元年) 第3回大会 東京都渋谷区 5月4日</p> <p><成績></p> <table border="0"> <tbody> <tr><td>44kg級</td><td>斎藤さと美</td><td>122.5kg</td></tr> <tr><td>48kg級</td><td>田中 智子</td><td>120.0kg</td></tr> <tr><td>52kg級</td><td>植村ひろみ</td><td>147.5kg</td></tr> <tr><td>56kg級</td><td>山川 直美</td><td>145.0kg</td></tr> <tr><td>60kg級</td><td>阿部 知子</td><td>157.5kg</td></tr> <tr><td>67.5kg級</td><td>長谷場久美</td><td>180.0kg</td></tr> <tr><td>75kg級</td><td>渡辺 悅子</td><td>160.0kg</td></tr> <tr><td>82.5kg級</td><td>本田 政美</td><td>145.0kg</td></tr> <tr><td>+82.5kg級</td><td>山下恵美子</td><td>145.0kg</td></tr> </tbody> </table>	44kg級	斎藤さと美	122.5kg	48kg級	田中 智子	120.0kg	52kg級	植村ひろみ	147.5kg	56kg級	山川 直美	145.0kg	60kg級	阿部 知子	157.5kg	67.5kg級	長谷場久美	180.0kg	75kg級	渡辺 悅子	160.0kg	82.5kg級	本田 政美	145.0kg	+82.5kg級	山下恵美子	145.0kg	<p>1994年(平成6年) 第8回大会 東京都世田谷区 6月22日~24日</p> <p><成績></p> <table border="0"> <tbody> <tr><td>46kg級</td><td>斎藤さと美</td><td>140.0kg</td></tr> <tr><td>50kg級</td><td>加藤 智子</td><td>152.5kg</td></tr> <tr><td>54kg級</td><td>佐藤ひろみ</td><td>165.0kg</td></tr> <tr><td>59kg級</td><td>阿部 真美</td><td>180.0kg</td></tr> <tr><td>64kg級</td><td>友松 めぐ</td><td>162.5kg</td></tr> <tr><td>70kg級</td><td>高橋百合子</td><td>195.0kg</td></tr> <tr><td>76kg級</td><td>長谷場久美</td><td>207.5kg</td></tr> <tr><td>83kg級</td><td>新井 深雪</td><td>177.5kg</td></tr> <tr><td>+83kg級</td><td>山下恵美子</td><td>167.5kg</td></tr> </tbody> </table>	46kg級	斎藤さと美	140.0kg	50kg級	加藤 智子	152.5kg	54kg級	佐藤ひろみ	165.0kg	59kg級	阿部 真美	180.0kg	64kg級	友松 めぐ	162.5kg	70kg級	高橋百合子	195.0kg	76kg級	長谷場久美	207.5kg	83kg級	新井 深雪	177.5kg	+83kg級	山下恵美子	167.5kg
44kg級	斎藤さと美	122.5kg																																																					
48kg級	田中 智子	120.0kg																																																					
52kg級	植村ひろみ	147.5kg																																																					
56kg級	山川 直美	145.0kg																																																					
60kg級	阿部 知子	157.5kg																																																					
67.5kg級	長谷場久美	180.0kg																																																					
75kg級	渡辺 悅子	160.0kg																																																					
82.5kg級	本田 政美	145.0kg																																																					
+82.5kg級	山下恵美子	145.0kg																																																					
46kg級	斎藤さと美	140.0kg																																																					
50kg級	加藤 智子	152.5kg																																																					
54kg級	佐藤ひろみ	165.0kg																																																					
59kg級	阿部 真美	180.0kg																																																					
64kg級	友松 めぐ	162.5kg																																																					
70kg級	高橋百合子	195.0kg																																																					
76kg級	長谷場久美	207.5kg																																																					
83kg級	新井 深雪	177.5kg																																																					
+83kg級	山下恵美子	167.5kg																																																					
<p>1990年(平成2年) 第4回大会 埼玉県上尾市 4月15日</p> <p><成績></p> <table border="0"> <tbody> <tr><td>44kg級</td><td>斎藤さと美</td><td>140.0kg</td></tr> <tr><td>48kg級</td><td>田中 智子</td><td>145.0kg</td></tr> <tr><td>52kg級</td><td>植村ひろみ</td><td>165.0kg</td></tr> <tr><td>56kg級</td><td>阿部 真美</td><td>162.5kg</td></tr> <tr><td>60kg級</td><td>安宅あかね</td><td>155.0kg</td></tr> <tr><td>67.5kg級</td><td>長谷場久美</td><td>187.5kg</td></tr> <tr><td>75kg級</td><td>佐々木千景</td><td>117.5kg</td></tr> <tr><td>82.5kg級</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>+82.5kg級</td><td>山下恵美子</td><td>135.0kg</td></tr> </tbody> </table>	44kg級	斎藤さと美	140.0kg	48kg級	田中 智子	145.0kg	52kg級	植村ひろみ	165.0kg	56kg級	阿部 真美	162.5kg	60kg級	安宅あかね	155.0kg	67.5kg級	長谷場久美	187.5kg	75kg級	佐々木千景	117.5kg	82.5kg級			+82.5kg級	山下恵美子	135.0kg	<p>1995年(平成7年) 第9回大会 福島県いわき市 5月28日~30日</p> <p><成績></p> <table border="0"> <tbody> <tr><td>46kg級</td><td>二柳かおり</td><td>147.5kg</td></tr> <tr><td>50kg級</td><td>長谷川倫子</td><td>155.0kg</td></tr> <tr><td>54kg級</td><td>佐藤 宜子</td><td>145.0kg</td></tr> <tr><td>59kg級</td><td>阿部 真美</td><td>177.5kg</td></tr> <tr><td>64kg級</td><td>仲嘉 真理</td><td>160.0kg</td></tr> <tr><td>70kg級</td><td>長谷場久美</td><td>202.5kg</td></tr> <tr><td>76kg級</td><td>高橋沙弥香</td><td>175.0kg</td></tr> <tr><td>83kg級</td><td>新井 深雪</td><td>192.5kg</td></tr> <tr><td>+83kg級</td><td>鶴野 裕子</td><td>165.0kg</td></tr> </tbody> </table>	46kg級	二柳かおり	147.5kg	50kg級	長谷川倫子	155.0kg	54kg級	佐藤 宜子	145.0kg	59kg級	阿部 真美	177.5kg	64kg級	仲嘉 真理	160.0kg	70kg級	長谷場久美	202.5kg	76kg級	高橋沙弥香	175.0kg	83kg級	新井 深雪	192.5kg	+83kg級	鶴野 裕子	165.0kg
44kg級	斎藤さと美	140.0kg																																																					
48kg級	田中 智子	145.0kg																																																					
52kg級	植村ひろみ	165.0kg																																																					
56kg級	阿部 真美	162.5kg																																																					
60kg級	安宅あかね	155.0kg																																																					
67.5kg級	長谷場久美	187.5kg																																																					
75kg級	佐々木千景	117.5kg																																																					
82.5kg級																																																							
+82.5kg級	山下恵美子	135.0kg																																																					
46kg級	二柳かおり	147.5kg																																																					
50kg級	長谷川倫子	155.0kg																																																					
54kg級	佐藤 宜子	145.0kg																																																					
59kg級	阿部 真美	177.5kg																																																					
64kg級	仲嘉 真理	160.0kg																																																					
70kg級	長谷場久美	202.5kg																																																					
76kg級	高橋沙弥香	175.0kg																																																					
83kg級	新井 深雪	192.5kg																																																					
+83kg級	鶴野 裕子	165.0kg																																																					
<p>1991年(平成3年) 第5回大会 北海道士別市 6月9日</p> <p><成績></p> <table border="0"> <tbody> <tr><td>44kg級</td><td>斎藤さと美</td><td>132.5kg</td></tr> <tr><td>48kg級</td><td>田中 智子</td><td>140.0kg</td></tr> <tr><td>52kg級</td><td>植村ひろみ</td><td>165.0kg</td></tr> <tr><td>56kg級</td><td>阿部 真美</td><td>170.0kg</td></tr> <tr><td>60kg級</td><td>阿部 知子</td><td>167.5kg</td></tr> <tr><td>67.5kg級</td><td>長谷場久美</td><td>202.5kg</td></tr> <tr><td>75kg級</td><td>翁長真由美</td><td>155.0kg</td></tr> <tr><td>82.5kg級</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>+82.5kg級</td><td>山下恵美子</td><td>152.5kg</td></tr> </tbody> </table>	44kg級	斎藤さと美	132.5kg	48kg級	田中 智子	140.0kg	52kg級	植村ひろみ	165.0kg	56kg級	阿部 真美	170.0kg	60kg級	阿部 知子	167.5kg	67.5kg級	長谷場久美	202.5kg	75kg級	翁長真由美	155.0kg	82.5kg級			+82.5kg級	山下恵美子	152.5kg	<p>1996年(平成8年) 第10回大会 埼玉県和光市 6月13日~15日</p> <p><成績></p> <table border="0"> <tbody> <tr><td>46kg級</td><td>二柳かおり</td><td>162.5kg</td></tr> <tr><td>50kg級</td><td>長谷川倫子</td><td>162.5kg</td></tr> <tr><td>54kg級</td><td>木全 洋美</td><td>150.0kg</td></tr> <tr><td>59kg級</td><td>高橋百合子</td><td>185.0kg</td></tr> <tr><td>64kg級</td><td>西川 真美</td><td>175.0kg</td></tr> <tr><td>70kg級</td><td>長谷場久美</td><td>202.5kg</td></tr> <tr><td>76kg級</td><td>翁長真由美</td><td>185.0kg</td></tr> <tr><td>83kg級</td><td>景山 美野</td><td>175.0kg</td></tr> <tr><td>+83kg級</td><td>新井 深雪</td><td>197.5kg</td></tr> </tbody> </table>	46kg級	二柳かおり	162.5kg	50kg級	長谷川倫子	162.5kg	54kg級	木全 洋美	150.0kg	59kg級	高橋百合子	185.0kg	64kg級	西川 真美	175.0kg	70kg級	長谷場久美	202.5kg	76kg級	翁長真由美	185.0kg	83kg級	景山 美野	175.0kg	+83kg級	新井 深雪	197.5kg
44kg級	斎藤さと美	132.5kg																																																					
48kg級	田中 智子	140.0kg																																																					
52kg級	植村ひろみ	165.0kg																																																					
56kg級	阿部 真美	170.0kg																																																					
60kg級	阿部 知子	167.5kg																																																					
67.5kg級	長谷場久美	202.5kg																																																					
75kg級	翁長真由美	155.0kg																																																					
82.5kg級																																																							
+82.5kg級	山下恵美子	152.5kg																																																					
46kg級	二柳かおり	162.5kg																																																					
50kg級	長谷川倫子	162.5kg																																																					
54kg級	木全 洋美	150.0kg																																																					
59kg級	高橋百合子	185.0kg																																																					
64kg級	西川 真美	175.0kg																																																					
70kg級	長谷場久美	202.5kg																																																					
76kg級	翁長真由美	185.0kg																																																					
83kg級	景山 美野	175.0kg																																																					
+83kg級	新井 深雪	197.5kg																																																					

全国女子選手権大会優勝者

<p>1997年(平成9年) 第11回大会 埼玉県浦和市 6月27日~29日</p> <p><成績> 46kg級 久保田沙知江 130.0kg 50kg級 二柳かおり 175.0kg 54kg級 長谷川倫子 157.5kg 59kg級 大竹 実穂 175.0kg 64kg級 小林由美子 172.5kg 70kg級 長谷場久美 207.5kg 76kg級 藤原 広美 197.5kg 83kg級 高橋沙弥香 195.0kg +83kg級 鶴野 裕子 185.0kg</p>	<p>2002年(平成14年) 第16回大会 東京都大田区 5月25日~27日</p> <p><成績> 48kg級 今岡 益美 175.0kg 53kg級 仲嘉 真理 182.5kg 58kg級 川上 知子 177.5kg 63kg級 塩見 佳世 172.5kg 69kg級 下玉利 瞳 180.0kg 75kg級 加藤 博子 187.5kg + 75kg級 鶴野 裕子 185.0kg</p>
<p>1998年(平成10年) 第12回大会 福島県いわき市 6月12日~14日</p> <p><成績> 48kg級 二柳かおり 175.0kg 53kg級 仲嘉 真理 177.5kg 58kg級 高橋百合子 187.5kg 63kg級 西川 真美 182.5kg 69kg級 長谷場久美 200.0kg 75kg級 藤原 広美 210.0kg + 75kg級 新井 美雪 205.0kg</p>	<p>2003年(平成15年) 第17回大会 東京都大田区 6月26日~28日</p> <p><成績> 48kg級 今岡 益美 177.5kg 53kg級 三宅 宏実 175.0kg 58kg級 大倉 妙子 192.5kg 63kg級 渡慶次雅子 190.0kg 69kg級 宮城 寿子 190.0kg 75kg級 今鉢 一恵 217.5kg + 75kg級 鶴野 裕子 185.0kg</p>
<p>1999年(平成11年) 第13回大会 茨城県石岡市 6月11日~13日</p> <p><成績> 48kg級 二柳かおり 177.5kg 53kg級 仲嘉 真理 180.0kg 58kg級 高橋百合子 197.5kg 63kg級 小林由美子 190.0kg 69kg級 景山 美野 187.5kg 75kg級 藤原 広美 215.0kg + 75kg級 新井 美雪 205.0kg</p>	<p>2004年(平成16年) 第18回大会 石川県金沢市 5月7日~9日</p> <p><成績> 48kg級 三宅 宏実 180.0kg 53kg級 沼田 洋子 160.0kg 58kg級 北村 芳子 190.0kg 63kg級 橋田 麻由 185.0kg 69kg級 斎藤 里香 192.5kg 75kg級 今鉢 一恵 217.5kg + 75kg級 鶴野 裕子 185.0kg</p>
<p>2000年(平成12年) 第14回大会 埼玉県上尾市 6月23日~25日</p> <p><成績> 48kg級 今岡 益美 172.5kg 53kg級 長谷川倫子 185.0kg 58kg級 高橋百合子 197.5kg 63kg級 大倉 妙子 177.5kg 69kg級 長谷場久美 197.5kg 75kg級 藤原 広美 205.0kg + 75kg級 新井 美雪 212.5kg</p>	<p>2005年(平成17年) 第19回大会 埼玉県さいたま市 5月3日~5日</p> <p><成績> 48kg級 大城みさき 155kg 53kg級 松宮紅美恵 180kg 58kg級 大倉 妙子 178kg 63kg級 渡慶次雅子 190kg 69kg級 斎藤 里香 202kg 75kg級 今鉢 一恵 223kg + 75kg級 嶋本 麻美 182kg</p>
<p>2001年(平成13年) 第15回大会 茨城県石岡市 6月22日~24日</p> <p><成績> 48kg級 今岡 益美 167.5kg 53kg級 野村 衣可 162.5kg 58kg級 仲嘉 真理 197.5kg 63kg級 大倉 妙子 187.5kg 69kg級 斎藤 里香 172.5kg 75kg級 河村麻衣子 162.5kg + 75kg級 鶴野 裕子 190.0kg</p>	<p>2006年(平成18年) 第20回大会 山梨県甲府市 6月30日~7月2日</p> <p><成績> 48kg級 三宅 宏実 187kg 53kg級 松宮紅美恵 180kg 58kg級 大倉 妙子 180kg 63kg級 橋田 麻由 196kg 69kg級 斎藤 里香 199kg 75kg級 今鉢 一恵 224kg + 75kg級 城内 史子 222kg</p>

<女子創設20年>世界女子選手権大会戦績

<p>1987年 第1回大会 (アメリカ・ディトナビーチ)</p> <p><成績></p> <table border="0"> <tbody> <tr><td>52kg 級</td><td>4位</td><td>植村ひろみ</td><td>130.0kg</td></tr> <tr><td>56kg 級</td><td>6位</td><td>山川 直美</td><td>135.0kg</td></tr> <tr><td>56kg 級</td><td>7位</td><td>魚留 三奈</td><td>130.0kg</td></tr> <tr><td>75kg 級</td><td>4位</td><td>長谷場久美</td><td>170.0kg</td></tr> </tbody> </table>	52kg 級	4位	植村ひろみ	130.0kg	56kg 級	6位	山川 直美	135.0kg	56kg 級	7位	魚留 三奈	130.0kg	75kg 級	4位	長谷場久美	170.0kg	<p>1992年 第6回大会 (ブルガリア・バルナ)</p> <p><成績></p> <table border="0"> <tbody> <tr><td>48kg 級</td><td>6位</td><td>斎藤さと美</td><td>147.5kg</td></tr> <tr><td>48kg 級</td><td>9位</td><td>田中 智子</td><td>142.5kg</td></tr> <tr><td>52kg 級</td><td>5位</td><td>植村ひろみ</td><td>167.5kg</td></tr> <tr><td>56kg 級</td><td>4位</td><td>阿部 真美</td><td>170.0kg</td></tr> <tr><td>56kg 級</td><td>失格</td><td>石戸 恵子</td><td>0kg</td></tr> <tr><td>60kg 級</td><td>10位</td><td>安田 直子</td><td>170.0kg</td></tr> <tr><td>60kg 級</td><td>失格</td><td>阿部 知子</td><td>0kg</td></tr> <tr><td>67.5kg 級</td><td>9位</td><td>安宅あかね</td><td>170.0kg</td></tr> <tr><td>75kg 級</td><td>2位</td><td>長谷場久美</td><td>205.0kg</td></tr> </tbody> </table>	48kg 級	6位	斎藤さと美	147.5kg	48kg 級	9位	田中 智子	142.5kg	52kg 級	5位	植村ひろみ	167.5kg	56kg 級	4位	阿部 真美	170.0kg	56kg 級	失格	石戸 恵子	0kg	60kg 級	10位	安田 直子	170.0kg	60kg 級	失格	阿部 知子	0kg	67.5kg 級	9位	安宅あかね	170.0kg	75kg 級	2位	長谷場久美	205.0kg				
52kg 級	4位	植村ひろみ	130.0kg																																																						
56kg 級	6位	山川 直美	135.0kg																																																						
56kg 級	7位	魚留 三奈	130.0kg																																																						
75kg 級	4位	長谷場久美	170.0kg																																																						
48kg 級	6位	斎藤さと美	147.5kg																																																						
48kg 級	9位	田中 智子	142.5kg																																																						
52kg 級	5位	植村ひろみ	167.5kg																																																						
56kg 級	4位	阿部 真美	170.0kg																																																						
56kg 級	失格	石戸 恵子	0kg																																																						
60kg 級	10位	安田 直子	170.0kg																																																						
60kg 級	失格	阿部 知子	0kg																																																						
67.5kg 級	9位	安宅あかね	170.0kg																																																						
75kg 級	2位	長谷場久美	205.0kg																																																						
<p>1988年 第2回大会 (インドネシア・ジャカルタ)</p> <p><成績></p> <table border="0"> <tbody> <tr><td>48kg 級</td><td>7位</td><td>田中 智子</td><td>115.0kg</td></tr> <tr><td>48kg 級</td><td>8位</td><td>高地 真幸</td><td>107.5kg</td></tr> <tr><td>52kg 級</td><td>5位</td><td>植村ひろみ</td><td>140.0kg</td></tr> <tr><td>52kg 級</td><td>10位</td><td>川村 淳子</td><td>127.5kg</td></tr> <tr><td>56kg 級</td><td>5位</td><td>魚留 三奈</td><td>145.0kg</td></tr> <tr><td>56kg 級</td><td>8位</td><td>山川 直美</td><td>140.0kg</td></tr> <tr><td>67.5kg 級</td><td>7位</td><td>長谷場久美</td><td>172.5kg</td></tr> </tbody> </table>	48kg 級	7位	田中 智子	115.0kg	48kg 級	8位	高地 真幸	107.5kg	52kg 級	5位	植村ひろみ	140.0kg	52kg 級	10位	川村 淳子	127.5kg	56kg 級	5位	魚留 三奈	145.0kg	56kg 級	8位	山川 直美	140.0kg	67.5kg 級	7位	長谷場久美	172.5kg	<p>1993年 第7回大会 (オーストラリア・メルボルン)</p> <p><成績></p> <table border="0"> <tbody> <tr><td>46kg 級</td><td>3位</td><td>斎藤さと美</td><td>147.5kg</td></tr> <tr><td>50kg 級</td><td>7位</td><td>田中 智子</td><td>157.5kg</td></tr> <tr><td>50kg 級</td><td>9位</td><td>安田 直子</td><td>150.0kg</td></tr> <tr><td>59kg 級</td><td>4位</td><td>阿部 真美</td><td>187.5kg</td></tr> <tr><td>59kg 級</td><td>8位</td><td>石戸 恵子</td><td>172.5kg</td></tr> <tr><td>64kg 級</td><td>5位</td><td>高橋百合子</td><td>190.0kg</td></tr> <tr><td>75kg 級</td><td>2位</td><td>長谷場久美</td><td>207.5kg</td></tr> </tbody> </table>	46kg 級	3位	斎藤さと美	147.5kg	50kg 級	7位	田中 智子	157.5kg	50kg 級	9位	安田 直子	150.0kg	59kg 級	4位	阿部 真美	187.5kg	59kg 級	8位	石戸 恵子	172.5kg	64kg 級	5位	高橋百合子	190.0kg	75kg 級	2位	長谷場久美	207.5kg
48kg 級	7位	田中 智子	115.0kg																																																						
48kg 級	8位	高地 真幸	107.5kg																																																						
52kg 級	5位	植村ひろみ	140.0kg																																																						
52kg 級	10位	川村 淳子	127.5kg																																																						
56kg 級	5位	魚留 三奈	145.0kg																																																						
56kg 級	8位	山川 直美	140.0kg																																																						
67.5kg 級	7位	長谷場久美	172.5kg																																																						
46kg 級	3位	斎藤さと美	147.5kg																																																						
50kg 級	7位	田中 智子	157.5kg																																																						
50kg 級	9位	安田 直子	150.0kg																																																						
59kg 級	4位	阿部 真美	187.5kg																																																						
59kg 級	8位	石戸 恵子	172.5kg																																																						
64kg 級	5位	高橋百合子	190.0kg																																																						
75kg 級	2位	長谷場久美	207.5kg																																																						
<p>1989年 第3回大会 (ギリス・マンチェスター)</p> <p><成績></p> <table border="0"> <tbody> <tr><td>48kg 級</td><td>4位</td><td>斎藤さと美</td><td>130.0kg</td></tr> <tr><td>48kg 級</td><td>9位</td><td>馬場佐知子</td><td>125.0kg</td></tr> <tr><td>48kg 級</td><td>失格</td><td>田中 智子</td><td>0kg</td></tr> <tr><td>52kg 級</td><td>2位</td><td>植村ひろみ</td><td>155.0kg</td></tr> <tr><td>56kg 級</td><td>6位</td><td>阿部 真美</td><td>152.5kg</td></tr> <tr><td>56kg 級</td><td>9位</td><td>山川 直美</td><td>147.5kg</td></tr> <tr><td>60kg 級</td><td>13位</td><td>阿部 知子</td><td>142.5kg</td></tr> <tr><td>67.5kg 級</td><td>5位</td><td>長谷場久美</td><td>185.0kg</td></tr> </tbody> </table>	48kg 級	4位	斎藤さと美	130.0kg	48kg 級	9位	馬場佐知子	125.0kg	48kg 級	失格	田中 智子	0kg	52kg 級	2位	植村ひろみ	155.0kg	56kg 級	6位	阿部 真美	152.5kg	56kg 級	9位	山川 直美	147.5kg	60kg 級	13位	阿部 知子	142.5kg	67.5kg 級	5位	長谷場久美	185.0kg	<p>1994年 第8回大会 (トルコ・イスタンブール)</p> <p>不参加</p>																								
48kg 級	4位	斎藤さと美	130.0kg																																																						
48kg 級	9位	馬場佐知子	125.0kg																																																						
48kg 級	失格	田中 智子	0kg																																																						
52kg 級	2位	植村ひろみ	155.0kg																																																						
56kg 級	6位	阿部 真美	152.5kg																																																						
56kg 級	9位	山川 直美	147.5kg																																																						
60kg 級	13位	阿部 知子	142.5kg																																																						
67.5kg 級	5位	長谷場久美	185.0kg																																																						
<p>1990年 第4回大会 (ユーゴ・スラビア・ザレボ)</p> <p><成績></p> <table border="0"> <tbody> <tr><td>44kg 級</td><td>2位</td><td>斎藤さと美</td><td>140.0kg</td></tr> <tr><td>48kg 級</td><td>5位</td><td>田中 智子</td><td>137.5kg</td></tr> <tr><td>52kg 級</td><td>2位</td><td>植村ひろみ</td><td>167.5kg</td></tr> <tr><td>56kg 級</td><td>6位</td><td>阿部 真美</td><td>165.0kg</td></tr> <tr><td>56kg 級</td><td>9位</td><td>山川 直美</td><td>155.0kg</td></tr> <tr><td>67.5kg 級</td><td>4位</td><td>長谷場久美</td><td>195.0kg</td></tr> </tbody> </table>	44kg 級	2位	斎藤さと美	140.0kg	48kg 級	5位	田中 智子	137.5kg	52kg 級	2位	植村ひろみ	167.5kg	56kg 級	6位	阿部 真美	165.0kg	56kg 級	9位	山川 直美	155.0kg	67.5kg 級	4位	長谷場久美	195.0kg	<p>1995年 第9回大会 (中国・広州)</p> <p><成績></p> <table border="0"> <tbody> <tr><td>46kg 級</td><td>6位</td><td>二柳かおり</td><td>152.5kg</td></tr> <tr><td>46kg 級</td><td>8位</td><td>今岡 益美</td><td>142.5kg</td></tr> <tr><td>59kg 級</td><td>5位</td><td>阿部 真美</td><td>180.0kg</td></tr> <tr><td>70kg 級</td><td>5位</td><td>長谷場久美</td><td>202.5kg</td></tr> <tr><td>+83kg 級</td><td>7位</td><td>新井 深雪</td><td>205.0kg</td></tr> </tbody> </table>	46kg 級	6位	二柳かおり	152.5kg	46kg 級	8位	今岡 益美	142.5kg	59kg 級	5位	阿部 真美	180.0kg	70kg 級	5位	長谷場久美	202.5kg	+83kg 級	7位	新井 深雪	205.0kg												
44kg 級	2位	斎藤さと美	140.0kg																																																						
48kg 級	5位	田中 智子	137.5kg																																																						
52kg 級	2位	植村ひろみ	167.5kg																																																						
56kg 級	6位	阿部 真美	165.0kg																																																						
56kg 級	9位	山川 直美	155.0kg																																																						
67.5kg 級	4位	長谷場久美	195.0kg																																																						
46kg 級	6位	二柳かおり	152.5kg																																																						
46kg 級	8位	今岡 益美	142.5kg																																																						
59kg 級	5位	阿部 真美	180.0kg																																																						
70kg 級	5位	長谷場久美	202.5kg																																																						
+83kg 級	7位	新井 深雪	205.0kg																																																						
<p>1991年 第5回大会 (西ドイツ・カッセル)</p> <p><成績></p> <table border="0"> <tbody> <tr><td>44kg 級</td><td>4位</td><td>斎藤さと美</td><td>137.5kg</td></tr> <tr><td>48kg 級</td><td>5位</td><td>田中 智子</td><td>145.0kg</td></tr> <tr><td>52kg 級</td><td>3位</td><td>植村ひろみ</td><td>167.5kg</td></tr> <tr><td>52kg 級</td><td>11位</td><td>山川 直美</td><td>150.0kg</td></tr> <tr><td>56kg 級</td><td>6位</td><td>阿部 真美</td><td>170.0kg</td></tr> <tr><td>67.5kg 級</td><td>2位</td><td>長谷場久美</td><td>197.5kg</td></tr> </tbody> </table>	44kg 級	4位	斎藤さと美	137.5kg	48kg 級	5位	田中 智子	145.0kg	52kg 級	3位	植村ひろみ	167.5kg	52kg 級	11位	山川 直美	150.0kg	56kg 級	6位	阿部 真美	170.0kg	67.5kg 級	2位	長谷場久美	197.5kg	<p>1996年 第10回大会 (ポーランド・ワルシャワ)</p> <p><成績></p> <table border="0"> <tbody> <tr><td>46kg 級</td><td>4位</td><td>二柳かおり</td><td>152.5kg</td></tr> <tr><td>50kg 級</td><td>6位</td><td>長谷川倫子</td><td>160.0kg</td></tr> <tr><td>59kg 級</td><td>3位</td><td>高橋百合子</td><td>197.5kg</td></tr> <tr><td>70kg 級</td><td>6位</td><td>長谷場久美</td><td>205.0kg</td></tr> <tr><td>83kg 級</td><td>6位</td><td>新井 深雪</td><td>200.0kg</td></tr> </tbody> </table>	46kg 級	4位	二柳かおり	152.5kg	50kg 級	6位	長谷川倫子	160.0kg	59kg 級	3位	高橋百合子	197.5kg	70kg 級	6位	長谷場久美	205.0kg	83kg 級	6位	新井 深雪	200.0kg												
44kg 級	4位	斎藤さと美	137.5kg																																																						
48kg 級	5位	田中 智子	145.0kg																																																						
52kg 級	3位	植村ひろみ	167.5kg																																																						
52kg 級	11位	山川 直美	150.0kg																																																						
56kg 級	6位	阿部 真美	170.0kg																																																						
67.5kg 級	2位	長谷場久美	197.5kg																																																						
46kg 級	4位	二柳かおり	152.5kg																																																						
50kg 級	6位	長谷川倫子	160.0kg																																																						
59kg 級	3位	高橋百合子	197.5kg																																																						
70kg 級	6位	長谷場久美	205.0kg																																																						
83kg 級	6位	新井 深雪	200.0kg																																																						

世界女子選手権大会・オリンピック大会戦績

1997年 第11回大会 (タイ・チェンマイ)	<成績> 50kg級 7位 二柳かおり 172.5kg 50kg級 11位 長谷川倫子 165.0kg 54kg級 10位 仲嘉 真理 175.0kg 70kg級 7位 長谷場久美 202.5kg	2002年 第15回大会 (ポーランド・ワルシャワ)	<成績> 48kg級 6位 今岡 益美 170.0kg 53kg級 5位 三宅 宏実 175.0kg 58kg級 18位 仲嘉 真理 172.5kg 75kg級 9位 今鉢 一恵 210.0kg
1998年 第12回大会 (フィンランド・ラハイ)	<成績> 48kg級 4位 今岡 益美 167.5kg 48kg級 8位 二柳かおり 165.0kg 75kg級 12位 藤原 広美 195.0kg	2003年 第16回大会 (カナダ・バンクーバー)	<成績> 48kg級 19位 大城みさき 152.5kg 48kg級 失格 今岡 益美 0kg 53kg級 10位 松宮紅美恵 187.5kg 53kg級 11位 三宅 宏実 185.0kg 58kg級 20位 大倉 妙子 190.0kg 69kg級 26位 北村 芳子 190.0kg +75kg級 15位 今鉢 一恵 227.5kg
1999年 第13回大会 (ギリシャ・アテネ)	<成績> 48kg級 3位 二柳かおり 185.0kg 48kg級 11位 今岡 益美 170.0kg 53kg級 5位 仲嘉 真理 192.5kg 50kg級 14位 長谷川倫子 175.0kg 58kg級 3位 高橋百合子 180.0kg 63kg級 12位 小林由美子 195.0kg +75kg級 15位 新井 深雪 217.5kg	2004年 第25回オリンピック大会 (ギリシャ・アテネ)	<成績> 48kg級 9位 三宅 宏実 175.0kg
2000年 第27回オリンピック大会 (オーストラリア・シドニー)	<成績> 48kg級 6位 二柳かおり 175.0kg 53kg級 7位 仲嘉 真理 182.5kg 58kg級 失格 高橋百合子 0kg	2005年 第17回大会 (カタール・ドーハ)	<成績> 48kg級 4位 三宅 宏実 191kg 63kg級 14位 渡慶次雅子 188kg 69kg級 11位 斎藤 里香 203kg 75kg級 8位 今鉢 一恵 225kg 75kg級 15位 菊田 裕子 187kg +75kg級 12位 城内 史子 212kg +75kg級 16位 嶋本 麻美 195kg
2001年 第14回大会 (トルコ・アンカラ)	不参加	2006年 第18回大会 (ドミニカ共和国・サントドミンゴ)	<成績> 48kg級 3位 三宅 宏実 188kg 48kg級 10位 角田 祥子 167kg 53kg級 13位 松宮紅美恵 176kg 69kg級 14位 橋田 麻由 204kg 69kg級 16位 斎藤 里香 200kg 75kg級 失格 今鉢 一恵 0kg +75kg級 21位 城内 史子 221kg

The Twenty Year History of Female Referees and It's Future

女性レフリー・役員の 20 年の歴史とその将来

Reiko Kato CHINEN, Technical Committee, IWF

知念 令子 IWF 技術委員 (JWA 国際委員長)

Preface はじめに

I started weightlifting just one year before the 1st Women's World Championships. I still remember when I was lifting the barbell everyday, however, I was very surprised when Celsa Alvares, a member of IWF Scientific & Research Committee and one of the great female pioneers of our sport asked me to contribute an article for the 20th Anniversary of Women's Weightlifting. This request made me realize not only the amount of time that has passed but also the fact that I am getting a little older.

私は第 1 回女子世界選手権が開催された前年にウエイトリフティング競技を始めた。私は今でも毎日練習に励んでいた時のことを克明に記憶している。しかし、IWF 科学調査委員でありこの競技の偉大なパイオニアである Celsa Alvares さんから女子ウエイトリフティングの 20 周年についての寄稿を頼まれたときには、もう 20 年経ったのかと大変驚いたものである。と同時に、自分もちょっと年をとったことを思い知らされた。

History of Woman Weightlifting 女子ウエイトリフティングの歴史

It would not be possible to comment on the history of weightlifting without the help of Gottfried Schödl, the former President of the IWF. First of all, I learned a lot of its history from "The Lost and Past" authored by President Schödl¹⁾. It was on the 20th October 1983 that the IWF Executive Board registered the following sentence in the minutes of the Meeting in Moscow; "*The Executive Board unanimously accepted to control woman weightlifting in principle, with the details to be elaborated later and with no world championships allowed.*" After two and a half year's of deep consideration and strong effort to conduct ladies to the iron world, traditional Pannonia Tournament opened the door for women in March 1986 thus becoming the first women's international competition in the world. Budapest saluted 23 ladies from five nations with an enthusiastic audience.

Since 1986, how many women have enjoyed lifting the barbell? How many women have enjoyed engaging in our sport? Today Women's Weightlifting has the highest prestige of being one of the Olympic Sports. Women's Weightlifting has an important role as well to follow the IOC's ambition – Olympic Sports are preferable to be performed by both men and women. Besides the aspiration of the IOC, however, I believe Women's Weightlifting has another important role to fascinate women in the world through the exciting competition. It must be encouraging for women to work out with the barbell. Of course there are a lot of sports that female athletes strengthen themselves by using barbell, but it is only Weightlifting that females can show competing with the barbell in Olympic Sports. I may have to discriminate competing from fitness but if considering physiologically, the benefits from barbell must be applied to everyone. Strength is not the possession of men only – it is the prerequisite for women also, especially if they wish to live a healthy life.

It is a great honor for female athletes to compete in Olympic Sport. As well as athletes, it is a great honor for female officials to serve an Olympic Sport. In comparison to our male colleagues, the history of Women's Weightlifting is just one-fifth of its centennial one. The beginning of the international organization in weightlifting was on the 10th June 1905; the day of "Amateur – Athleten – Weltunion" was established. It has been more than 25 years since the name of the organization is changed to the latest one, "International Weightlifting Federation," on the 6th September 1972²⁾. The contents of Women's Weightlifting in "The Lost and Past" that Gottfried Schödl described are only in the last several pages. It

means that women are like babies in our sport. To that end, I will never forget the men's glorious history and I will never forget the men's great effort to have piloted Women's Weightlifting into the Olympic Family. I always thank the gentlemen to allow women to join this sport.

IWF 前会長である Gottfried Schödl の助けを借りないことにはウエイトリフティングの歴史を語ることは不可能である。私は彼の著書・“The Lost and Past”¹⁾ から多くの事実を学んだ。IWF が 1983 年 10 月 20 日にモスクワで開いた理事会の議事録にはこう記されている；「理事会は満場一致により、女子のウエイトリフティング競技を原則として認める。ただし詳細については追って推敲し、また世界選手権の開催は認めない。」 2 年間の慎重なる検討の後、1986 年 3 月、伝統ある Pannonia トーナメントが初めて女性に門戸を開いた。これが世界で初めての女子国際大会となり、5 カ国から 23 の選手がブダペストの熱狂的な観衆に出迎えられたのである。

1986 年以来、どれだけの女性たちがバーベルを持ち上げるということを楽しんだのだろう？ どれだけの女性たちがこの競技に関わることを楽しんだのだろう？ 今日では女子のウエイトリフティング競技はオリンピック競技という最高のステータスを得ている。そして女子のウエイトリフティング競技は IOC の意志に従うための大切な役割—オリンピック競技は男女平等であることを望む—を担っている。しかし私は IOC の意図のためだけではなく、女子ウエイトリフティング競技には、そのエキサイティングな試合を通じて世界中の女性たちを魅了するという別の大切な役割があると信じている。ウエイトリフティング競技は、世の女性たちがバーベルを使ってトレーニングする気持ちを後押ししているに違いない。もちろん、女性たちがバーベルを使ってトレーニングしている競技はたくさんある。しかしオリンピック競技の中で、女性がバーベルを使って競い合うのはウエイトリフティングしかない。競技することとフィットネスと区別するべきなのかもしれないが、生理学的に考えればバーベルを使ってトレーニングすることによる恩恵は誰にでもたらされるのである。筋力は男性だけの所有物ではない—健康な生活ができるだけ長く送ろうとするならば、筋力は女性にも不可欠なものなのだ。

女性がオリンピックスポーツを競技することは大変名誉なことである。と同時に、女性にとってオリンピックスポーツに携わるということも大変名誉なことである。男子の 100 年の歴史に比べれば女子の歴史なんてたったの 5 分の 1 である。ウエイトリフティングの国際的な組織の始まりは 1905 年 6 月 10 日、“Amateur – Athleten – Weltunion”発足のことである。国際組織の名称が最も新しいものが 1972 年 9 月 6 日に “International Weightlifting Federation” に変わってからでさえ、もう四半世紀以上経っている。Gottfried Schödl の書いた “The Lost and Past” の中で女子に関する記述は、最後のほんの数ページにしかない。つまりは女子はこの競技において赤ちゃんみたいな存在なのだ。私はこの競技における男子の偉大なる歴史の存在を忘ることはないだろう。そして男子の先達たちが女子ウエイトリフティング競技をオリンピック競技にまで導いてくれたその努力を決して忘れる事はないだろうし、女性を受け入れてくれた男性たちに常に感謝の気持ちを持っている。

Pioneers of Female Referees Officiated in the World Stage 世界の舞台で任務にあたった女子レフリーのパイオニアたち

Nowadays many female officials have obtained International Referee Licenses and there are a lot of distinguished female referees in the world. However, allow me to introduce the pioneers who officiated as Jury, Referee (including Weigh-in Committee) and Technical Controller at World Senior / Junior Championships, University World Cup and Olympic Games.

The first ever referee who served at World Championships is Judy Ann Grenny from USA. She is one of the first international competitors as well as she competed at the 1986 Pannonia Tournament¹⁾. On the next year of Pannonia, she became “The First Female Weightlifting Referee” in the world at the 1st Women's World Championships in Daytona Beach, USA. Not only the title of Referee, she receive another distinction as – “The First Female Technical Controller” as well at the 11th Women's and 68th Men's World Championships in Chiang Mai, Thailand 1997 together with Peja Katharina (AUT) who is also one of distinguished technical officials and to date has officiated 14 times at World Senior / Junior Championships

and Olympic Games.

Celsa Suarez Arvarez also has the honour of being first to referee. Her first experience she governed Weigh-in at the 3rd Women's World Championships in Manchester, Great Britain, 1989. Seven years later and after five times officiating as Referee at World Senior and Junior Championships, she became the first female Jury Member at the 2nd Women's Junior, 22nd Men's Junior and 10th Women's Senior World Championships in Warsaw, 1996. Furthermore, she got the historical title as "The First Female Olympic Referee" in Atlanta 1996. Currently she is sharing the record of the hardest worker – having served 14 times in World Senior, Junior and Olympic Games – along with Peya Katharina.

Women's World Championships were organized separately for the first three years from any of men's competition (Table1).

Since the 4th Women's Senior World Championships in 1990, Women's World Championships have been combined with Junior or Senior Men's World Championships. Then Women's Junior World Championships started in 1995 and World Championships for University and College Students (the current name; "University World Cup") started in 1998 both for men and women. According to the increase of athletes, female officials increased as well. When Women's Weightlifting joined Olympic Games at Sydney 2000 Olympic Games, 7 female referees officiated; Judy Ann Grenny (USA) and Lynn Cameron (NZL) as Jury Members, Sunanta Tiemphet (THA), Su-Kwan Yang (TPE) and myself (JPN) as Referees, also Vania Mihajlova (BUL) and Perugnan Tarigan (INA) for Weigh-In Committee. Interestingly, Su-Kwan Yang and Perugnan Tarigan were pioneers as athletes as well. Both of these women competed at the 1st Women's World Championships in Daytona Beach, USA. In 2004 Athens Olympic Games, eight women officiated at becoming the second Olympic experience for four of them; Celsa Suarez Arvarez served for Weigh-In Committee, Su-Kwan Yang and Perugnan Tarigan acted as Referee and myself as Jury.

今日では多くの女性たちが国際審判の資格を獲得しており、すぐれた審判も世界中にたくさんいる。しかし、ここでは世界選手権、世界ジュニア選手権、世界大学選手権、オリンピック競技大会で任務にあたったジュリー・レフリー（検量担当者を含む）・テクニカルコントローラのパイオニアに焦点をあてたい。

世界選手権大会で初めて任務にあたった女性レフリーは、アメリカの Judy Ann Grenny である。彼女は 1986 年の Pannonia トーナメントに出場した最初の国際選手でもある¹⁾。Pannonia 大会の翌年、彼女はアメリカのデイトナビーチで行われた第 1 回の世界女子選手権大会で任務に当たることによって「世界で最初の女子ウェイトリフティングレフリー」となった。しかもレフリーのタイトルのみならず、1997 年にタイのチェンマイで行われた第 11 回世界女子選手権大会・第 68 回世界選手権大会において、これまた世界の名審判の一人で世界選手権・世界ジュニア選手権・オリンピック競技大会で通算 14 回の任務を誇る Peya Katharina (AUT) とともに「世界で最初の女子テクニカルコントローラ」にもなったのである。

Celsa Suarez Arvarez も世界初の一人である。彼女は 1989 年英國マンチェスターで行われた第 3 回世界女子選手権大会で検量を担当した。7 年後、世界 Sr.・Jr.選手権での 5 回のレフリー経験を経て、1996 年ワルシャワで開かれた第 2 回世界女子ジュニア・第 22 回世界ジュニア・第 10 回世界女子選手権大会において女子初のジュリーメンバーとなったのである。しかも彼女は 1996 年のアトランタオリンピックにおいて歴史的なタイトルである「女子初のオリンピックレフリー」となった。現在、世界女子のハードワーカー記録 14 回を Peya Katharina と共有している。

女子の世界選手権大会は、当初 3 年間は男子の大会と別個に開催された（表 1）。

1990 年の第 4 回世界女子選手権大会からは男子の世界ジュニア選手権大会あるいは世界選手権大会と同時に開催されるようになった。女子の世界ジュニア選手権大会は 1995 年から、世界大学選手権は男子と一緒に 1998 年から行われるようになった。選手数の増加と共に女性の役員も増えてきた。女子ウェイトリフティング競技が初めて仲間に加わった 2000 年シドニーオリンピックでは 7 人が任務に当たった；ジュリーメンバーとして Judy Ann Grenny (USA) と Lynn Cameron (NZL) 、レフリーとして Sunanta Tiemphet (THA) 、Su-Kwan Yang (TPE) と私 (JPN) が、Vania Mihajlova (BUL) と Perugnan Tarigan (INA) が検量を担当した。注目すべきは Su-Kwan Yang と Perugnan Tarigan である。二人はアメリカ・デイトナビーチで行われた第

1回の世界女子選手権に出場した選手のパイオニアでもある。2004年のアテネオリンピックでは8人の女性が任務に当たったが、うち4名が2度目のオリンピックとなった；Celsa Suarez Arvarezが検量員、Su-Kwan YangとPerugnan Tariganがレフリー、私がジュリーを担当した。

Table1. Women's Activities for Jury Members, Referees (including Weigh-In Committee), Technical Controllers (1987-2006)

表1 女子ジュリー、レフリー(検量担当含む)、テクニカルコントローラの活動(1987-2006)

	World Women's		World Senior				World Junior		University World Cup ^D			Olympic Games		
	R	W	J	R	T	W	J	R	J	R	T	J	R	W
1987	1	0	0	0	0	0	0	0						
1988	0	0						0	0			0	0	0
1989	0	1	0	0	0	0	0	0						
1990 ^A			0	0	0	0	0	0						
1991			0	9	0	0	0	0						
1992 ^A							0	5				0	0	0
1993			0	4	0	0	0	0						
1994			0	2	0	0	0	0						
1995 ^B			0	4	0	0	0	2				0	1	0
1996 ^C							1	3						
1997			0	6	2	0	0	3						
1998			3	5	3	0	0	7	0	2	0			
1999			1	4	0	2	2	5	0	2	0			
2000							2	4	0	3	0	2	3	2
2001			0	4	0	0	2	4	0	2	0			
2002			2	5	0	0	2	6	0	2	0			
2003			2	5	0	0	2	2	0	4	0			
2004							3	4	1	2	0	2	4	2
2005			2	6	0	0	2	6	0	2	1			
2006			2	5	1	0	3	6	2	3	0			
Total	1	1	12	59	6	2	19	57	3	22	1	4	8	4

J; Jury, R; Referee, T; Technical Controller, W; Weigh-In Committee

^A Women's Senior World Championships was combined with Men's Junior World Championships. 世界女子と男子 Jr.が合同

^B Women's World Junior Championships started. 世界女子 Jr.が始まる

^C Women's Senior and Junior World Championships were combined with Men's Junior World Championships. 世界女子と世界女子 Jr.が男子 Jr.と合同で開催される

^D The former name of "University World Cup" is "World Championships for University and College Students." 世界大学選手権の現在の名称と最初の名称

Women Officials in the IWF IWFにおける女性の役員

The IWF has had ten female officials in the past twenty years but not only as referees. Two women were elected for the first time in the IWF history; Celsa Suarez Arvarez as a member of Technical Committee and Dr. Rubio Dolores Lleonart for the Medical Committee. Both women are from Spain and

were elected on the 15th November 1992 and served two Olympic cycles in their respective committees (Table2).

The Technical Committee has accepted three female members; Celsa Suarez Arvarez (elected; 1993-1996 and 1997-2000), Judy Ann Grenny (USA, elected; 1997-2000), and myself (JPN, appointed; 2005-).

In 2005 it was the first time that the Scientific and Research Committee got female members but not only one; Yan Wang (CHN, elected), Su-Kwan Yang (TPE, elected), Celsa Suarez Arvarez (appointed) and Moira Lassen (CAN, appointed). Each four is a unique specialist. Yan Wang is the Venue Manager at Beijing 2008 Olympic Games, also the first for a woman. Su-Kwan Yang, the female pioneer of competitor is conducting athletes as University Assistant Professor. Celsa Suarez Arvarez is the pioneer of technical officials, and Moira Lassen is a strong administrator and will host the forthcoming 2008 Junior World Championships.

The Medical Committee has had consecutive female history since 1993. It's two members; Dr. Rubio Dolores Leonart (elected; 1993-1996 and 1997-2000) and Dr. Marta Baroga (ROM, appointed; 1997-2000, elected; 2001-2004 and 2005-). The current member, Dr. Baroga is one of the leaders of the Medical team. She has been involved in weightlifting for a very long time, not only as an experienced Doctor but as the wife of former Technical Committee Chairman, Lazar Baroga who passed away just before 2000 Sydney Olympic Games.

Not only in the three Committees have there been distinguished female members but also in other positions; Theofani Zora-Sgouros (GRE) was elected as Assistant General Secretary on the 8th December 2000 and currently serving for her second term. Also, Margarita Nikolova (BUL) was elected in 2005 and is now serving on the Auditors Committee; another first for women.

この 20 年間で、IWF には女性審判のみならず 10 人が役員となった。IWF の歴史で最初にその名を残したのは 2 名—Celsa Suarez Arvarez 技術委員と Dr. Rubio Dolores Leonart 医事委員一である。二人ともスペインから立候補し 1992 年 11 月 15 日に選出され、2 オリンピックサイクルの間それぞれの委員を務めた（表 2）。

技術委員会は今まで 3 人の女性メンバーを有した；Celsa Suarez Arvarez（選出・1993-1996、1997-2000）、Judy Ann Grenny（USA、選出・1997-2000）、私（JPN、指名・2005-）。

2005 年には初めて科学調査委員会が女性を迎えたが、それも一人ではなかった；Yan Wang（CHN、選出）、Su-Kwan Yang（TPE、選出）、Celsa Suarez Arvarez（指名）、Moira Lassen（CAN、指名）。これらの 4 人はそれぞれユニークなスペシャリストである。Yan Wang は 2008 年北京オリンピック大会のベニューマネジャーであり、これまた女性が任務に当たるのは初めてのことである。選手としてのパイオニアである Su-Kwan Yang は現在大学の助教授として選手を育てている。Celsa Suarez Arvarez は競技役員のパイオニア、Moira Lassen は来る 2008 年世界ジュニア選手権をホストする、たくましいアドミニストレーターである。

医事委員会には 1993 年以来継続的に女性の委員がいる。Dr. Rubio Dolores Leonart（選出・1993-1996、1997-2000）と Dr. Marta Baroga（ROM、指名・1997-2000、選出・2001-2004 と 2005-）の二名である。現在のメンバー、Dr. Baroga はメディカルチームのリーダーの一人である。彼女がウエイトリフティング競技に携わってからは非常に長い。というのも、経験豊富なドクターであるとともに、2000 年シドニーオリンピックの直前に亡くなった前技術委員会委員長の Lazar Baroga の妻だからもある。

すぐれた女性たちが所属するのは委員会だけではない。Theofani Zora-Sgouros(GRE) は 2000 年 12 月 8 日に副事務総長に選出され、現在 2 期目を務めている。また Margarita Nikolava (BUL) は 2005 年に女性として初めて監査役に選出された。

Table2 Women Officials in the IWF 表 2 IWF における女性役員

Name	Nat	Activity		From	Until
Celsa S. Alvarez	ESP	elected	Technical Committee	1992/11/15	2000/12/8
		appointed	S&R Committee	2005/5/15	
Marta Baroga,	ROM	appointed	Medical Committee	1996/12/11	2000/12/8

Dr.		elected	Medical Committee	2000/12/8	
Judy A. Glenney	USA	elected	Technical Committee	1996/12/10	2000/12/8
Reiko K. Chinen	JPN	appointed	Technical Committee	2005/5/15	
Moira J. Lassen	CAN	appointed	S&R Committee	2005/5/15	
Margarita Nikolova	BUL	elected	Auditors Committee	2005/3/4	
Rubio Dolores Leonart, Dr.	ESP	elected	Medical Committee	1992/11/15	2005/3/4
Yan Wang	CHN	elected	S&R Committee	2005/3/4	
Su-Kuan Yang	TPE	elected	S&R Committee	2005/3/4	
Theofani Zora-Sgouros	GRE	elected	Assistant Secretary	2000/12/8	

The Future 将来

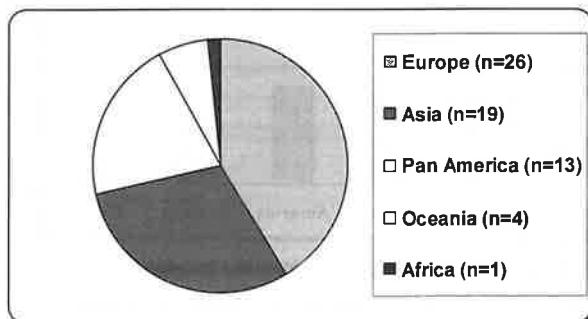
As I consider the future activity of female referees, I analyze the historical data. According to Gottfried Schödl, 63 female referees from 33 national federations served as Jury, Referee or Technical Controller until the end of 2006 at World Senior, Junior Championships, University World Cup (World Championships for University and College Students) or Olympic Games. (If we also add Doctors, Competition Secretaries, or Doping Controllers, the total number will be increased) Of the female referees, some have officiated two or more times and some only once.

Regarding the 63 referees, 26 are European (41.3% of 63 referees), 19 are Asian (30.2% of 63), 13 are Pan American (20.6% of 63), 4 are Oceania (6.4% of 63) and 1 is African (1.6% of 63). (Figure1)

女子審判の将来を考える上で、歴史的なデータを分析しようと思う。Gottfried Schödlによると、2006年末までに33カ国から63名の女性がジャッジ、レフリー、テクニカルコントローラとして世界Sr.・Jr.大学選手権・オリンピック競技大会で任務に当たった（ドクターやコンペティションセクレタリー、ドーピングコントローラを加えるともっと多くなる）。これらの中には2回以上任務に当たった者もいれば、1回だけの者もいる。

63名について、26名がヨーロッパから(41.3%)、19名がアジアから(30.2%)、13名がアメリカ大陸から(20.6%)、4名がオセアニアから(6.4%)、1名がアフリカから(1.6%)の代表である（図1）。

Figure1 Distribution on Continent for Female Referees* Officiated at Senior, Junior World Championships, University World Cup and Olympic Games (1987-2006)
図1 世界 Sr.・Jr.・大学選手権・オリンピックで任務に当たった女性審判の大陸分布 (1987-2006)



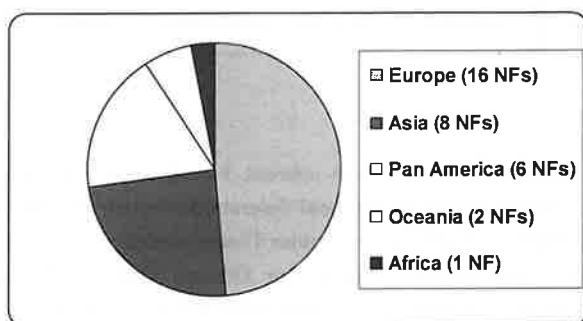
* Jury Members, Referees (including weigh-in committee) and Technical Controllers are contained. (ジャッジ、レフリー、テクニカルコントローラが含まれる)

Regarding the 33 national federations, the highest was 16 of Europe (48.5% of 33 NFs). 8 are from Asia (24.2% of 33), 6 are from Pan America (18.2% of 33), 2 are from Oceania (6.1% of 33) and 1 is from Africa (3.0% of 33). (Figure2)

33 の NF のうち最多は 16 のヨーロッパ (48.5%)、次いで 8 のアジア (24.2%)、6 がアメリカ (18.2%)、2 がオセアニア (6.1%)、1 がアフリカ (3.0%) である (図 2)。

Figure2 Distribution on Continent for National Federations Delegating Female Referees* to World Senior, Junior Championships, University World Cup and Olympic Games (1987-2006)

図 2 世界 Sr.・Jr.・大学選手権・オリンピックで任務に当たった女性審判の所属する NF についての大陸分布(1987-2006)



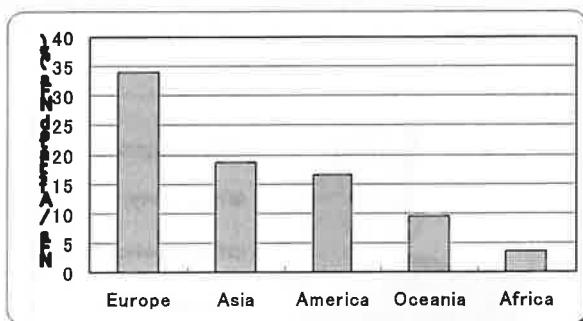
* Jury Members, Referees (including weigh-in committee) and Technical Controllers are contained.

As the total number of affiliated national federation differs from each continent, the following is a calculation of the percentage of national federations that have been delegating female referees per total number of national federations in each continent (Figure3). This Figure shows that still Europe has sent female referees the most out of the five continents.

大陸内の NF 数が大陸ごとに異なるため、女性審判を輩出した NF 数を各大陸に所属する NF 数あたりで算出してみた (図 3)。この図から見ても、五大陸の中でヨーロッパが最高であることがわかる。

Figure3 Distribution on Continent of National Federations Delegating Female Referees* per Number of Continental Affiliated Federations**

図 3 大陸の総 NF 数あたりの女性審判を輩出した NF 数(1987-2006)



* Jury Members, Referees (including weigh-in committee) and Technical Controllers are contained.

** Affiliated NFs at 27 Oct 2006: Europe; 47, Asia; 43, Pan America; 36, Oceania; 21, and Africa; 29.

(大陸の総 NF 数は 2006 年 10 月 27 日現在ヨーロッパ 47、アジア 43、アメリカ 36、オセアニア 21、アフリカ 29)

However, if compared with diffusion status of female athletes, it would be difficult to say female referees are developed enough, even in Europe. Table 4 shows the percentage of national federations that

took part in qualifying events for Athens 2004 reported by the IOC²⁾ and another table that delegated female referees to World Senior; Junior Championships, University World Cup and Olympic Games (1987-2006, as well as Figure3). The mean percentage of national federations delegating female athletes to the qualifying events for Athens was 44% (ranged 31% to 93% by continent). This average (44%) is 21% (-31% to +7%) lower than that of male athletes (65%). The mean percentage of national federations that own international-experienced female referees counted from 1987 to 2006 was 18.8% (3.4% to 34.0%). This average (18.8%) is 25.2% lower than that of athletes participating in the qualify event counted for only one year (44%).

As for the participation of female athletes, the percentage of 44% and the gender difference of -21% does not seem to be so terrible in the 40 disciplines of 28 Olympic Sports; the 44% participation was better than the average of whole 40 disciplines (43%), the -21% difference was better than that of Football (-38%), Tennis (-31%), Canoe Flat water (-31%), Wrestling Free Style (-28%), Canoe Slalom (-26%), and Cycling Road (-26%). However, there exists many Olympic Sports that women's participation is equivalent to men's. Even among so-called "Men origin sports," the -21% difference in weightlifting is not the smallest (Judo; -15%). This data suggests participation of female athletes may not be high enough in our sport. Therefore, total amount of international-experienced female referees is considered to be quite few; however, there is no statistical IOC data for referees. In my opinion women in competition do not require to be judged only by other women, however, if we reference other sports such as Gymnastics Artistic, female referees should be increased.

Table5 shows the status quo of nominating female referees for the latest World Championships. Three Championships of 2005 World Senior (Doha, Qatar), 2006 World Junior (Hangzhou, China) and 2006 World Senior (Santo Domingo, Dominican Republic) were used for the statistics as those championships were organized in the Middle East, East Asia and Pan America respectively, considered to be covering a wide area in the world.

It deserves attention that only around ten female referees were nominated in each championship from over 170 affiliated national federations. Europe has sent the highest number of female referees in the five continents (Figure 1-3) but Table5 shows European women are not fortunate enough to be nominated and that gentlemen are much more likely to be nominated. Although gender equality of referees seems to be better in Pan America and Asia, the number of female nomination never exceeded half that of the men. The Technical Committee will have to contrive how to encourage the nomination of female referees.

とはいいうものの、選手数から考えればヨーロッパでさえも女性審判が多いとは言いがたい。表4は2004年アテネオリンピック参加枠獲得対象大会である2003年世界選手権に参加した大陸ごとのNFのパーセンテージ(IOCのデータ²⁾)と、世界Sr.・Jr.・大学・オリンピックに女性審判を輩出したNF(1987-2007、表3と同)を示したものである。五大陸平均では2003年世界選手権に選手を派遣したNFの割合は44%(範囲は31-93%)であった。この44%という値は男子の平均値65%より21%低い(範囲はマイナス31%・プラス7%)。1987年から2006年までの間に国際大会を経験した女性レフリーを有するNFの割合は五大陸平均で18.8%(範囲は3.4%-34.0%)であり、たったの1年で見た選手の派遣割合(44%)に比べ25.2%も低いのである。

ちなみに女性選手の参加割合における21%という性差はオリンピック28競技40種目の中でも悪いほうではないだろう。女性の派遣割合44%は全40種目の平均値である43%を上回り、21%の性差はサッカー(性差38%)、テニス(性差31%)、カヌー・フラットウォーター(性差31%)、レスリング・フリースタイル(性差28%)、カヌー・スラローム(性差26%)、自転車・ロード(性差26%)よりも小さい。しかし、多くの競技において男女差がないのも事実である。「そもそも男子の競技」であるスポーツにおいてでさえ、21%の性差は最小ではない(最小性差は柔道の15%)。このデータから、我々の競技において選手でさえ女子が多いとは言うことはできないであろう。したがってIOCのデータにはその項目はないとは言え、女性審判の少なさはなおさらと言えよう。私の個人的な意見としては、必ずしも女子の競技は女子の審判だけで判定する必要はないと思っている。しかし他の体操競技などを鑑みると、もう少し女性の審判が増えてもいいのではないか。

表5は2005年の世界選手権(ドーハ、QAT)、2006年の世界ジュニア選手権(杭州、CHN)、2006年の世界選手権(サントドミンゴ、DOM)から、大陸ごとのレフリーへのノミネ

ート状況を見たものである。これらの大会は中東、東アジア、アメリカ大陸で開催されているので、比較的世界規模で考えることができるであろう。

注目すべきは、170超の NF の中からいずれの大会も 10 人前後の女性しかノミネートされていないということである。ヨーロッパ大陸が最多の女性審判を有している（図 1-3）とはいって、表 5 を見るとそのノミネート状況は全くもって芳しくなく、逆に男性がこぞってノミネートしていることがわかる。男女審判の平等性はアメリカ大陸とアジアで比較的良好に思えるが、それでも女性のノミネート割合が男性の半分に達する大陸は皆無である。IWF 技術委員会は女性のノミネート数を増やすために工夫する必要がある。

Table4 Distribution on Continent for National Federations that took part in Qualifying Events for Athens 2004²⁾ and that Delegated Female Referees during 20 years per Number of Continental Affiliated Federations

表 4 2003 年世界選手権に出場した NF と、20 年で女性審判を輩出した NF の各大陸分布

	NFs took part in qualifying events for Athens 2004 ^{2) A}			NFs have sent Female Referees (1987-2006) ^B	
	Men	Women	Δ%	Women	Δ%
	%	%	(%W-%M)	%	(%Referee-%Athletes)
Africa	58	35	-17	3.4	-31.6
America	47	31	-16	16.7	-14.3
Asia	63	38	-25	18.6	-19.4
Europe	80	51	-31	34.0	-17.0
Oceania	86	93	+7	9.5	-83.5
Average	65	44	-21	18.8	-25.2

²⁾ IOC Olympic Programme Commission: Report to the 117th IOC Session, 2005. (2005 年第 117 回 IOC 総会で用いられた IOC オリンピックプログラムコミッションのデータより)

^A Total number of affiliated national federations was 172 at this moment. (この時の総 NF 数は 172)

^B Jury Members, Referees (including weigh-in committee) and Technical Controllers are contained.

N=176 at 27 Oct 2006 is used as the number of affiliated national federation for the calculation. (ジュリー、レフリー、検量員、テクニカルコントローラが含まれる。この時の計算には 2006 年 10 月 27 日現在の総 NF 数 176 を用いた)

Table5 Distribution on Continent for National Federations Nominated Female Officials to 2005 and 2006 World Championships and 2006 Junior World Championships

表 5 2005 年世界選手権、2006 年世界 Jr. 選手権・世界選手権のレフリーノミネート状況

	2005 World Senior Championships, Doha, QAT			2006 World Junior Championships, Hangzhou, CHN			2006 World Senior Championships, Santo Domingo, DOM		
	Men	Women	W/M	Men	Women	W/M	Men	Women	W/M
	n	n	%	n	n	%	n	n	%
Africa	2	0	0.0	1	0	0.0	8	0	0.0
America	6	3	50.0	6	3	50.0	10	3	30.0
Asia	13	6	46.2	10	4	40.0	12	4	33.3
Europe	26	2	7.7	17	3	17.6	26	3	11.5
Oceania	2	0	0.0	0	0	N/A	1	0	0.0
Total	49	11	22.4	34	10	29.4	57	10	17.5
Total NF*	40	11	27.5	29	10	34.5	47	10	21.3

* Total number of national federations that nominated officials. (レフリーをノミネートした NF の総数)

Good competition organizers can also be good referees and it does not matter whether the competition is international or domestic; one gains from the experience. I hope many women will take part in organizing competitions all over the world; then those women will result in the increase of active female referees.

すぐれた大会運営員はすぐれた審判になり得る。大会の運営の苦労は国際大会であろうが国内大会であろうが同じである。私は一人でも多くの女性が世界中で大会運営に関わり、その結果としてすぐれた女性審判の増加につながってほしいと考えている。

Acknowledgements 謝辞

This article is supported by a lot of data owned by Mr. Gottfried Schödl. He was one of the strong leaders to bring women in our sport. I am grateful to him; not only to make it possible for me to complete this article with factual research, but also for letting me join the sport of Olympic Weightlifting.

この原稿はGottfried Schödl氏の有する多くのデータによって支えられています。彼は女性がこのスポーツの仲間入りを果たす上での強力なリーダーの一人がありました。私がこの原稿を事実に基づいて完成させることができただけでなく、私をオリンピックスポーツであるウェイトリフティングにかかわらせて頂くことができたことに対し、彼に感謝いたします。

Reference 参考文献

- ① Gottfried Schödl: The Lost and Past. pp 38-47, 135-147, 155-157, Gutenberg Ltd., Budapest, 1992.
- ② International Olympic Committee Olympic Programme Commission: Report to the 117th IOC Session. pp 171-176, International Olympic Committee, 2005.

第27回全日本ジュニア選手権大会

2007年3月10(土)～11(日)

埼玉県さいたま市 さいたま市記念総合体育館(Vアリーナ)

日本ウエイトリフティング協会普及委員

JOC強化スタッフ 情報・戦略担当

宮田 秀樹

埼玉県ウエイトリフティング協会理事

2003年10月に開催された第59回国民体育大会の会場でした『さいたま市記念総合体育館』で上記大会が開催されました。この会場は2008年8月のインターハイ開催が予定されており、我々埼玉県関係者は現在、鋭意準備に取り組んでおります。

今大会は例年のジュニア選手権よりも参加人数が増え、タイトな日程ながらも随所に新記録樹立や白熱した優勝争いが展開され手に汗を握る場面も多々ありました。以下にこの模様を簡単に記したいと思います。

男子56kg級では立命館大学の中川選手と沖縄、名桜大学の大濱選手の優勝争いがクリーン＆ジャーク3回目まで持ち越され、逆転の124kgを惜しくも大濱選手が失敗し、スナッチのリードを中川選手が守りきり優勝しました。

続く男子62kg級では、2階級制覇を狙う法政大学の中山選手と、この階級2連覇を目指す九州国際大学の中村選手がスナッチ113kgで並び、ジャーク勝負となりましたが、体重も軽く、見事3本成功させた中山選手が見事2階級制覇を成し遂げました。

その後は女子48、53、58kg級の3階級が行われました。中でも48kg級はスナッチ6kg差のビハインドを金沢学院大学の中部選手が乾坤一擲のジャークで同記録体重差の逆転優勝果たし、場内を盛り上げました。

男子69kg級では須磨友が丘高校の和田選手がクリーン＆ジャーク152kgの高校新記録を樹立し、スナッチの劣勢を跳ね返し逆転優勝しました。同選手はBSQ176kgながら身体資源を有効活用したスキルフルなクリーンを披露してくれました。日も傾き、1日目の締めくくりとなる男子77kg級では福島医療専門学校の金子選手がこれもまた逆転ジャークで優勝しました。

大会2日目、女子63、69kg級から競技が始まり、63kg級では沖縄、南風原高校の宮平選手がスナッチ86kg、トータル186kgの高校新記録を樹立し見事優勝に花を添えました。また69kg級では金沢学院大学の谷選手が2連覇を飾りました。

男子85kg級では上位3名の記録が1kg差以内と非常に混沌とした試合展開でしたが、その中で頭一つ抜け出した四日市高校の衛藤選手が表彰台の中央に立ちました。

期待の高校2年生である九州国際大学付属高校の白石選手が男子94kg級に登場し、大器の片鱗を感じさせるリフティングで、ジャーク3回目で体重差優勝を決めました。

いよいよ大会も大詰めとなり、男女の最重量級を残すのみとなりました。女子+75kg級には記録更新の期待がかかる金沢学院大学の嶋本選手が出場し、期待通りの活躍でスナッチ97kg、クリーン＆ジャーク127kg、トータル224kgと3つのジュニア日本新記録を立て続けに達成し、会場を沸かせました。

今年からルールの一部変更があり、浸透しきれていない場面も見受けられましたが、特にトラブルもなく無事全競技が終了しました。閉会式ではクリスタルな輝きを放つジュニアオリンピックカップが男子62kg級の中山選手、女子+75kg級嶋本選手の手に渡り、高々と誇らしげに掲げられました。両名にはこの栄光を糧として、更なる飛躍をされることを切に願っております。

末筆ながら大会開催あたり、協賛して頂きました団体、企業ならびに競技関係者の並々ならぬご尽力に感謝申し上げます。

＜世界ジュニア選手権大会代表選手＞ 6月7～16日 チェコ共和国プラハ市

男子=56kg級 中川大樹選手、62kg級 中山陽介選手、中村友生選手、69kg級 和田大河選手、94kg級 白石宏明選手

女子=48kg級 中部有理選手、53kg級 竹下菜緒選手、63kg級 宮平奈美子選手、69kg級 谷綾野選手、+75kg級 嶋本麻美選手

以上10選手の健闘を祈念致します。



56kg級優勝**中川 大樹 選手**

立命館大学→日川高校

S=100kg C&J=120kg T=220kg

**Q1 優勝した感想は？**

調子が下がっていたので、ここで良い結果が得られとても良かった。

Q2 今回の出来の自己採点とその点数の理由は？

85点(100点満点)

調子があまり良くなかったが、試合で良い結果が得られたから。

Q3 ベスト記録は？

S=102kg C&J=120kg PJ=100kg BSQ=152kg FSQ=140kg MP=60kg
HS=87kg HC=107kg DL(S)=135kg DL(J)=155kg PP=85kg

Q4 身長、普段の体重は？

163cm 57kg

Q5 自分自身のリフティングにおける持ち味(長所)は？

瞬発力

Q6 次の試合とその目標記録は？

次の試合では自己新記録をとりたい。

62kg級優勝**中山 陽介 選手**

法政大学→日川高校

S=113kg C&J=138kg T=251kg

**Q1 優勝した感想は？**

気持ち良かったです。

Q2 今回の出来の自己採点とその点数の理由は？

100点(100点満点)

S、J共に自己新記録が出たから。

Q3 ベスト記録は？

S=113kg C&J=138kg PJ=120kg BSQ=182kg FSQ=150kg MP=75kg
HS=95kg HC=115kg DL(S)=150kg DL(J)=170kg PP=95kg

Q4 身長、普段の体重は？

160cm 61.5kg

Q5 自分自身のリフティングにおける持ち味(長所)は？

成功率が良いことです。

Q6 次の試合とその目標記録は？

世界ジュニア大会でトータル260kg。

69kg級優勝**和田 大河 選手**

須磨友が丘高校

S=110kg C&J=152kg HR T=272kg

**Q1 優勝した感想は？**

素直に嬉しい。

Q2 今回の出来の自己採点とその点数の理由は？

80点(100点満点)

どちらも自己新記錰だったが、6本成功できなかったので80点。

Q3 ベスト記録は？

S=110kg C&J=152kg PJ=125kg BSQ=176kg FSQ=162.5kg MP=65kg
HS=90kg HC=120kg DL(S)=160kg DL(J)=180kg PP=100kg

Q4 身長、普段の体重は？

171cm 67kg

Q5 自分自身のリフティングにおける持ち味(長所)は？

特になし。

Q6 次の試合とその目標記録は？

次の試合はわからないが、S 122kgのC&J155kgしたい。

77kg級優勝**金子 和央 選手**

福島医療専門学校→田村高校

S=118kg C&J=152kg T=270kg

**Q1 優勝した感想は？**

優勝は出来ると思わなかったのでうれしいです。

Q2 今回の出来の自己採点とその点数の理由は？

90点(100点満点)

ジャークでは自己新が出来てよかったです、スナッチでは自己ベストより低い記録だったので。

Q3 ベスト記録は？

S=122kg C&J=152kg PJ=130kg BSQ=180kg FSQ=160kg MP=90kg
HS=100kg HC=130kg DL(S)=120kg×5 DL(J)=150kg×5 PP=100kg

Q4 身長、普段の体重は？

170cm 75kg

Q5 自分自身のリフティングにおける持ち味(長所)は？

セカンドからのキャッチへのスピード。

Q6 次の試合とその目標記録は？

団体に出て入賞すること。目標S 130kg, C&J160kg。

85kg級優勝 衛藤 靖弘 選手 四日市高校

S=125kg C&J=156kg T=281kg



Q1 優勝した感想は？

とても優勝はできるとはおもわなかつたので、とてもうれしかつた。

Q2 今回の出来の自己採点とその点数の理由は？

75点(100点満点)

自己ベストに遠かつたから。6本成功じやなかつたから。

Q3 ベスト記録は？

S=132kg C&J=160kg PJ=120kg BSQ=225kg FSQ=180kg MP=70kg
HS=115kg HC=150kg DL(S)=190kg DL(J)=200kg PP=110kg

Q4 身長、普段の体重は？

173cm 87kg

Q5 自分自身のリフティングにおける持ち味(長所)は？

自分のペースで試合ができるこつ。

Q6 次の試合とその目標記録は？

6本成功して、S 140kg, C&J170kg。

94kg級優勝 白石 宏明 選手 九州国際大学付属高校

S=125kg C&J=167kg T=292kg



Q1 優勝した感想は？

自分の得意なジャークで優勝できてうれしいです。

Q2 今回の出来の自己採点とその点数の理由は？

70点(100点満点)

1回目は落とすなと言われてきたのに落としたから。

Q3 ベスト記録は？

S=125kg C&J=172kg PJ=140kg BSQ=225kg FSQ=205kg MP=78kg
HS=110kg HC=140kg DL(S)=200kg DL(J)=210kg PP=90kg

Q4 身長、普段の体重は？

178cm 91kg

Q5 自分自身のリフティングにおける持ち味(長所)は？

最後まであきらめない。

Q6 次の試合とその目標記録は？

全国選抜で高校記録更新。

105kg級優勝 小林 弘幸 選手 中央大学附属高校

S=131kg C&J=170kg T=301kg



Q1 優勝した感想は？

安心した。

Q2 今回の出来の自己採点とその点数の理由は？

20点(100点満点)

自分の力不足を感じた。

Q3 ベスト記録は？

S=133kg C&J=173kg PJ=130kg BSQ=251kg FSQ=215kg MP=90kg
HS=115kg HC=150kg DL(S)=180kg DL(J)=200kg PP=130kg

Q4 身長、普段の体重は？

164cm 108kg

Q5 自分自身のリフティングにおける持ち味(長所)は？

足が強い。

Q6 次の試合とその目標記録は？

次の試合は決まっていませんが、記録はS 140kg, C&J180kg。

+105kg級優勝 大西 敦平 選手 日本大学附属津工業高校

S=137kg C&J=172kg T=309kg



Q1 優勝した感想は？

久しぶりに優勝できたことに、とてもうれしいです。

また自己新記録がとれたことはとてもうれしいと思いました。

Q2 今回の出来の自己採点とその点数の理由は？

95点(100点満点)

Sでは自分が思い描いたSができたので、とてもいい試技ができました。

しかしC&Jのほうでは、3本目のJの際、体がそつた状態でさしたので、しっかりと体の中心に重量が落ちずに後ろに飛んでいったことが少し心残りになっています。

Q3 ベスト記録は？

S=137kg C&J=176kg PJ=165kg BSQ=265kg FSQ=210kg MP=115kg
HS=115kg HC=155kg DL(S)=230kg DL(J)=240kg PP=140kg

Q4 身長、普段の体重は？

176cm 135kg

Q5 自分自身のリフティングにおける持ち味(長所)は？

自分の長所はどれだけ力で持っていくかという点が長所です。

またDLの強くしていった所が自分の持ち味だと思います。

Q6 次の試合とその目標記録は？

次の試合では6本取りというしっかりと成功率を高めることです。

また自己新記録への挑戦です。

48kg級優勝 中部 有理 選手 金沢学院大学→須磨友が丘高校 S=62kg C&J=86kg T=148kg



Q1 優勝した感想は？

とても嬉しいです。優勝できたのは、指導してくださった先生や応援してくれた先輩や友人のおかげです。

Q2 今回の出来の自己採点とその点数の理由は？

45点(100点満点)

SがぜんぜんダメだったのとCもDLや立ちが重いからです。

Q3 ベスト記録は？

S=64kg C&J=86kg PJ=70kg×2 BSQ=112.5kg FSQ=92.5kg MP=43kg
HS=52.5kg HC=70kg DL(S)=80kg DL(J)=90kg×3 PP=60kg

Q4 身長、普段の体重は？

148cm 48kg

Q5 自分自身のリフティングにおける持ち味(長所)は？

試合が好きなところです。

Q6 次の試合とその目標記録は？

まだ決まっていませんが、S 65kgは絶対とりたいです。

53kg級優勝 竹下 菜緒 選手 金沢学院大学→加悦谷高校 S=77kg C&J=93kg T=170kg



Q1 優勝した感想は？

とても嬉しいです。

Q2 今回の出来の自己採点とその点数の理由は？

60点(100点満点)

3本目のジャークが決められなかったからです。

Q3 ベスト記録は？

S=77kg C&J=95kg PJ=80kg BSQ=130kg FSQ=105kg MP=50kg
HS=58kg HC=78kg DL(S)=110kg DL(J)=120kg PP=70kg

Q4 身長、普段の体重は？

145cm 52kg

Q5 自分自身のリフティングにおける持ち味(長所)は？

スナッチ

Q6 次の試合とその目標記録は？

スナッチ80 ジャーク98

58kg級優勝 谷口 亜純 選手 立命館大学→加悦谷高校 S=75kg C&J=93kg T=168kg



Q1 優勝した感想は？

優勝したことは嬉しかったですが、記録がダメなので素直に喜べません。

Q2 今回の出来の自己採点とその点数の理由は？

40点(100点満点)

記録が悪かったので

Q3 ベスト記録は？

S=79kg C&J=93kg PJ=80kg BSQ=135kg FSQ=103kg MP=50kg
HS=55kg HC=77.5kg DL(S)=100kg DL(J)=115kg PP=62.5kg

Q4 身長、普段の体重は？

150cm 56.5kg

Q5 自分自身のリフティングにおける持ち味(長所)は？

瞬発力

Q6 次の試合とその目標記録は？

次の試合はまだ未定ですが1日でも早くS80 J100をしたいです。

63kg級優勝 宮平 奈美子 選手 南風原高校 S=86kgHR C&J=100kg T=186kgHR



Q1 優勝した感想は？

スナッチ、トータルの高校新記録が取れて嬉しいです。

Q2 今回の出来の自己採点とその点数の理由は？

82点(100点満点)

6本中3本しか成功していないし、集中力が少し欠けていたから。

Q3 ベスト記録は？

S=122kg C&J=152kg PJ=130kg BSQ=180kg FSQ=160kg MP=90kg
HS=100kg HC=130kg DL(S)=120kg×5 DL(J)=150kg×5 PP=100kg

Q4 身長、普段の体重は？

156cm 64kg

Q5 自分自身のリフティングにおける持ち味(長所)は？

ウェイトリフティングが好き。

Q6 次の試合とその目標記録は？

次の試合ではジュニア日本新記録を狙います。

69kg級優勝**谷 緑野 選手**

金沢学院大学←滑川高校

S=84kg C&J=104kg T=188kg



Q1 優勝した感想は？

とても嬉しいです。

Q2 今回の出来の自己採点とその点数の理由は？

50点(100点満点)

怪我もあったのですが、重量を下げていたのに確実に取ることができなかつたのは気持ちに甘さがあったからだと思います。

Q3 ベスト記録は？

S=90kg	C&J=112kg	PJ=120kg	BSQ=155kg	FSQ=132.5kg	MP=70kg	
HS=72kg	HC=92kg			DL(S)=122.5kg	DL(J)=130kg	PP=75kg×3

Q4 身長、普段の体重は？

156cm 71kg

Q5 自分自身のリフティングにおける持ち味(長所)は？

長所とは言えませんが、いつもスピードを意識しています。

Q6 次の試合とその目標記録は？

世界Jrに出場し、日本新記録を取りたいです。

75kg級優勝**井上 佐織 選手**

四日市中央工業高校

S=80kg C&J=107kg T=187kg



Q1 優勝した感想は？

初めてのジュニアの大会で優勝したのでうれしかったのですが、高校新記録があげられなかったので悔しいです。

Q2 今回の出来の自己採点とその点数の理由は？

80点(100点満点)

スナッチ83kgもあげられなかったし、ジャーク113kgあげられなかったから。

Q3 ベスト記録は？

S=80kg	C&J=106kg	PJ=100kg	BSQ=160kg	FSQ=130kg	MP=50kg	
HS=70kg	HC=95kg			DL(S)=130kg	DL(J)=140kg	PP=73kg

Q4 身長、普段の体重は？

160cm 76kg

Q5 自分自身のリフティングにおける持ち味(長所)は？

足が強いところ。

Q6 次の試合とその目標記録は？

全日本の大会でスナッチ90kgのジャーク120kgあげるのが目標です。

+75kg級優勝**嶋本 麻美 選手**

金沢学院大学←和歌山東高校 S=97kgJNR C&J=127kgJNR T=224kgJNR



Q1 優勝した感想は？

ジュニア新記録がとれて嬉しいです。

Q2 今回の出来の自己採点とその点数の理由は？

80点(100点満点)

スナッチ3本目の100kgがとれなかった。

Q3 ベスト記録は？

S=98kg	C&J=123kg	PJ=95kg	BSQ=177kg	FSQ=140kg	MP=65kg	
HS=80kg	HC=108kg			DL(S)=145kg	DL(J)=170kg	PP=95kg

Q4 身長、普段の体重は？

165cm 100kg

Q5 自分自身のリフティングにおける持ち味(長所)は？

スナッチ

Q6 次の試合とその目標記録は？

100の130



第 22 回全国高等学校ウエイトリフティング競技選抜大会観戦記

上田 貢

第 22 回全国高等学校選抜大会が 3 月 25 ~ 27 日に、石川県金沢市「石川県産業展示館 2 号館」にて開催され、全国 71 校から女子 47 名、男子 97 名、総勢 144 名の選手が参加しました。

この大会は、本年度より始まる国のスポーツ拠点づくり推進事業として、石川県にて開催される記念すべき第一回目の大会となりました。その上、高校生たちにとっては、今シーズン最後の大会となり、練習の成果を発揮する絶好の場であり、また来シーズンに向けての課題や目標を設定する為の重要な大会である思います。

今大会では、各階級で熾烈な優勝争いが繰り広げられる中、多くの階級で 1 年生の活躍が目にとまりました。また、女子 63kg 級以外の階級で西日本地区の高校生が優勝し、西日本勢の勢いを感じられた大会でもありました。本大会は、選抜大会ということで、出場できなかった選手にとっては出場が次の目標となり、思うような結果が出せなかつた選手にとっては悔しさが次の試合へのバネとなり、また、今回 1 年生にせまられたり、負けたりした 2 年生にとっては大きな刺激となり、今後今まで以上に競技力の向上を目指すといった感じで全選手にとって大変有意義な大会になっているように思います。

また、全ての階級で共通して言えることは、やはり成功率の高い選手は試合中に安定感や落ち着きがみられ、結果的に上位に位置づけているということです。つまり、上位に位置づけるには、S・C & J 合わせて最低 4 本以上成功させることが非常に重要になってくるように思います。実際、今大会でも優勝者のほとんどが、トータル 4 本以上成功させています。その為にも、普段の練習でどれだけ試合をイメージした練習ができるか、また逆に、試合の時どれだけ平常心をもって試合に臨めるかなどといったメンタル面での鍛錬が必要になってくると思います。

大会を終えて、最優秀選手には大会新記録 4 個樹立した男子 69kg 級白草竜太選手（大阪産業大学附属）が、女子は 53kg 級具志堅美沙希選手（南部工業）が選ばれました。試合期間中、能登半島地震というアクシデントに見舞われたものの、特にトラブルが起こることなく、全ての選手がベストを尽くし大変素晴らしい戦いを繰り広げてくれました。そして、3 日間の試合を通して、7 つの大会新記録が樹立され、将来有望な選手も大勢みられ、大変素晴らしい大会となりました。

第 22 回全国高等学校選抜大会優勝者インタビュー



女子 48kg 級 優勝

伊藤 奈央（三重県・四日市中央工業高校）1 年 競技年数（3 年）

S58kg C&J81kg(大会新) T139kg

〈優勝の感想〉 うれしい。でも自分のベストが挙がらなかつたので
今度の試合では、ベストを上げたい。

〈自己ベスト〉 S61, C&J83, BSq110, FSq95, DL110, HS50, HC65

〈目標〉 オリンピックに出て、メダルをとる。



女子 53Kg 級 優勝

具志堅美沙希（沖縄県・南部工業高校）2年 競技年数(2年)

S76kg C&J88kg T164kg

〈優勝の感想〉 うれしい。記録を伸ばしたい。

〈自己ベスト〉 S80, C&J90, BSq135, FSq95, DL110, HS70, HC75

〈目標〉 スナッチは、高校新記録を出したい。ジャークは100kgを目標に頑張りたい。



女子 58Kg 級 優勝

木下ちひろ（京都府・鳥羽高校）2年 競技年数(2年)

S69kg C&J82kg T151kg

〈優勝の感想〉 ベストを出して優勝することができ、嬉しかったですが更なる目標に向けて課題を克服して行きたいです。

〈自己ベスト〉 S67, C&J81, BSq105, FSq92, DL93, HS57, HC67

〈目標〉 夏の大会で優勝すること。



女子 63Kg 級 優勝

柿沼 沙苗（埼玉県・埼玉栄高校）1年 競技年数(1年)

S66kg C&J89kg T155kg

〈優勝の感想〉

〈自己ベスト〉 S71, C&J85, BSq117, FSq107, DL120, HS55, HC80

〈目標〉 全国女子までにS75, C&J93をとる！！足を強くする。



女子 69Kg 級 優勝

嶋本 愛（和歌山県・和歌山東高校）2年 競技年数(2年)

S69kg C&J84kg T153kg

〈優勝の感想〉

〈自己ベスト〉 S70, C&J86, BSq125, FSq110, DL110, HS61, HC77

〈目標〉 姉と同じレベルになること。



女子 75Kg 級 優勝

仲村 理奈（沖縄県・豊見城高校）1年 競技年数(1年)

S74kg C&J93kg T167kg

〈優勝の感想〉 嬉しかったです。ライバルに勝てたのが1番良かったと思います。

〈自己ベスト〉 S75, C&J92, BSq142, FSq110, DL125, HS60, HC80

〈目標〉 国際大会でメダルをとりたい。



女子 +75Kg 級 優勝

藤岡 佳菜 (岡山県・倉敷商業高校) 1年 競技年数(1年)

S74kg C&J93kg T167kg

〈優勝の感想〉 自分一人の力で出来た優勝ではないので、みんなに感謝の気持ちです。

〈自己ベスト〉 S66, C&J82, BSq134, FSq115, DL115, HS-, H72

〈目標〉 63Kg 級秋山と一緒に優勝！！



男子 53Kg 級 優勝

坂元 司 (宮崎県・小林高校) 2年 競技年数(2年)

S91kg C&J108kg T199kg

〈優勝の感想〉 嬉しい部分もあれば、くやしい部分もある。

〈自己ベスト〉 S94, C&J115, BSq140, FSq115, DL120, HS75, HC95

〈目標〉 三冠すること。



男子 56Kg 級 優勝

東門 勇将 (沖縄県・那覇高校) 2年 競技年数(2年)

S92kg C&J109kg T201kg

〈優勝の感想〉 優勝して嬉しいけど…記録は納得出来ない。

〈自己ベスト〉 S92, C&J112, BSq150, FSq130, DL140, HS86, HC102

〈目標〉 インターハイと国体で1位をとりたい。



男子 62Kg 級 優勝

金城 聖丸 (沖縄県・豊見城高校) 1年 競技年数(4年)

S100kg C&J131kg T231kg

〈優勝の感想〉 正直な気持ち満足はしていません。スナッチではあまりいい試技が出来なくて悔しいです。だけど、ジャークで自己新を出し1年生で優勝できたので良かったです。

〈自己ベスト〉 S105, C&J131, BSq187.5, FSq145, DL180, HS90, HC110

〈目標〉 2階級制覇し、高校新記録を作りたい。将来的には、日本を代表する選手になりオリンピックに出場したい。



男子 69Kg 級 優勝

白草 竜太 (大阪府・大阪産大附属高校) 2年 競技年数(7年)

S113kg(大会新) C&J144kg(大会新) T257kg(大会新)

〈優勝の感想〉 嬉しかったが、トータル260kgをおさえたかったです。

〈自己ベスト〉 S117, C&J145, BSq185, FSq175, DL190, HS90, HC125

〈目標〉 もっと記録を伸ばしたいです。



男子 77Kg 級 優勝

関野 祐太（京都府・加悦谷高校）2年 競技年数(5年)

S108kg C&J138kg T246kg

〈優勝の感想〉 減量に不安がありましたが、優勝できた事は、とても価値のある事でとても嬉しかったです。優勝できて本当に良かったです。

〈自己ベスト〉 S110, C&J135, BSq185, FSq140, DL170, HS90, HC125

〈目標〉 インターハイと国体で優勝することです。



男子 85Kg 級 優勝

大村 祐之（京都府・加悦谷高校）2年 競技年数(4年)

S110kg C&J143kg T253kg

〈優勝の感想〉 優勝したのは、とても嬉しかったです。でもスナッチで自己新を取れなくて悔しかったです。

〈自己ベスト〉 S113, C&J143, BSq190, FSq170, DL175, HS105, HC130

〈目標〉 インターハイと国体で優勝すること。



男子 94Kg 級 優勝

白石 宏明（福岡県・九州国際大学附属高校）2年 競技年数(2年)

S127kg(大会新) C&J155kg T282kg(大会新)

〈優勝の感想〉 最高に嬉しいです。

〈自己ベスト〉 S127, C&J172, BSq225, FSq215, DL220, HS110, HC140

〈目標〉 オリンピック出場



男子 105Kg 級 優勝

前田 拓哉（京都府・加悦谷高校）2年 競技年数(4年)

S111kg C&J148kg T259kg

〈優勝の感想〉 とにかく嬉しいです。予選記録が悪かっただけに最後の逆転ジャークはとても嬉しかったです。

〈自己ベスト〉 S110, C&J145, BSq220, FSq170, DL200, HS95, HC130

〈目標〉 インターハイで優勝します。



男子 +105Kg 級 優勝

中浦 雄太（香川県・多度津工業高校）2年 競技年数(2年)

S122kg C&J150kg T272kg

〈優勝の感想〉 優勝できたことは嬉しいけど、まだ自分の実力が出しきれていないので、インターハイでは頑張りたい。

〈自己ベスト〉 S123, C&J150, BSq215, FSq180, DL210, HS105, HC130

〈目標〉 インターハイまでにしっかりとした練習をして自分の実力を出し切りたい。

平成18年度全国指導者講習会報告

指導者育成専門委員会 小栗 和成

平成19年2月10日（土）～2月11日（日）の2日間、国立科学スポーツ科学センターにて毎年恒例の全国指導者講習会を実施しました。

実施内容

平成19年2月10日（土）

- | | |
|--|------------------------------|
| 1. 講義 平成18年度の総括と来年度に向けて
(2006世界・アジアの情勢) | 篠宮専務理事
小宮山男子監督
長谷場女子監督 |
| 2. ドーピングの現状 | 菊地 俊美
矢地 孝 |
| 3. 実況現場から見たスポーツの楽しさ・在り方 | 山本 浩（NHK解説員） |

平成19年2月11日（日）

- | | |
|-------------------------|-------|
| 1. 2007世界ルール変更について | 知念 令子 |
| 2. ドイツでのプロ生活 | 清沢 英彦 |
| 3. 選手のコンディショニングとトレーナー活動 | 福森 繁明 |

以上の内容で講習会を実施しました。

本年度の全国指導者講習会では、第1日目にNHKの解説員の山本浩氏をお招きし、「実況現場から見たスポーツの楽しさ・在り方」という題名で90分の講演をお願いしました。プロのアナウンサーが見せる軽快な話術と豊富な取材からくる資料など聞く者を飽きさせないお話を頂きました。2006年の世界選手権にも取材をされ、ドミニカ共和国での買い物の方法などのエピソードも楽しく聞かせていただき、ウェイトリフティング競技を観客・報道の立場からの貴重な提言も頂きました。

第2日目は、ドイツでのプロ生活を送られた清沢氏には当時の映像を解説していただきながら見せていただき、ウェイトリフティングのプロ活動の実態を知ることができました。最後の大学時代選手として活躍していた福森氏にアスレティックトレーナーとして「選手のコンディショニングとトレーナー活動」という演題で映像と実技を交えてウェイトリフターが起こりやすい障害とその予防方法を詳しく説明していただきました。

来年度以降も、受講者が聞きたい内容をたくさん講習会に入れていきたいと考えています。是非、今後聞きたい講習内容などを担当者に連絡くださるとありがたいです。

<来年、5年・9年後（五輪）を見据えての課題と解決策アンケート結果>

平成19年2月10日～11日、全国コーチ研修会（J I I S）にて

来年の五輪を踏まえてこれからの課題と解決策はなんですか？	5年、9年後（東京？）の五輪を踏まえてこれからの課題と解決策はなんですか？
<課題>	<課題>
<ul style="list-style-type: none"> ・とにかく普及させることが必要。 ・現在のナショナルメンバーの強化及び技術の向上 ・競技の認知度アップ ・マスコミ等を巻き込んでのスター育成。 ・資金集め。 ・職場や学校の五輪に対する理解 	<ul style="list-style-type: none"> ・日本協会のホームページの活用 現在は大会結果がほとんどである。 ホームページで内容アップ ・トレーニング方法 ・栄養 ・大会のビデオ（DVD）海外、全日本選手権 ・競技人口増加普及のため新しい大会導入 ・タレント発掘（ロンドン・東京に向け） ・競技の知名度アップ ・情報の共有（インターネット等の活用） ・イベント考案 <ul style="list-style-type: none"> ○一般社会向け ○TV等メディア向け ○他の競技向け ・ジュニア層の選手育成 ・ナショナルチームの長期展望 ・マスメディアの理解や活用
・解決の具体的方策	・解決の具体的方策
<ul style="list-style-type: none"> ・マスコミを使って宣伝。 ・国際大会を日本でもっとやり世界のトップレベルの試合がTV等で放送して宣伝。 ・ホームページの更新をもっとまめにしたり、未完成なページの早期完成。 ・ホームページの中で動画（世界選手権や全日本選手権大会）の公開。 ・協会から選手に対するサポート強化。 (トレーニング・栄養・メンタル・傷害予防のトレーナー等) ・五輪に向けて、競技に専念できるように、職場環境の整備や学校側の理解を良くする ・山梨県の武井、小宮山先生が行った番組を全国ネットで放映し競技の理解と普及に役立てる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームページで様々な練習方法を載せ、ナショナルチームの練習方法を地方でも参考にできるようにする。 ・栄養面でもサポートできるようどんな食事が減量の時有効か等？ ・大会のビデオ、DVD、世界大会等ホームページから取り寄せたりできるようにする。 ★ 地方ではほとんど海外の大会を見る機会が無い。 ★ 世界のトップ、日本のトップ選手のフォームを小学生、中学生、高校生に見せてやりたい。 ・ジュニア、シニア、マスターズでチームを作り大会を実施する等。年齢のカテゴリーを無くす等。 ○ 健康増進・高齢者社会に向け等 ○ 筋肉番付のような番組 ○ トレーニング教室 ○ 資格（ハイクリーン等）制度等 ・小学校高学年の児童をこの競技に振り向かせる。ジュニアクラブ、小学校、各自治体、スポーツ振興課などと連携を良くとる。 ・スポーツ教室の開催により、児童だけではなく保護者の理解も得るようにする。 ・有望なジュニア選手がいる場合は、大胆なナショナルチームメンバーの入れ替えも必要（バドミントン協会はロンドン対策でスーパー高校生を選んでいる） ・会報だけでなくテレビ、ラジオ、更にはマガジンの発行等で専門家だけでなく、一般の人々に良く知ってもらえる。

平成18年度 日韓共同未来プロジェクト

合同強化合宿

期日 平成19年3月12日(月)～21日(水)

場所 男子 高陽市庁ウエイトリフティング場
女子 ソウル市・韓国体育大学

参加者 北京・ロンドンオリンピック代表候補選手
(選手16名・指導者5名)

日本チーム男子指導者

監督 武井 多加志(山梨・日川高校) コーチ 新井 健一(埼玉・日本大学)
コーチ 梶原 誠 (大分・四日市高校)

日本チーム女子指導者

監督 長谷場 久美(日本協会) コーチ 三宅 義行(光波(株))

日本チーム男子選手

黒江 雄治	早稲田大学1年	中山 陽介	法政大学2年
中村 友生	九州国際大学2年	五百蔵 正和	大阪商業大学3年
三谷 洋平	金沢学院大学1年	盛田 郁弥	法政大学3年
田中 裕人	法政大学3年	太田 和臣	九州国際大学2年

日本チーム女子選手

三宅 宏美	法政大学3年	大城 みさき	沖縄県ウエイト協会
竹下 奈緒	金沢学院大学1年	伊藤 奈央	四日市中央工業高校1年
具志堅 美沙希	沖縄工業高校2年	宮平 奈美子	南風原高校3年
谷 紗野	金沢学院大学2年	嶋本 麻美	金沢学院大学1年

今年で5回目を数えるこの合宿ですが、今回は韓国へ訪問し、男女の練習場所、宿泊も別の会場での実施がありました。それぞれ男子は高陽市(コヤン市)と女子はソウル市に分かれての滞在だったため、選手同士は移動と大韓力道連盟に催していただいた食事会のみに顔を会わせたきりという状況でした。報告者は男子に帯同していたため、記載に偏りがあることをお許し願います。

高陽市

男子の合宿場所であった韓国・京畿道(キョンギ道)高陽市は首都ソウルの北部に隣接し、人口は約100万人。ソウル市のベッドタウンということです。ここ数年でどんどん開発が進んできているということですが、道路や住居・公園等、綿密な都市計画のもときれいで整備されている感を受けました。韓国国内では「田園都市」として名が通っているようです。1997年より世界花博覧会が3年おきに開催されており、130万人の観光客を誇り、海外28カ国107余りの企業が参加する一大イベントです。

トレーニング

練習場は高陽市徳陽区庁舎に隣接した場所にあり、13面の練習用プラットガ設置されていました。一緒に汗を流した高陽市府チームは『崔 鐘根』(Choi Jong-kun チェ・ジョンクン)監督と男子選手9名、女子3名という顔ぶれです。女子選手の中にはアテネ五輪+75kg級で銀メダルを獲得したジャン・ミラン Jang Mi-ran 選手も最近高額な契約金とともに移籍してきたということで、この目で触れることを楽しみにしていましたが、他の場所で合宿中ということであったため、この願望はかなわず残念でした。トレーニングは崔監督の作成したメニューにしたがって行いました。例年、韓国の指導者や選手が手取り足取り日本選手にテクニックを教授する場面が見られたのですが、この合宿の後に試合が控えているということで、そのような場面は多少減ったように思われました。その分、彼らが本気でバーベルにむかう姿を見ることができた気がします。さすがプロとしてウェイトリフティングをやっているだけあって、選手も監督も甘えを許さず、真剣なまなざしで、かなり熱のこもったトレーニングが展開されました。こういった姿勢を目の当たりにすると、日本の選手団もいやでも闘志をたきづけられる格好となりました。その結果、合宿終盤の疲労がピークの時にも積極的にスナッチ・クリーン＆ジャークで自己記録に挑戦する選手、補助種目で自己新をマークする選手が出るなど、非常に実りの多い合同トレーニングになったと思います。なお、バーベルトレーニングが済んだ後の筋トレやフリー種目の際は、積極的に日韓両国の選手が交わり、お互いが激励しながら競い合う頗もしい場面も見受けられました。この合宿の目的のひとつであります、「グローバルな視野を養い国際交流を図る」という点でも大きな収穫があったと感じます。通訳がいなっかた為、身振り手振りで意思の疎通を図ろうとしていたことが、選手同士の交流を一層深めたようです。

筆 番

宿泊したホテルは、練習場から道を一本隔てたところにあり徒歩1分という好立地条件でした。食堂が併設されていないため、朝・昼・夕食とも外食ではありました。周りには多くの飲食街が軒を連ねており、こちらで予想していたよりはスムーズに済みました。ただ、韓国に多い赤くて辛いものには選手たちは四苦八苦していましたように見えました。それを崔監督は察知してくれ、なるべく我々の口に合うようなメニューを注文してくれていました。

合宿の後半には、怪我を負ってしまった選手、体調を崩してしまった選手が出てしまったことは、引率者として監督不行届であり、申し訳なく思います。

一日練習がOffの日は北朝鮮との境（いわゆる非武装地帯）の烏頭山（オードサン）統一展望台を見学に連れて行ってくれました。北朝鮮が一望できる小高い山です。様々な映像や北朝鮮関連の資料と品物が展示されています。同じ民族が2つに分断され、自由に行き来ができるないという感覚はもちろん私たちにはないもので、こういった現実があるということを思い知らされました。

これだけ充実した環境で世界でもウエイト強国のひとつである韓国であってもウエイトリフティング競技の人気は決して高くないそうです。ただ、選手の活躍によってメディアの注目度は増してきていると聞きます。我々も今回の事業で体得した貴重な経験を生かし、十分活用して競技力の向上に努めなければならないと思います。近い将来、今回お世話になった韓国に追いついて追い越していくように…そして、今回もまた韓国力道連盟から手厚いおもてなしを受けました。本当に感謝感謝であります。最後になりましたが、この事業を導いていただいた、文部科学省、日本協会、関係各位、韓国力道連盟の関係者に深く、感謝の意を申しあげ、お礼とさせていただきます。

報告者 新井 健一



練習に励む選手たち



韓国選手から色々学びました



休養日は球技で身体をほぐしました



私達の後ろの風景は北朝鮮



お互い頑張ろう！



これから日本のウエイト界をささえる精鋭たち

日 程

(○印は練習)

	3/13	3/14	3/15	3/16	3/17	3/18	3/19	3/20	3/21
	火	水	木	金	土	日	月	月	火
午前	移動	○	○	○	○	休養	○	○	移動
午後	集合	○	○	○	休養	休養	○	○	解散

日 課

	7:00	7:30	10:00	12:00	16:00	19:00	20:00	22:30	
起 床	体 操 ・ 散 歩	朝 食	休 憩	練 習	昼 食	休 憩	練 習	夕 食	ミ ー テ イ ン グ

3/12 (月)	AM	移 動		
	PM	移 動 午後 7 時 30 分着		
3/13 (火)	AM	① Free		
		① Push. Press		3R×5
		② Slow. Squat		4~5R×6~7
		③ High. S&Balance		(3+1) R×6~7
		④ High. C&J		3+1J×6~7
		⑤ H. Pull(S)→SDL		3R×6→3R×7
		⑥ Back. Half. Press(S)		5R×6
3/14 (水)	AM	① M. Press		3R×6~7
		② F. Squat		3R×6~7
		③ High. S		1+3Half×6~7 control
		④ High. C&J		1+1Half&1×6~7 control
		⑤ Hiper. Extenshon		7R(3秒静止)×6~7
	PM	① Half. Squat		3R×6~7
		② H. S+Hung. S+S		1+1+1×6~7
		③ H. C+Hung. C+C&J		1+1+1&1×6~7
		④ Half. CDL→CDL		1+3Half×6~7
		⑤ Body. Trenning(Free)		
3/15 (木)	AM	① 体操		ランニング&体操
		② ストレッチ		ストレッチ(60分)
	PM			

日	A.P.	種 目	内 容
3/15 (木)	PM	① Push. Press	3~5R×6~7
		② Snatch	S 50% Free
		③ C&J	J 50% Free
		④ Disk hand up	10R×7
		④ Sit-up	Free
		④ Chin-up	7×6~7
3/16 (金)	AM	① Press	3R×6
		② B. Squat	3R×6~7
		③ High. S	80~90% Free
		④ High. C&J	80~90% Free
	PM	① S	MAX Attack
		② C&J	MAX Attack
		③ Half. CDL→CDL	1+3×6~7→2~3×6~7
		④ F. Squat	J - MAX control 2~3×6~7 (ややゆっくり)
		⑤ Free	
3/17 (土)	AM	① Push. Press	3R×6
		② Half. Squat	4~5R×6
		③ Slow H. S	3R×6
		④ Hung. H. C&J	1+3 & 1×6
		⑤ Disk hand up	20×6
		⑤ Hiper. Extenshon	10×6
		⑤ Chin-up	5×6
	PM	休 養	
3/18 (日)	AM	ストレッチ&球技	
	PM	休 養	
3/19 (月)	AM	① M. Press	3~5R×6
		② F. Squat	3R×6
		③ Comb-H. S	H. S 75~80% (2Stop+1)
		④ H. C&J	H. C 75~80% 3R×6~7
	PM	① S (control)	90~95% 1~2R×3~5
		② C&J (control)	90~95% 1~2R×3~5
		③ H. Pull→DL ※(S) (J)	3~4R×3~5 (S) (J)
		④ B. Spuat	3×6
		⑤ Free	

		⑥ Free	
3/20 (火)	AM	休 養	
	PM	① P. Press	3×6～7
		② F. Squat	MAX Attack
		③ Hung. H. S&Barance	(1+3)+1×6～7
		④ Hung. H. C&J	1 + 3 & 1 × 6 ~ 7
		⑤ H. Pull→DL ※(S) (J)	3～6 R×7→2～3 R×6
		⑥ Chin-up	5×7
3/21 (水)	AM	移 動	

韓国・高陽市庁チーム 崔監督の感想

まず、私の信条は「訓練が始まれば、誰もが同等の立場である」ということである。

訓練時は、コーチが選手を引っ張るのではなく、選手の頑張りによってコーチの目を引きつけるようなトレーニングの雰囲気が大事だ。

近く開催される韓国のジュニア選手権に出場する選手がチームにいたので、それほど日本選手に注視していたわけではないが、今回来韓している日本選手達は、だいたい韓国の高校3年生くらいのレベルであると思う。まず、全ての日本選手が基礎を固めているとは言えない。とにかく基礎的なテクニックが重要である。これができない選手は、記録を向上させることより基本的な動きを習得することが大事である。力には限界があると思う。これを補うのがテクニックである。もちろん力があってテクニックがあれば申し分ないのですが・・・ただし、正しい動作をマスターしていかなかったとしても本人の努力と根性、そして強い精神力で成功した例もある。今日(3/19)の訓練で、94kg級のC&Jで203kgの自己新をマークした選手は、膝を手術しなければならないほど悪い。しかし、強靭な精神力でこの記録を樹立させた。実際この私も、先天的なセンスに恵まれず、精神力でそれを補っていたので自信を持って言える。

練習メニューについて私は3日以上先の計画は選手に提示しない。チヌン(?)の国家代表選手のトレーニングセンターでは一週間・一ヶ月単位でプログラム

を組んでいる。ところが、一週間あるいは一ヶ月間のプログラムでは、選手がスランプに陥った場合に対応できない。状況によっては、個人個人のプログラムも必要になってくる。

最後に、日本の力道の未来は明るいと思う。選手達の目が輝いているからだ。選手の意地は見られるので、可能ならば環境面にもっと投資ができるのなら、なお良いだろう。9日間という短い期間ではなく、もう少し時間が許せば良かったと思う。こうやって知り合って一緒に訓練を共にしたのも何かの縁ですから、両国とも友好関係をなお一層築き頑張りましょう。

高陽市庁チーム

氏名	性別	階級	生年月日	Snatch	C-Jerk
Choi Jong-kun	男	監督	1975.02.14		
Kim Se-hyuk	男	56	1979.03.04	120	150
Ji Hun-min	男	62	1984.03.26	140	163
Kim Yun-hun	男	69	1985.01.15	135	175
Choi Woo-sung	男	85	1984.01.14	145	186
Goo Won-seo	男	85	1980.01.11	138	180
Jung Hyeon-seop	男	94	1985.06.18	160	203
Kim Man-suk	男	105	1982.08.06	150	200
Jung Jae-hoon	男	+105	1986.07.17	170	203
Jang Mi-ryoung	女	58	1985.11.15	87	112
Yun Saet-beol	女	69	1987.07.27	96	121
Jang Mi-ran	女	+75	1983.10.09		

大分県 四日市高校教諭 梶原 誠
＜日韓合宿感想＞

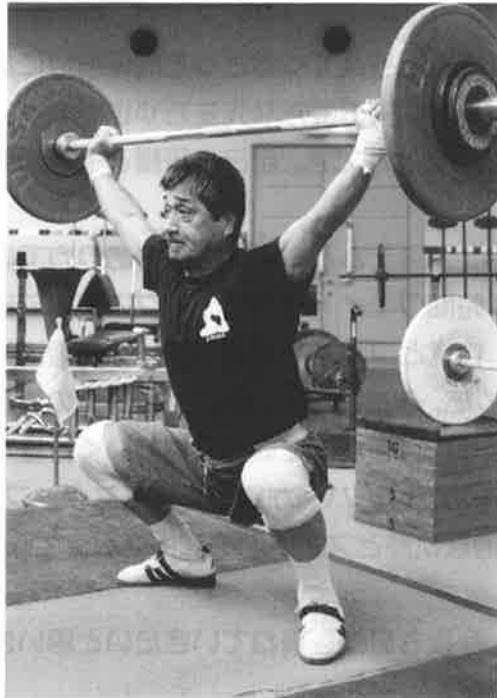
感想を書くにあたって、まずは今回この様な機会を与えてくださった関係各位にあらためて感謝を申しあげます。今回の遠征では、日韓両国の優秀な先生方や世界トップレベルのリフターと、直に情報交換や指導を受けることができ、自己の研鑽と選手の能力の向上に大いに役立ちました。

私なりに見て、韓国と日本で大きく違うのは、システムと選手の意識のあり方ではないかと強く感じました。セミプロとして、24時間ウエイトリフティングに集中できる環境と生活保障、職業的な観点をもった言動、自覚とプライドを持ち厳しい練習に打ち込む姿には考えさせられることができました。また、高陽市のチェコーチの指導の下、1年間に10kgずつ確実に、止まる事無く年月をかけて成長させていく行程が実践できている事にも感心させられました。技術面では、バーが膝を越えてスクープし、エクスプロージョンに突入する時点で、合理的な軌跡とスピードの関係を教えて頂き、大変勉強になりました。

日本協会と韓国の方々の好意に応えるべく、今後も研鑽を重ねていきたいと思います。

良い事尽くめの「マスターズリフティング」

日本マスターズ委員会
常任委員 鈴木 靖二



「剛」のリフティング



「柔」のヨガ

本年第25回、4半世紀を向かえる全日本マスターズ選手権。私はその半数の大会に参加させて頂いています。学窓を巣立った当初は社会人選手権等に参加していましたが、やがて業務に追われ何時しかリンクから遠のいてしまいました。

「プレスも廃止された事だし、そろそろ再開しませんか」と誘われ第3、第5回のマスターズに参加しました。久々の緊張感に興奮し、感動した事を覚えています。

これからリフティングを続けようと決意した私に届いたのが新潟への「転勤」でした。新潟市では、県立新潟北高校でお世話になりましたが、ここでも業務に立ちはだかれリンクは遠のいて行きました。

帰任後「昔は、立派な体格だったのに今はただのオジサンだね」との噂の流布を知り、一念発起。久々開きました。

どうせですから「大会に出ましょう」と誘われ第13回東広島市の大会に出場し今日に至っています。

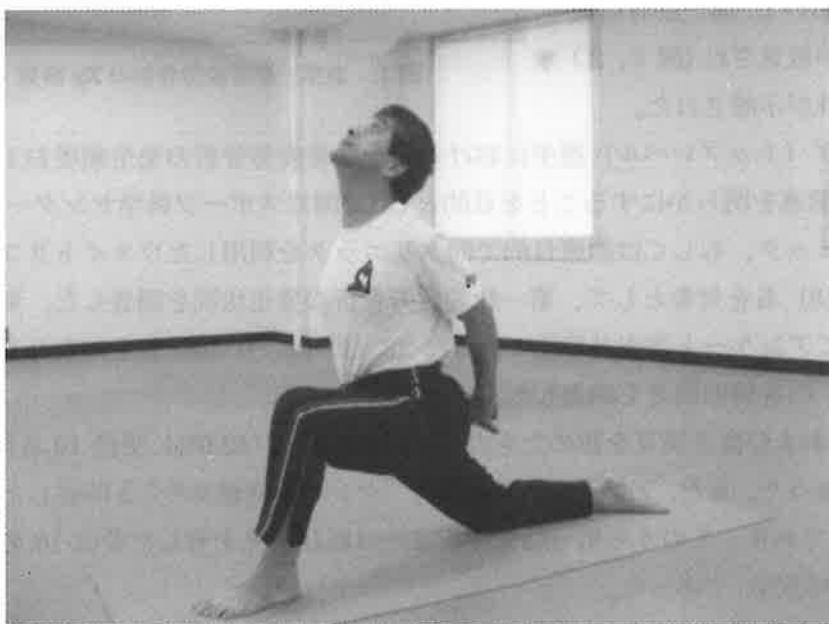
毎年開催される全日本はまるで同窓会のようです。1年振りに合うお互いの健康と健闘と共に喜び、讃えあう。まさにマスターズならではの楽しさです。これが、また張りあいになります。これまでのマスターズ競技生活を振り返ってみると、いま申し上げました。

- 交友関係の広がり
- 張りのある生活の他に
- 目標のある充実した生活
- 規則正しい生活の実践
- 健康への高い関心の持続

等が挙げられると思います。在勤中からの定期健康半日ドックでは未だにオールAという成績（？）です。

東京では毎月第4土曜日をマスターズの合同トレーニング日として、AクラスからHクラスの仲間がお互いに汗を搔いています。トレーニング後のお風呂に続く一献は至福のひと時です。身体の中から漲るを感じる集いです。

最近では、世界マスターズの仲間にも加えて頂き交友の輪を、嬉しいことに世界にまで広げる事が出来ました。是非、多くの人に経験をして欲しいと願うものです。



ヨガ教室に通う鈴木さん（64歳）

体力を構成する大きな要素として「身体の柔軟性」があります。長い間競技を続けてるのでそこそこの柔軟性はあるだろうと自負していました。ところがある機会を得て「ヨガ」を体験したところ「硬直性にあふれた身体」を知らされ愕然としました。今では長く何時までもリフティングを怪我無く続けられるようヨガにも取り組んでいます。そういう事で身体ばかりか心の柔軟性も得られるのではないかと。

リフティングを一言で表現すれば、私だけでなく、マスターズの皆さんも異口同音に「生甲斐」と声高らかに発する事であろうと確信しています。

ウェイトリフターにおける第1肋骨疲労骨折の発生頻度と“ケンビキ”との関連性について

日本ウェイトリフティング協会スポーツ医科学委員会

○中嶋耕平、菊田三代治、長谷場久美、小宮山哲雄、岡田純一、渡會公治、瀬尾理利子
国立スポーツ科学センター スポーツ医学研究部

奥脇透

【要約】ウェイトリフティング選手の間では、“ケンビキ”と呼ばれる症候が広く浸透しており、肩甲骨周囲筋の使いすぎ症候群と考えられている。一方、頸背部や前胸部に放散する鋭い痛みを訴えたウェイトリフティング選手の胸部単純X線において、第一肋骨に疲労骨折所見を認める例が散見され(図1,2)“ケンビキ”との関連性が示唆された。

ウェイトリフティング(トップレベル)選手における第一肋骨疲労骨折の発生頻度および、同骨折と“ケンビキ”との関連を明らかにすることを目的として、国立スポーツ科学センター(JISS)においてメディカルチェック、もしくは診療目的で同クリニックを利用したウェイトリフティング選手49(男31、女18)名を対象として、第一肋骨疲労骨折の発生状況を調査した。更に“ケンビキ”的既往についてアンケート調査が可能であった22(男12、女10)名を対象として、骨折の有無と“ケンビキ”的有無の関連を調査した。

第一肋骨に疲労骨折・および既往所見を認めたものは、全体で21名(42.9%)、男性10名(32.3%)、女性11名(61.1%)であった。また、アンケート調査にて“ケンビキ経験あり”と回答した者は、全体で16名(72.7%)であり、このうち第一肋骨骨折または既往所見を有した者は10名(全体62.5%:男37.5%、女87.5%)であった。

一般に第一肋骨骨折の発生頻度はきわめて低いと考えられているが、本調査で確認されたウェイトリフターの第一肋骨疲労骨折の発生頻度は高率であり、“ケンビキ”との関連性も高いと考えられた。

【はじめに】

「ケンビキ」という言葉は、ウェイトリフティング選手の間では比較的馴染み深い言葉のようであり、頸部～背部、時に前胸部に放散する疼痛をさし、多くは軀幹に対して鉛直方向の反復する負荷動作(フロントプレス、クリーン＆ジャークなど)で発症しているようである。「ケンビキ」という言葉を国語辞典などで調べると、『けんべき／けんべき：痙攣・肩痙攣』で検索され、・痙攣(しゃく)の一種、頸から肩などにかけて筋肉のひきつること。肩凝り(広辞苑)、・首から肩にかけて筋肉がひきつって痛むこと。肩凝り。けんびき。肩凝りのこと。(大辞泉)、・頸から肩にかけてのあたりの疼痛。肩が凝るほどの心配ごと。(大辞林)などと記されている。一般整形外科

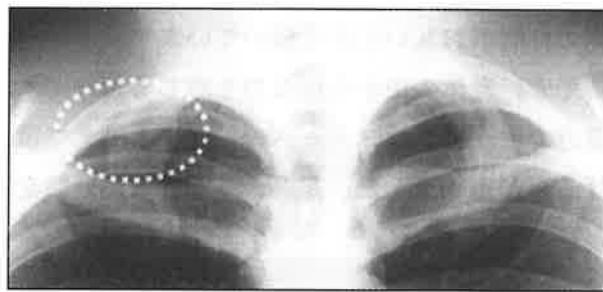


図1. 右第一肋骨疲労骨折のXp所見

の臨床においては、この症候名自体耳にする機会が少なく、その病態が把握出来ていないのが実情である。一方、このような、項背部や前胸部に放散する鋭い痛みを訴えたウェイトリフティング選手の胸部単純 X-pにおいて、第一肋骨に疲労骨折所見を認める例が散見され(図 1, 2)、“ケンビキ”との関連性が示唆された。

【目的】 ウエイトリフティング(トップレベル)選手における第一肋骨疲労骨折の発生頻度を知ること、また同骨折と“ケンビキ”との関連についても明らかにすることを目的として日本ウェイトリフティング協会選手強化委員会の協力を仰ぎ、下記の調査を行った。

【対象と方法】 2001 年 10 月～2006 年 6 月までにメディカルチェック、もしくは診療目的で当クリニックを利用したウェイトリフティング選手 128(男 87、女 41) 名のうち、単純 X-p(胸部など)にて両側第一肋骨の評価が可能であった 49(男 31、女 18) 名、平均年齢 22.2 ± 3.7 (男: 23.4 ± 3.8 、女: 20.1 ± 2.7) 歳を対象として、①第一肋骨疲労骨折の発生状況を調査した。②このうち“ケンビキ”的既往についてアンケート調査が可能であった 22(男 12、女 10) 名を対象として、骨折の有無と“ケンビキ”的有無の関連を調査した。(表 1)

	男性	女性	合計
① 第一肋骨疲労骨折の有無	31	18	49
(平均年齢)	(23.4 ± 3.8)	(20.1 ± 2.7)	(22.2 ± 3.7)
② “ケンビキ”に関するアンケート	12	10	22
(平均年齢)	(22.2 ± 2.8)	(18.9 ± 1.8)	(20.7 ± 2.9)

表 1. 各調査項目における対象者数と平均年齢

①第一肋骨疲労骨折の有無の判定(図 3): 第一肋骨の評価可能な単純 X-p 画像より、明かな骨折線、もしくは骨折治癒所見が同定されたものを「骨折あり」群、骨折所見や骨折の既往所見が認められないものを「骨折なし」群として評価し、全体、もしくは男女別における骨折の発生頻度、および骨折部位の左右局在について調査した。

②「ケンビキ」に関するアンケート調査: ケンビキ経験の有無、回数、部位について質問紙法によって調査を行い、第一肋骨疲労骨折の有無との関連を相対危険度、odds 比によって検討した。



図 2. 第 1 肋骨疲労骨折の 3D-CT 画像(矢印部分が骨折線)



図3. 骨折の有無の分類：

単純Xp上明かな骨折線を認めるもの、骨折の既往（骨癒合）所見を認めるものを“骨折有り群”、明かな骨折線の見られないものを“骨折なし群”として分類

【結果】①第1肋骨疲労骨折の発生頻度は、男性31名中10名;32.3%、女性18名中11名;61.1%、全体で42.9%に骨折もしくは骨折の既往所見を認めた。骨折の発生部位は、全体としては右のみ、左のみ、両側がほぼ同率で認められたが、男性では左のみの発生が多く、女性では右のみの発生が多く見られた（図4，5）。

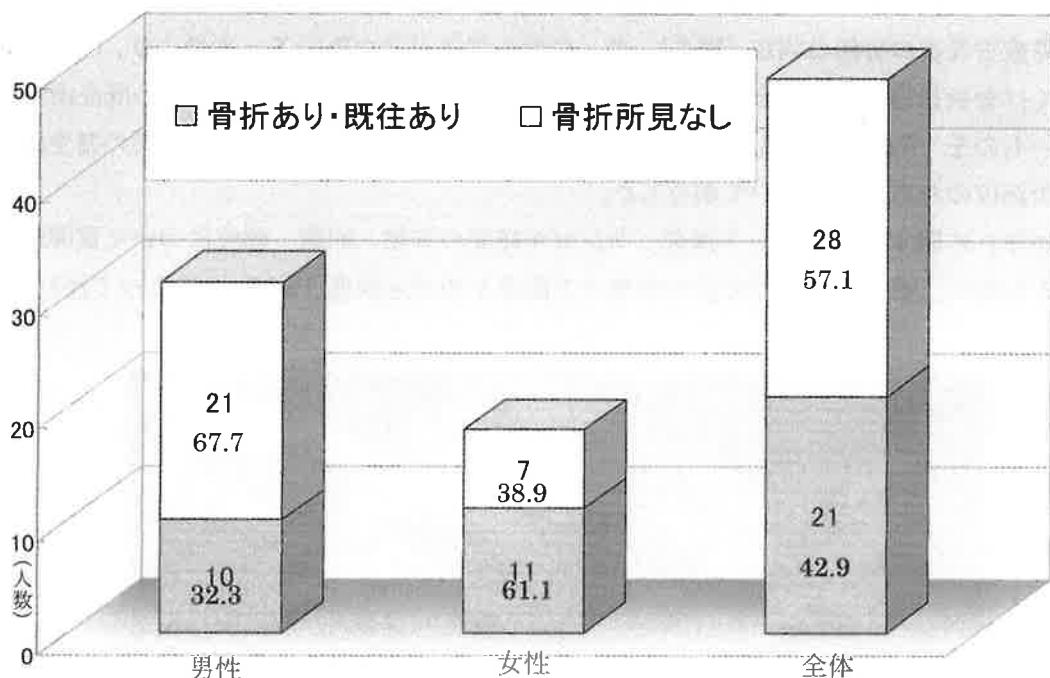


図4. 第一肋骨疲労骨折の発生頻度

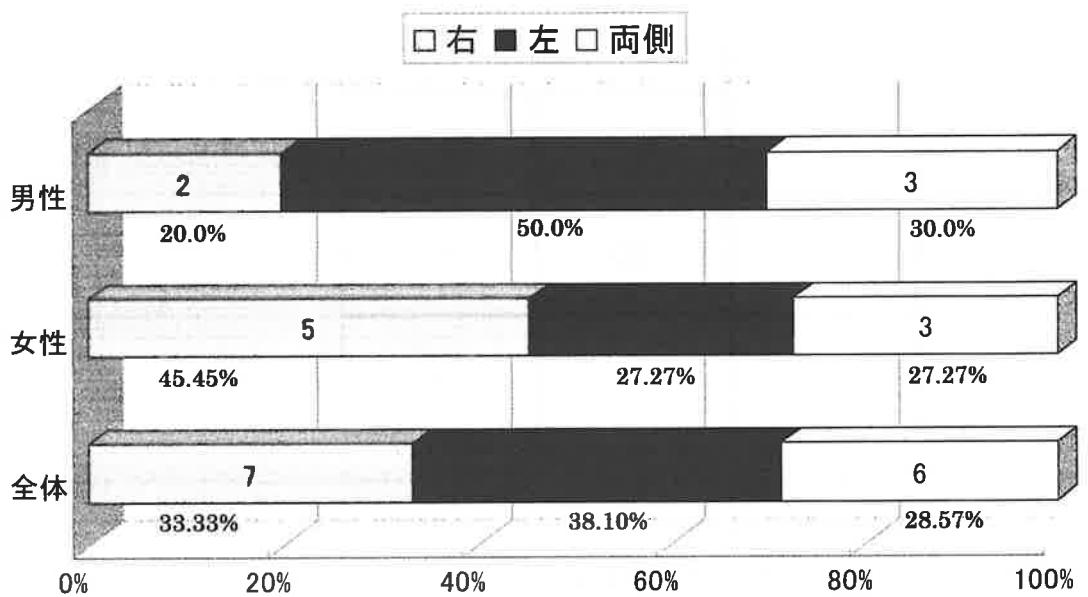


図 5. 第一肋骨疲労骨折の発生部位（左右局在）

②アンケート調査において、ケンビキ経験者は男性 66.7%、女性 80%、全体で 72.7% と高率に認められ、男女とも複数回経験している者が多く見られた。ケンビキの発生部位は両側が多く、ケンビキ経験者のうち男性 37.5%、女性 87.5%、全体で 62.5% に第 1 肋骨疲労骨折所見を認めた（表 2）。ケンビキの有無と骨折所見の有無より相対危険度と odds 比を算出すると、相対危険度は 3.75、オッズ比は 8.33 であり、ケンビキ経験者が第 1 肋骨骨折を受傷するリスクはケンビキ未経験者より高く、本骨折を有する者は、骨折を有しない者よりもケンビキを経験している比率が高いことになる（表 3）。

	ケンビキなし	ケンビキあり	ケンビキ回数
男性(12)	4 (33.3%)	8 (66.7%)	2.13
女性(10)	2 (20%)	8 (80%)	3.38
全体(22)	6 (27.3%)	16 (72.7%)	2.75



	ケンビキの発生部位			Xp 上の骨折所見 (+)
	右のみ	左のみ	両側	
男性(8)	4	0	4	3 (37.5%)
女性(8)	3	0	5	7 (87.5%)
全体(16)	7	0	9	10 (62.5%)

表 2. “ケンビキ” の有無と骨折の有無

		骨折	
		あり	なし
ケンビキ	あり	10	6
	なし	1	5

・相対危険度 (Relative Risk) = 3.75

・オッズ比 (Odds Ratio) = 8.33

表3. “ケンビキ”の有無と骨折の有無の関係

【考察】考察：第1肋骨の骨折もしくは疲労骨折の発生頻度に関する報告は、軍隊における検診や剖検によるものが多く、その頻度は0.02~2%とされている^{1,2,3}。また、スポーツ競技における本骨折の発生については、症例報告が散見されるが、一競技における発生頻度に関する報告は無い。本研究ではウエイトリフターの42.9%、特に女性では61%と高率に発生しており、本骨折によって練習や競技活動に支障を来す期間を考慮すれば、今後更なる受傷機転の解明と予防法の確立が求められると思われる。

受傷機転に関しては、骨折が前斜角筋付着部前縁付近で発生している報告が多く、鎖骨を含めた上肢帯の下方への牽引と前・中斜角筋による第1肋骨の上方牽引によって剪断力が生じることによると考えられている。しかしながら、本調査では、明らかに第1肋骨後方での骨折も散見されており、今後は、傷病発生という視点でのビデオ解析、フォーム分析など詳細な検討が必要と思われる。

トップレベルのウエイトリフター49名の単純Xpより第1肋骨疲労骨折の発生頻度を調査し、全体の42.9%に骨折所見を認めた。上記対象者のうち22名に対し『ケンビキの有無』についてアンケート調査を行い、ケンビキの発生率は72.7%であった。更にケンビキ経験者の62.5%に第1肋骨骨折所見を認め、ウエイトリフターにおける『第1肋骨疲労骨折』と『ケンビキ』の関連性が示唆された。

¹ Bowie, E. R.: Anomalous development of the first rib simulating isolated fracture. Am J Roentgenol, 53:161-5, 1945.

² Alderson BR: Further observations on fracture of the first rib. Br J Radiol, 20:237, 345-75, 1947.

³ Etter LE: Osseous abnormalities of the thoracic cage seen in forty thousand consecutive chest photoroentgenograms. Am J Roentgenol, 51:359-63, 1944.

トレーニング紹介

大分県立宇佐高等学校

監督 梶原 誠

創立1年目の宇佐高校に『四日市高校』から継続勤務という形で異動し、幾日かが経過しました。この紹介記事を読まれている皆様には、全く聞き覚えの無い学校名で、ひどく頭を悩ませていることと思いますが、前身を大分県立四日市高等学校と申します。母校でもあるこの学校でウエイトリフティングの指導に携わり、新年度に入り延べ10年目に突入しました。ただ自分の無力さを痛感させられる毎日ですが、幸いにもこの間、全国各地の各位より多くの御指導や御協力を頂くことができました。今回は四日市での活動が大半を占めますが、恥を憚んで、生徒と共に歩んできたものを紹介したいと思います。



1. 本校の概要

本校は、大分県北部・宇佐市の東部に位置し、かつて奈良時代には九州の半分を所有した全国八幡宮の總本山『宇佐八幡』の正面にあります。1学年6クラス（240名）、全校生徒720名の普通科高校で、何名かを除いて市内の中学校の生徒で構成されています。

平成19年3月31日に大分県宇佐市内にある県立普通科高校3校のうち、我等が四日市高校（創立96年）と宇佐高校（創立102年）の2校が県の施策により終焉を迎え、新たに4月1日より発展的統合という形で、大分県立宇佐高等学校が旧宇佐高校の地に誕生しました。各学年3から6クラスと単純に増大をしましたが、1年生のみ統合学年として今回初めて入試を行いました。2・3年生に関しては、両校の在校生が同時に合併をしたものですから、校舎やクラス内には制服と体操服が3種類混在し、異様な光景を醸し出しています。今後、衣替えの時期ともなれば、制服が7種類存在するようになるわけで、もはや想像すらつきません。

部活動は両校既存のものを全て継続する形となりましたが、双方単独の部もあり、四日市の軟式野球・ウエイトリフティング部と旧宇佐の相撲・硬式野球・サッカー・剣道部は、広く部員を募集できることとなりました。反面、全校生徒数に対して体育・文化部の数が多く、なかでも全国制覇2回の軟式野球部は、未だ活動の場所が確保できない状況にあります。今後、成績や在籍数を以って緩やかに精選がなされるものと思われます。

2. ウエイトリフティング部の概要

ウエイトリフティング部は、中島 豊氏（前監督）により昭和57年に正課クラブから昇格し、四日市高校で創部されました。平成10年に屋内練習場が完成し、環境面の充実が図られましたが、それ以前の平成9年までは、土の上に直にゴムシートを置き、枕木を埋め、日除けのテントを張ったもので練習を行っていました。リングシューズは外履きで、夏の日焼けと冬の凍えそうな寒さに悩まされ、角度が悪ければ雨が降り込み、足元もおぼつかない状況でした。

また、部員の確保については、全国の先生方と同じく困難を極め、部の存続すら危ぶまれる状況でした。勧誘活動は積極的に、大会成績はもちろん、学業成績から生活態度、進路先などの分厚い資料を各中学校の先生方に配布して協力を願いし、高校体験入学の全体会の中で特別に時間をもらい、実演や体験コーナー、笑いありのパフォーマンスをしています。特に4月は、部員達が練習前に校門で新入生に声をかけ、練習場に連れて來るのに必死になっています。活動成績の向上に比例し、近年少しづつ成果が始めました。今年度入学生から人数が今までの倍になるので、何とか現状を開拓すべく工夫しようと思います。

現在は、宇佐高校に新築された練習場で、OBや保護者会の協力を得て『堅忍不拔』の精神の下、3年生4名・2年生3名・1年生4名・総計11名（女子0名）で活動を行っています。

3. トレーニングについて

I. トレーニングは火曜日から日曜日までの週6日行い、月曜日を休養日としています。月～金までは2時間40分の全体練習と、自主練習を行っています。休日は2部練習以上で、午前が1時間30分、食事と睡眠をとて夕方から2時間40分のプログラムです。日本協会の年間行事計画を活用し、大分県協会の計画と学校のものに沿って1年単位で作成し、1ヶ月毎に生徒に提示しています。状況に応じて内容を変更することもあります。

【1】年間指導計画 《2006年11月～2007年10月》

11 月	第1週	試合期	12 月			1 月	第1週	完成期	2 月		
	第2週	準備期		第2週	準備期		第2週	完成期		第2週	準備期
	第3週	準備期		第3週	準備期		第3週	試合期		第3週	準備期
	第4週	準備期		第4週	準備期		第4週	準備期		第4週	準備期
	第5週	準備期		第5週	準備期		第5週	準備期		第5週	準備期
3 月			4 月	第1週	準備期	5 月	第1週	準備期	6 月		
	第2週	試合期		第2週	準備期		第2週	完成期		第2週	試合期
	第3週	完成期		第3週	準備期		第3週	完成期		第3週	試合期
	第4週	試合期		第4週	準備期		第4週	完成期		第4週	準備期
	第5週	準備期					第5週	完成期		第5週	準備期
7 月	第1週	完成期	8 月	第1週	試合期	9 月			10 月	第1週	完成期
	第2週	完成期		第2週	試合期		第2週	準備期		第2週	試合期
	第3週	完成期		第3週	準備期		第3週	完成期		第3週	試合期
	第4週	完成期		第4週	準備期		第4週	完成期		第4週	試合期
				第5週	準備期					第5週	準備期

【2】週間指導計画

曜日	日	月	火	水	木	金	土
早朝	全体	あり	完全休養	なし	なし	なし	なし or なし
	個人		完全休養	フリー	フリー	フリー	フリー
午前	全体	Middle	学校	学校	学校	学校	Light
	個人		完全休養				
昼	全体	完全休養	完全休養	B,Sqt	なし	なし	B,Sqt
	個人	完全休養	完全休養		フリー	フリー	完全休養
午後	全体	Middle	完全休養	Heavy	Middle	Light	Middle
	個人		なし				
夜	全体	あり or なし	完全休養	なし	なし	完全休養	なし
	個人	なし	完全休養	フリー	フリー	完全休養	フリー

なし ... 実施はしないが、生徒からの要請で相談(種目も相談によって決定)

フリー ... 生徒側で何らかを選択(休養も選択の範疇で、種目決定に相談はいらない)

完全休養 ... 実施しない

II. 強化合宿を年間相当数行っています。県外遠征や県内合同合宿も多数組んでいますが、それ以外は基本的に毎週末校内合宿です。部員は自宅と練習場にそれぞれ布団を所有し、練習場内に寝泊りします。食事も当番制で、3食を家庭科教室や練習場内で調理しています。練習場内には調理機材、布団・畳、トレーニング機器と、物で溢れています。洗濯物は3年間家に持つて帰ることはできません。保護者も非常に喜んでくれています。この合宿での一番の成果は、『家族』意識の構築と自主自立の精神です。甘えをなくし強く逞しく、慈愛を持って家族の強い絆で結ばれる事で、強さに関係なく全員を尊重し、一人では困難なことも皆で協力して解決しようとする姿勢が育ちます。ひとつの結果に全員で泣き笑う、人間としての側面からも記録の向上に繋がります。

4. 指導方針

○堅忍不拔

○人から信頼され、社会性を持ち、逞しく生き抜いていくことのできる人格の完成を目指しなさい。

○何事にも感謝の気持ちを持ち、謙虚に生きていきなさい。

○人一倍の努力で2倍の成果を挙げよう。研究に努めよ。理論に終わりは無い。

○勝つことが全てではない。しかし、日本一努力した者には日本一になっていい権利がある。

○指導者は『させる』側ではなく、『止める』側である。選手自身が燃え上がる支援策に工夫を凝らす。

5. 今後の課題

これまで多くの方々に教えを頂きました。多くの大学や高校に合宿を受け入れて頂いたり、優秀な指導者を招聘しての研修など、様々な収穫がありました。このご恩に報いるためにも今後更なる研鑽を重ねて目標を達成したいと思います。将来的に世界で戦える選手作りを目指して、今後とも情熱を燃やしていきたいと思います。今後更なる御指導、御鞭撻の程、よろしくお願ひします。



中央大学学友会体育連盟重量挙部

部の歴史

1955年創部当初は、後楽園校舎の中庭の土の上に敷いたプラットホームが練習場であった。1959年富坂に合宿所が完成し、練習場が併設された。1966年・1967年にインカレ連覇を果たし、東日本インカレでは1975年より1979年まで5連覇を達成した。1978年大学の多摩キャンパス移転に伴ない富坂の合宿所から東京都日野市南平の体育部南平寮に移転、練習場も多摩キャンパス第1体育館1階に移転した。この移転直後の1978年・1979年のインカレ連覇成し遂げ、黄金期となった。その後優勝から遠ざかる時期があったが、1997年東日本インカレに優勝し、昨年は3点差で準優勝とかつての輝きを取り戻しつつある。52年の歴史の中でインカレ優勝4回、東日本インカレ優勝6回、オリンピック選手9名・国際大会出場者多数を輩出している。

【オリンピック・世界選手権出場者】

藤島 善信（ローマ五輪・OB会長）	若松 茂（1962 ブタペスト）	八田 信之（メキシコ五輪）
佐々木 哲英（ミュンヘン五輪）	三木 功司（ミュンヘン五輪）	後藤 良一（ミュンヘン五輪）
福田 輝彦（モスクワ五輪）	松尾 謙資（1985 セダテリエ）	我孫子 薫（ロス五輪）
真鍋 和人（ロス・ソウル五輪）	並木 良憲（ソウル五輪）	樋口 忠之（1998 ラハディ）

寮生活

現在、南平寮（写真①）には体育連盟29部約550名の学生が生活をしています。

寮の施設は各部屋冷暖房完備、寮食堂（写真②）、トレーニングセンター（写真③）、大浴場、サウナ、集会室、ラウンジ等があり充実した設備となっている。寮専用バス（写真④）が運行され、大学まで所要時間約10分で到着となり授業に行くとき、練習に行くときなどとても便利に活用している。また、29部の学生がいるので、他の部の同級生ともコミュニケーションがとれ幅広い交友関係も形成することが出来ます。

食事は、寮食堂で低価格に設定された定食を食べることにより学生の経済的負担を軽減出来るよう配慮されている。また、管理栄養士が常駐し、アスリートとして十分な栄養補給ができるよう栄養バランスが考慮された献立となっている。

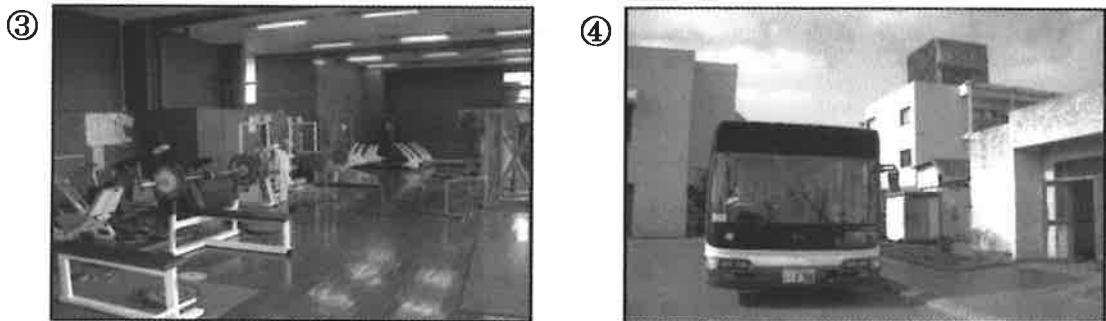
寮監さんと管理人さんが、父親がわりとしてなんでも相談に応じてくれる。

①



②





練習場

シャフト・プレートとも十分な数量を確保し、全員で練習しても余裕あるスペースと器具の準備が出来ている。



多摩キャンパスで授業が行なわれており、同じキャンパス内の第1体育館1階が練習場です。授業が終わればすぐに移動ができます。また、寮専用バスは第1体育館前からの発着ですので、練習が終わりバスに乗って約10分で寮に帰ることができます。

故障者の治療や疲労回復を促進させるために、第1体育館内には、マッサージや針治療を受けられるところがあり、練習場には整形外科で使われている治療器を設置し、いつでも使えるようにしてあります。

平成18年度戦績

団体 東日本インカレ準優勝 全日本インカレ4位

個人 全日本学生個人戦優勝 東日本学生個人戦優勝2名 東日本インカレ優勝3名
全日本学生新人戦優勝 東日本学生新人戦優勝4名

平成 19 年度役員及びスタッフ

部 長	和田 光平 (中央大学経済学部教授)
顧 問	阿部 三郎 (中央大学前理事長)
総 監 督	三木 功司 (シドニー五輪監督)
監 督	並木 良憲 (昭和 60 年卒・ソウル五輪出場)
コ ー チ	鳥飼 和夫 (昭和 44 年理工学部卒) 我孫子 薫 (昭和 55 年卒・ロス五輪出場) 古庄 弘幸 (平成 6 年卒)
ド ク タ ー	西本 研一 (第 38 回全日本選手権 +110kg 級優勝)
ト レ ーナ ー	森口 和晃 (日本カイロプラクティックドクター協会会長)
主 将	清水 洋平 (経済学部・山梨県谷村工業高校出身)
主 務	中栄 卓也 (経済学部・京都府鳥羽高等学校出身)

目標：世界で活躍のできる選手の育成・インカレ優勝

練習場	東京都八王子市東中野 742-1 中央大学第 1 体育館 1 階 電話 0426-74-3874
南平寮	東京都日野市南平 7-7-8 中央大学学友会体育部南平寮 電話 /FAX 042-592-7512 URL http://tcat.easymyweb.jp/member/chuowlc/

平成19年度事業計画案

各支部協会をはじめ関係諸団体との連携と協力のもとにウエイトリフティング競技の一層の普及と発展のため各種事業の推進を図る。

北京オリンピック大会並びにロンドン大会でのメダル獲得を目標に選手強化を進めるとともに、その後のオリンピック大会でも常に上位を目指すことのできる競技者を育成するため、ナショナルトレーニングシステム（本協会競技者育成プログラム）の充実、国立スポーツ科学センタースポーツ医科学との連携、本年度開設されるナショナルトレーニングセンターの効果的な利用を図るなどの選手強化と競技者の育成事業を推進する。

1 全国大会の開催

トップレベルの選手育成及び生涯スポーツ振興のため、以下の全国大会を開催する。

大 会 名	期 日	会 場 地	会 場
第4回全日本学生選抜選手権大会	4／5	神奈川県 横浜市	横浜市磯子スポーツセンター
第53回全日本学生個人選手権大会	5／11～ 5／13	大阪府 羽曳野市	羽曳野市立総合スポーツセンター
第25回全日本マスターズ選手権大会	5／18～ 5／20	香川県 多度津町	多度津工業高校体育館
第67回全日本選手権大会 第21回全日本女子選手権大会	5／25～ 5／27	東京都 大田区	大田区体育館
第10回全国高等学校女子選手権大会	7／14～ 7／16	和歌山県 和歌山市	和歌山東高等学校体育館
第54回全国高等学校選手権大会	8／ 6～ 8／ 9	佐賀県 有田町	炎の博記念堂
第21回全国中学選手権大会	8／25	大阪府 羽曳野市	羽曳野コロセアム
第62回国民体育大会	9／30～10／ 3	秋田県 八郎潟町	八郎潟中学校体育館 八郎潟町民体育館
第53回全日本大学対抗選手権大会（Ⅱ部）	11／10～11／12	大阪府 羽曳野市	羽曳野コロセアム
第44回全日本社会人選手権大会	11／16～11／18	大分県 国東市	アストくにさき
第52回全日本学生新人選手権大会	11／23～11／24	神奈川県 横浜市	横浜市磯子スポーツセンター
第53回全日本大学対抗選手権大会（Ⅰ部）	12／23～12／24	神奈川県 横浜市	横浜市磯子スポーツセンター
JOCジュニアオリンピックカップ 第28回全日本ジュニア選手権大会	3／8～ 3／9	埼玉県 さいたま市	さいたま市 記念総合体育館
第23回全国高等学校選抜大会	3／27～ 3／30	石川県 金沢市	石川県産業展示館

2 選手強化事業の推進

(1)長期対策の確立

ナショナルトレーニングシステムの充実に力を注ぐとともに全国指導者研修会等を通じて全国の指導者にその周知徹底を図る。

(2)オリンピック大会で活躍する競技者の恒久的輩出をめざした競技者育成対策

①ジュニア、シニアの強化指定選手を中心に合宿での強化を継続的に行う。

②国際大会への参加が効果的な競技者育成につながるよう、優秀競技者を計画的に国際大会に派遣する。

③優秀選手の顕彰を行う。

(3)北京オリンピック競技大会対策

①北京オリンピック出場資格獲得大会としての2008年世界選手権大会対策

北京オリンピック最大出場枠獲得を目指し世界選手権代表候補並びに代表合宿を中心に国内合宿を進め、大会にはフルエントリーで臨むなど出場資格獲得に総力をあげて取り組む。

②国内強化合宿の充実

国立スポーツ科学センターを中心とした合宿計画を立て、同センターのトータルサポートシステム等による医学・科学・情報の支援を受けることでより効果的で充実した強化合宿を行う。

(4)強化合宿事業の実施

①海外強化合宿

	合宿名	コ-チ数	選手数	期間	場所
1回	2008年日韓合同合宿（女）	3名・	7名	8/21~8/30	韓国・ウルサン
2回	日中合同合宿（男）	3名・	7名	1/19~1/28	中国・北京

②国内強化合宿

	合宿名	コ-チ数	選手数	期間	場所
1回	世界候補・アジア代表候補合宿（女）	3名・	10名	4/ 4~ 4/17	金沢市
2回	世界候補・アジア代表候補合宿（男）	3名・	12名	4/ 9~ 4/17	JISS
3回	世界候補合宿（男）	1名・	8名	5/ 2~ 5/10	JISS
4回	世界候補合宿（女）	3名・	9名	6/ 26~ 7/10	珠洲市
5回	世界候補合宿（男）	3名・	9名	7/ 10~ 7/28	富士吉田市
6回	世界候補合宿（女）	3名・	9名	7/ 31~ 8/12	珠洲市
7回	世界選手権大会代表合宿（女）	4名・	12名	8/ 12~ 8/20	JISS
8回	世界選手権大会代表合宿（男）	3名・	9名	8/ 20~ 9/12	JISS
9回	世界選手権大会代表合宿（女）	3名・	9名	8/ 31~ 9/12	JISS
10回	オリンピック候補選手合宿（男女）	4名・	15名	2/ 14~ 2/24	JISS
11回	オリンピック候補選手合宿（男女）	5名・	15名	3/ 14~ 3/24	JISS

1回	ジュニア世界代表選手合宿（男女）	4名・	14名	5/ 2~ 5/10	JISS
2回	ジュニア世界代表選手合宿（男女）	4名・	12名	6/ 1~ 6/ 7	JISS
3回	2008ジュニア世界候補合宿（男女）	5名・	15名	1/ 7~ 1/14	JISS

(5)コーチの資質向上事業の実施

①強化スタッフの指導力の向上と指導体制の充実を図る。

②スポーツ指導者講師全国講習会の開催 11/10・11

③全国指導者研修会の開催 2/ 9・10

④（財）日本体育協会公認スポーツ指導者制度に基づきコーチ養成講習の専門科目講習会を実施する。

⑤指導書の作成

⑥優秀指導者の顕彰を行う。

3 競技者育成事業

ナショナルトレーニングシステムの評価・検証を行いながらその充実をめざすとともに、その理念に基づく指導により本競技全体の競技力の向上と選手強化を図る。

- (1) プロジェクト班によるナショナルトレーニングシステム完成に向けての各事業の継続運営

- ・ナショナルトレーニングシステムの内容の評価・検討
- ・ナショナルトレーニングシステム実践のための全国的な組織づくり
- ・タレント発掘のためのシステムの構築
- ・ナショナルトレーニングシステムのプログラム作成
- ・VTR及び冊子の作成

- (2) 各都道府県及び関係団体への周知徹底

- (3) 将来性ある競技者の発掘及び育成事業の実施

- ・ジュニアユース : 12/23~26 全国6ブロックでの研修合宿の実施
- ・ジュニアエリート : 12/23~26 全国4地区での研修合宿の実施

4 國際競技会交流の実施

- (1) チーム派遣

大 会 名	コ-チ数	選手数	期 間	場 所
アジア選手権大会 (男女)	2名	4名	4/18 ~ 4/29	中 国: 山東省
世界大学選手権大会 (男女)	2名	4名	6/25 ~ 7/4	ペ ル: リマ市
世界選手権大会 (男女)	6名	18名	9/12 ~ 9/26	タ イ: チェンマイ
日韓中aland'cupトナメント大会(男女)	9名	15名	11/ 2 ~11/ 7	中 国: 四川省
日韓中Jュニア交流競技会 (男女)	3名	15名	8/23 ~ 8/29	中 国: 桂林市
世界Jュニア選手権大会(男女)	6名	15名	6/ 7 ~ 6/18	チ エ コ: プラハ
アジアJr選手権大会 (男女)	2名	4名	11/26 ~11/29	イ ン ド: ムルマバード
世界マスターズ大会 (男女)	30名	8/25 ~ 9/ 1	ハンガリ- : カジンバルチカ	

5 協会ホームページの充実整備

ホームページの充実を図り、協会登録選手・役員ばかりでなく一般のインターネットユーザーにも情報発信とともに、情報を公開することで公益法人としての協会の責務を果たす。

6 医科学関係事業の実施

強化指定選手の健康管理・体力測定・心理調査等の実施とその結果のフィードバックにより、医科学サポートを実施する。

7 アンチドーピング活動

アンチドーピングの啓蒙と、JADA委嘱事業による競技会内外でのドーピング検査を実施する。

8 普及事業の実施

会報の定期的刊行により、競技大会の成績・記録、競技大会の案内、協会事業の紹介、特集等の広報に努める。

9 國際スポーツ交流活動に関する事業

IWF及びAWF総会等に代表者を派遣し、IWF・AWFとの連携を図り、加盟団体としての責任の履行と国際諸情報の収集に努める。

10 審判員の養成と講習会の開催

IWFのルール改正に基づく競技規則の周知徹底及び審判員の資質向上を図るため、国内1級審判員有資格者及び国内1級受験希望者を対象に、全国6カ所で講習会を開催する。

11 アジア選手権大会開催準備

2008年石川県金沢市で開催予定のアジア選手権大会準備委員会を発足させ、大会開催準備に万全を期す。

12 各委員会の活動推進

定款の定めによる専門委員会の活性化を図り、本会発展のため活発な活動を展開する。

13 環境に関する事業

IOC, JOCの環境問題への取り組みと連携して、環境に関わる啓発及び実践活動を行う。

14 表彰規程に基づく顕彰

優秀選手、優秀指導者、功労のあった役員を顕彰する。

15 財政の確立

本会が果たす役割と諸事業について各加盟団体並びに関係機関への理解に努め財政確保に資する。

(1)定款に基づく賛助会員の拡充の推進

(2)免税寄付金募集の全国展開

(3)各種競技会開催に伴う広告協賛等の募集及び獲得

(4)JOC委託金・スポーツ振興基金助成金・スポーツ振興くじ助成金等からの支援

(5)JOCオフィシャルパートナーシッププログラム競技団体タイアップマーケティングの賛同
企業募集及び獲得

平成19年度 行事開催計画（案）

社団法人 日本ウエイトリフティング協会

4月	5月	6月	7月	8月	9月
1日	1火	1金	1日	1水	1土
2月	2水	2土	2月	2木	2日
3火	3木	3日	3火	3金	3月
4水	4金	4月	4水	4土	4火
5木	5土	5火	5木	5日	5水
6金	(横浜市)	6日	6金	6月 全国高校 選手権大会 (佐賀県) 有田町)	6木
7土	7月	7木	7土	7火	7金
8日	8火	8金	8日	8水	8土
9月	9水	9土	9月	9木	9日
10火	10木	10日 全日本大学個人 選手権大会 (大阪・羽曳野)	10火	10金	10月
11水	11金	11月 ニュージニア 選手権	11水	11土	11火
12木	12土	12火	12木	12日 日体協コ-チ 養成専門教科 講習会 JISS	12水
13金	13日	13水	13金	13月	13木
14土	14月	14木	14土	14火	14金
15日	15火	15金	15日 全国高校女子 選手権大会 (和歌山県)	15水	15土
16月	16水	16土	16月	16木	16日 世界 選手権
17火	17木	17日 全日本マスターズ 選手権大会	17火	17金	17月 大会
18水	18金	18月	18水	18土	18火
19木	19土	19火	19木	19日	19水
20金	20日 アジア選手権 大会	20水	20金	20月	20木
21土	21月	21木	21土	21火	21金
22日	22火	22金	22日	22水	22土
23月 CHN	23水	23土	23月	23木	23日 THA
24火 山東省	24木	24日 全日本 選手権	24火	24金	24月 チェンマイ
25水	25金	25月	25水	25土	25火
26木	26土	26火	26木	26日 Jr交流 競技会	26水
27金	27日 (東京)	27水	27金	27月	27木
28土	28月	28木	28土	28火	28金
29日	29火	29金	29日	29水	29土
30月	30水	30土	30月 PER	30木	30日 国民体育大会
				25 全国中学生選手権 大阪府・羽曳野市	

10月	11月	12月	1月	2月	3月	
1月 2火 3水 4木 5金 6土 7日 8月 9火 10水 11木 12金 13土 14日 15月 16火 17水 18木 19金 20土 21日 22月 23火 24水 25木 26金 27土 28日 29月 30火 31水	国民体育大会 (秋田県 八郎潟町) 1木 2金 3土 4日 5月 6火 7水 8木 9金 10土 11日 12月 13火 14水 15木 16金 17土 18日 19月 20火 21水 22木 23金 24土 25日 26月 27火 28水 29木 30金	日韓中大会 中国・四川省 指導者講師競技別 全国講習会 JISS 社会人 選手権 大分県・国東市 全日本 ユース 選手権 学生新 人大会 (横浜) アジア ジュニア 選手権 羽見沢	1土 2日 3月 4火 5水 6木 7金 8土 9日 10月 11火 12水 13木 14金 15土 16日 17月 18火 19水 20木 21金 22土 23日 24月 25火 26水 27木 28金 29土 30日 31月	1火 2水 3木 4金 5土 6日 7月 8火 9水 10木 11金 12土 13日 14月 15火 16水 17木 18金 19土 20日 21月 22火 23水 24木 25金 26土 27日 28月 29火 30水 31木	1金 2土 3日 4月 5火 6水 7木 8金 9土 10日 11月 12火 13水 14木 15金 16土 17日 18月 19火 20水 21木 22金 23土 24日 25月 26火 27水 28木 29金 30日 31月	1土 2日 3月 4火 5水 6木 7金 8土 9日 10月 11火 12水 13木 14金 15土 16日 17月 18火 19水 20木 21金 22土 23日 24月 25火 26水 27木 28金 29土 30日 31月
9日~11日 乙部イカレ 羽見沢						
23日~26日 競技者育成プログラム 全国10地区展開						

記録一覧

第54回関西学生選手権大会	73
第27回全日本ジュニア選手権大会	74
第22回全国高等学校選抜大会	75
第22回関東高等学校選抜大会	77
第21回北信越高等学校選抜大会	77
第12回東海高等学校選抜大会	78
第11回近畿高等学校選抜大会	78
第10回中国高等学校選抜大会	79
第8回四国高等学校選抜大会	79
第16回全九州高等学校選抜大会	79

第54回関西学生選手権大会

●平成18年12月1日[56kg級～69kg級]・21日[70kg級～+105kg級] ●羽曳野総合スポーツセンター(羽曳野市)

56kg級

順位	氏名	大学名	生年	体重	スナッチ	1	2	3	クリーン&ジャーク	1	2	3	スナッチ	1	2	3	クリーン&ジャーク	1	2	3	S	C&J	順位											
1	岡田 英典	大阪商業大学	84 4	55.90	95	100	103	121	128 CR	135	x	95	1	128	1	223	95	1	135	140	x	105	3	140	1	245								
2	飼山 大樹	姫路獨協大学	86 3	54.76	85	88	88	90	110	112	115	x	88	3	112	3	200	85	3	108	137	x	100	6	137	3	245							
3	中山 大樹	立命館大学	87 1	54.12	80	85	90	100	108	108	108	x	90	2	108	4	198	6	松川 彰英	京都産業大学	85 3	81.70	95	100	x	137	x	137	103	137	1	137	2	237
4	成尾 一誠	大阪商業大学	85 3	55.20	80	85	85	86	110	113	115	x	80	5	113	2	193	8	裕樹 寿光	関西学院大学	86 2	81.90	65	70	x	75	x	75	95	7	100	7	175	
5	清水 一誠	関西大学	86 3	55.34	80	83	86	86	100	100	100	x	—	83	4	100	5	183	9	嶋山 正也	関西学院大学	84 4	81.72	55	60	x	75	x	75	80	8	80	8	150
6	新田 光弘	大阪商業大学	87 1	55.92	75	80	83	90	95	97	x	80	6	95	6	175	10	白川 正也	関西学院大学	84 4	81.72	55	60	x	70	x	70	55	10	70	10	125		

62kg級

順位	氏名	大学名	生年	体重	スナッチ	1	2	3	クリーン&ジャーク	1	2	3	S	順位	C&J	順位	トータル															
1	古澤 雄介	立命館大学	84 4	60.76	100	105	108	120	125	128	x	100	1	125	1	225	1	仲里 刚志	京都産業大学	95 3	87.18	115	120	x	145	x	155	2	155	1	270	
2	大河内祐介	大阪商業大学	85 3	58.24	90	95	95	110	115	116	x	90	2	116	3	206	2	片岡 貴志	大阪商業大学	85 4	89.78	105	113	x	148	x	118	1	140	2	258	
3	江本 麻伸	姫路獨協大学	88 1	58.78	90	95	95	110	115	116	x	90	3	116	4	206	3	野中 大智	大阪商業大学	86 2	91.48	110	115	x	135	x	141	1	110	3	245	
4	廣野 完	京都産業大学	87 1	58.66	85	85	85	110	115	117	x	85	4	117	2	202	4	田中 大智	京都産業大学	87 2	86.66	90	95	x	123	x	125	95	4	120	5	220
5	林 良則	関西学院大学	82 3	61.82	80	85	85	105	111	111	x	80	5	105	5	185	5	藤井 宗幸	関西大学	86 1	87.42	90	x	95	x	115	x	115	5	120	5	215
6	萩原 實貴	関西学院大学	84 4	61.50	72	76	78	92	96	100	x	76	6	96	6	172	6	足立 和輔	桃山学院大学	86 3	89.44	95	x	95	x	110	x	115	6	120	5	210
7	吉村 昌太	桃山学院大学	85 3	60.44	65	65	70	75	85	90	x	75	7	95	7	170	7	西田 卓磨	姫路獨協大学	86 2	86.72	83	x	92	x	110	x	115	8	120	5	203
8	宮下 新平	桃山学院大学	87 1	60.18	65	70	70	80	85	x	85	8	80	8	145	8	藤井 邦成	桃山学院大学	85 4	89.90	70	x	80	x	90	x	95	9	120	5	175	
9	西田康太郎	近畿大学	86 1	58.94	40	45	45	50	55	60	x	40	9	55	9	95	9	山口 秀樹	京都産業大学	87 1	87.46	65	x	76	x	90	x	95	10	95	10	160

69kg級

順位	氏名	大学名	生年	体重	スナッチ	1	2	3	クリーン&ジャーク	1	2	3	S	順位	C&J	順位	トータル
1	武市 聰	関西大学	87 1	68.24	113	x	113	116	x	135	138	x	143	1	143	1	256
2	五百萬正和	大阪商業大学	85 3	64.24	110	115	115	135	135	140	x	115	1	140	2	255	
3	福住 昌也	関西大学	86 3	67.98	105	111	111	130	135	135	x	111	3	135	3	246	
4	松本 和哉	京都産業大学	86 2	67.30	95	101	105	115	120	123	x	105	5	123	5	228	
5	吉本 泰之	大阪商業大学	84 4	65.28	100	105	106	115	121	123	x	106	4	121	6	227	
6	長野 和彦	姫路獨協大学	88 1	63.92	85	90	96	115	120	126	x	90	6	126	4	216	
7	平 柏也	姫路獨協大学	88 1	67.90	85	90	93	105	110	113	x	90	7	110	7	200	
8	阿部 好宏	大阪商業大学	87 1	67.50	80	85	85	100	105	105	x	80	8	100	8	180	
9	吉富淳一郎	関西学院大学	86 2	67.10	75	75	80	90	95	100	x	75	9	95	9	170	
10	中野 隆	近畿大学	65 3	63.58	72	75	75	85	90	91	x	72	10	90	10	162	
11	吉川 拓哉	関西学院大学	86 2	68.02	55	60	65	65	66	70	x	65	11	70	12	135	
12	白井三志郎	近畿大学	86 1	64.14	55	65	65	75	75	85	x	55	12	75	11	130	
13	行川 貴浩	近畿大学	84 3	64.58	50	55	57	65	70	70	x	55	13	65	14	120	
14	船津 啓謙	近畿大学	86 2	67.60	50	52	52	68	70	70	x	50	14	68	13	118	

77kg級

順位	氏名	大学名	生年	体重	スナッチ	1	2	3	クリーン&ジャーク	1	2	3	S	順位	C&J	順位	トータル
1	守谷 順	関西大学	85 3	75.44	115	120	122	150	155	x	120	1	150	1	270		
2	石田 祐人	関西学院大学	85 2	73.38	101	105	110	130	135	140	x	104	2	125	3	242	
3	金子 将之	大阪商業大学	85 4	71.24	100	105	107	130	143	x	107	4	107	3	235		
4	七井 慶也	大阪商業大学	84 4	76.08	100	105	110	125	132	x	110	3	125	6	228		
5	西村 寿登	近畿大学	87 1	73.32	95	100	103	120	125	x	103	5	125	6	227		
6	澤田 太郎	京都産業大学	85 4	69.53	95	98	101	115	126	x	101	6	126	4	227		
7	森松 孝尊	大阪商業大学	87 1	70.72	95	100	103	120	125	x	100	7	125	5	225		
8	住吉 隆司	立命館大学	87 1	73.08	95	98	115	120	120	x	115	10	115	10	213		
9	須永 翼	近畿大学	86 2	73.54	93	98	98	115	120	x	98	9	115	11	213		
10	井上 智博	桃山学院大学	88 1	75.66	93	98	98	115	120	x	93	10	120	9	213		
11	木本 正人	関西大学	83 1	69.66	65	71	75	90	95	x	71	11	90	12	161		
12	池本 武史	桃山学院大学	84 4	74.22	90	95	95	115	120	x	125	8	120	8	—		

| 73 |

順位	大学名	生年	体重	スナッチ	1	2	3	クリーン&ジャーク	1	2	3	S	順位	C&J	順位	トータル
1	大阪商業大学	85 2	84.88	100	105	108	105	104	x	133	1	133	1	225		
2	京都産業大学	86 2	83.86	96	100	104	104	105	x	128	1	128	1	225		
3	近畿大学	85 3	81.70	95	105	100	100	100	x	130	1	130	1	225		
4	桃山学院大学	84 4	84.10	75	x	75	75	75	x	120	1	120	1	220		
5	関西学院大学	86 2	81.90	65	70	x	70	70	x	85	1	85	1	175		
6	関西学院大学	84 4	80.56	55	60	x	60	60	x	80	1	80	1	150		
7	近畿大学	85 3	81.72	55	60	x	60	60	x	75	1	75	1	150		
8	関西学院大学	84 4	81.72	55	60	x	60	60	x	75	1	75	1	150		
9	近畿大学	85 3	81.72	55	60	x	60	60	x	75	1	75	1	150		
10	関西学院大学	84 4	81.72	55	60	x	60	60	x	75	1	75	1	150		
11	近畿大学	85 3	81.72	55	60	x	60	60	x	75	1	75	1	150		

JOCジュニアオリンピックカップ 第27回全日本ジュニア選手権大会

●平成19年4月10日(男子56kg級～77kg級・女子48kg級～+105kg級)・11日(男子85kg級～94kg級)

●さいたま市記念総合体育館

【男子】

56kg級

順位	都道府県名	所属	生年	体重	ス ナ ッ チ	ク リ ニ ン ジ ャ ク	S	ベ スト
			1	2	3	1	2	3
1 中川 大樹	山梨県立命館大学	87	55.48	93	97	100	115	120
2 大瀬 健一	東京農業大学	87	55.90	95	x	95	97	117
3 玉城 成一	沖縄県立高校	89	55.62	88	92	94	95	115
4 長谷川直也	富山県立中央大学	87	55.66	92	94	95	115	121
5 是友 優弘	山梨県立商業高校	89	55.76	90	92	x	92	120
6 清瀬 実輝	福島県立工業高校	88	55.42	90	93	95	112	112
7 守崎 優将	宮崎県立国際大学	87	55.90	86	x	86	110	114
8 東門 和輝	鹿児島県立高校	89	55.70	88	91	x	93	105
9 高橋 伸一	鳥取県立高校	88	55.72	90	93	x	94	105
10 板谷 典泰	愛媛県立工業高校	88	54.82	82	85	x	85	105
11 広野 完	福岡市立商業高校	87	55.88	80	x	80	90	105
古庄 佐平	宮崎県立商業高校	88	55.40	90	x	90	90	105
前田 桂平	石川県立高校	89	55.80	93	95	97	115	115

62kg級

1 中村 陽介	山梨県立法政大学	87	60.44	110	113	x	113	130
2 藤井 雄大	福島県立大学	88	61.18	98	101	110	113	135
3 黒江 直	宮崎県立国際大学	87	61.66	93	96	100	105	125
4 關根 哲	福島県立高校	87	61.52	100	x	100	105	125
5 平塚 伸介	山梨県立高校	87	59.60	95	x	95	100	125
6 仲本 勝也	東京都立日本大学	87	61.12	95	100	x	100	125
7 江本 麻伸	岡山県立商業大学	88	67.92	108	x	108	125	130
8 三田村和真	山形県立黒磯高校	89	61.60	90	x	90	95	118
9 畠田 勇哉	知多工業高等学校	89	61.08	90	x	90	112	118

69kg級

1 和田 大河	兵庫県立姫路工業高校	88	66.76	105	108	110	113	135
2 武草 龍	大阪府立大阪産業高等専門学校	87	68.20	113	116	x	118	140
3 伊藤 哲也	福島県立農業高校	90	68.46	110	115	x	116	140
4 高木 寛介	愛知県立農業高校	87	67.88	105	110	113	135	141
5 杉本 哲也	福島県立農業高校	87	68.54	112	115	x	135	140
6 上島 齐作	長崎県立農業高校	89	67.92	108	x	108	125	130
7 大深 栄也	大分県立農業高校	88	67.94	100	x	100	103	128
8 管野 拓也	岡山県立農業高校	87	68.24	100	x	100	108	125
9 杉野 胜浩	京都府立農業高等学校	88	66.68	100	x	100	105	125
10 村上 五郎	宮崎県立小林高校	88	69.00	107	x	110	110	140

77kg級

1 金子 相央	福島県立郡山農業高校	87	75.40	115	x	115	118	145
2 谷崎 正尚	愛媛県立農業高校	87	72.26	115	x	120	125	152
3 加藤 孝也	福島県立農業高校	87	71.88	103	108	x	108	145
4 高澤 慶平	福島県立農業高校	87	70.00	102	105	x	107	140
5 石川 繁永	山梨県立農業高校	88	76.82	108	x	110	135	142
6 秋原 慎	福島県立農業高校	88	71.84	105	108	x	137	141
7 松本 光司	富山県立農業高校	87	73.78	105	108	x	135	140
8 前羽 俊也	京都府立農業高校	88	73.28	103	110	x	135	140
9 關根 忍	福島県立農業高校	88	76.30	100	105	x	100	133
10 玉城 唐人	京都府立農業高等学校	87	73.76	100	x	100	130	145
中大 俊樹	日本大学	87	74.20	115	x	115	150	152

85kg級

順位	都道府県名	所属	生年	体重	ス ナ ッ チ	ク リ ニ ン ジ ャ ク	S	ベ スト
			1	2	3	1	2	3
1 衛藤 雄弘	大分県立農業高校	88	84.84	120	125	x	128	145
2 遠藤 格輝	福島県立農業高校	87	83.70	120	125	x	133	137
3 平原 孝人	埼玉県立農業高校	89	84.56	125	130	x	120	161
4 米山 圭一	山梨県立農業高校	87	84.80	116	x	116	120	160
5 安森 吉司	福島県立農業高校	87	84.00	118	x	118	123	150
6 吉岡 健太	島根県立中央大学	87	84.44	113	x	113	115	145
7 神切 卓二	山形県立中央大学	87	84.40	115	x	120	120	145
8 辻 拓輔	石川県立実業高校	89	78.96	110	115	x	115	141
9 丹羽 清文	京都府立命館大学	87	84.30	100	108	x	110	140
10 長谷川直介	東京金沢学院大学	87	77.10	107	112	x	125	125

94kg級

順位	都道府県名	所属	生年	体重	ス ナ ッ チ	ク リ ニ ン ジ ャ ク	S	ベ スト
			1	2	3	1	2	3
1 佐藤 宏	福島県立農業高校	89	91.22	120	125	x	127	160
2 白石 安明	九州国際大学	87	92.52	125	128	x	131	164
3 山崎 直希	宮崎県立学院大学	87	93.30	120	125	x	125	165
4 中島 啓介	東京農業大学	87	88.46	110	115	x	117	148
5 井川真一	山梨県立高校	88	91.60	120	123	x	123	150
6 渡邊 勝	東京農業大学	87	92.40	113	116	x	118	149
7 伊賀 智弘	滋賀県立農業高校	88	93.60	120	125	x	130	150
8 村越 卓	秋田県立経済科大	87	92.54	120	126	x	126	156
9 中村 亨	福岡県立大学	87	92.90	115	115	x	115	147

105kg級

順位	都道府県名	所属	生年	体重	ス ナ ッ チ	ク リ ニ ン ジ ャ ク	S	ベ スト
			1	2	3	1	2	3
1 小林 弘	福岡県立農業高校	87	104.84	126	x	126	131	165
2 佐藤 琢	宮崎県立農業高校	87	103.94	120	120	x	125	165
3 宮平 雄	東京農業大学	87	99.12	120	125	x	125	165
4 山崎 勝	福島県立農業高校	87	100.40	120	125	x	125	165
5 小堀 一輝	山梨県立農業高校	87	103.42	115	120	x	120	159
6 二羽 泰一	群馬県立農業高校	87	104.56	120	125	x	125	157
7 宮下 駿	宮崎県立農業高校	87	103.24	118	118	x	122	157
8 三澤 伸	福島県立農業高校	87	96.46	105	105	x	111	150
9 三澤 伸	福島県立農業高校	87	96.46	105	105	x	135	150

【女子】

順位	都道府県名	所属	生年	体重	ス ナ ッ チ	ク リ ニ ン ジ ャ ク	S	ベ スト
			1	2	3	1	2	3
1 中部 有理	兵庫県立甲南大学	87	47.46	60	62	x	80	86
2 稲谷 春菜	岡山県立農業高校	89	47.94	68	68	x	86	86
3 伊藤 幸尖	三重県立農業高校	89	46.80	57	x	60	78	78
4 前田咲野	福島県立農業高校	87	45.00	59	x	60	72	72
5 上原美季子	福島県立農業高校	89	46.40	57	x	66	69	69
6 松山 洋香	長野県立農業高校	90	47.86	46	48	x	60	65

48kg級

順位	都道府県名	所属	生年	体重	ス ナ ッ チ	ク リ ニ ン ジ ャ ク	S	ベ スト
			1	2	3	1	2	3
1 金子 相央	福島県立郡山農業高校	87	44.70	125	125	x	125	125
2 谷崎 正尚	大分県立農業高校	87	42.26	120	125	x	125	125
3 加藤 孜也	福島県立農業高校	87	41.88	120	125	x	125	125
4 高澤 慶平	福島県立農業高校	87	41.88	120	125	x	125	125
5 石川 繁永	山梨県立農業高校	88	41.82	108	110	x	110	12

53kg級

順位	姓 名	所属	生年	体重	スナッチ	1	2	3	スナッチ	1	2	3	C&J	スナッチ	1	2	3	クリーン&ジャーク	1	2	3	S	クリーン&ジャーク	1	2	3	バスケット	トータル
1	竹下 葦緒	東都金沢学院大学	88	52.14	72	75	77	90	93	96	104	108	x	84	100	104	108	113	93	1	104	1	170	1	170	1	170	1
2	田中八千代	埼玉埼玉栄高校	89	52.58	70	x	70	x	93	x	93	70	4	93	2	163	2	163	2	163	2	163	2	163	2	163	2	
3	具志堅沙希	沖縄南都工業高校	90	52.48	73	x	75	x	85	x	88	x	75	2	85	4	142	4	142	4	142	4	142	4	142	4		
4	金城 尚尚	沖縄南都工業高校	87	52.02	68	x	70	x	85	x	89	x	70	3	155	3	155	3	155	3	155	3	155	3				
5	益谷 純	東京都麻羽高校	88	52.02	62	x	64	x	55	x	67	x	70	2	55	6	127	6	127	6	127	6	127	6				
6	水谷 佳	北海道西彼葉業高校	88	52.84	50	x	53	x	57	x	68	x	70	3	55	6	125	6	125	6	125	6	125	6				
7	太田 駿子	長崎西彼葉業高校	89	52.84	53	x	55	x	60	x	60	x	65	3	53	8	113	8	113	8	113	8	113	8				
8	官野 宜	福島福島明成高校	91	52.88	45	x	50	x	53	x	60	x	60	3	53	8	113	8	113	8	113	8	113	8				

58kg級

順位	姓 名	所属	生年	体重	スナッチ	1	2	3	スナッチ	1	2	3	C&J	スナッチ	1	2	3	クリーン&ジャーク	1	2	3	S	クリーン&ジャーク	1	2	3	バスケット	トータル
1	谷口 亜純	京都立命館大学	87	56.26	72	x	75	x	93	x	95	x	75	1	93	1	168	1	168	1	168	1	168	1				
2	小瀬沙乃	沖縄南都工業高校	87	56.38	68	x	71	x	91	x	94	x	72	3	91	2	163	2	163	2	163	2	163	2				
3	菊田 美奈	東京都飯田高校	89	57.72	72	x	75	x	88	x	92	x	75	2	88	5	163	5	163	5	163	5	163	5				
4	狩俣 真実	北海道北海道英来高校	88	52.84	50	x	53	x	67	x	70	x	72	4	88	4	160	4	160	4	160	4	160	4				
5	太田 駿	東京都立命館大学	89	52.84	53	x	55	x	68	x	70	x	73	x	55	6	127	6	127	6	127	6	127	6				
6	大庭 早紀子	京都立命館大学	89	56.94	63	x	63	x	68	x	85	x	90	x	93	x	153	3	153	3	153	3	153	3				
7	木下ちひろ	京都都鳥羽高校	89	56.90	60	x	63	x	63	x	74	x	77	x	63	6	142	6	142	6	142	6	142	6				
8	本城早紀子	京都都鳥羽高校	89	57.22	52	x	52	x	55	x	69	x	72	x	55	8	127	8	127	8	127	8	127	8				

63kg級

順位	姓 名	所属	生年	体重	スナッチ	1	2	3	スナッチ	1	2	3	C&J	スナッチ	1	2	3	クリーン&ジャーク	1	2	3	S	クリーン&ジャーク	1	2	3	バスケット	トータル
1	宮平奈美子	沖縄南都原高校	88	62.68	80	x	83	x	86	x	100	x	106	x	86	1	100	1	186	1	186	1	186	1				
2	大杉 星子	京都立命館大学	87	62.84	70	x	73	x	74	x	88	x	91	x	73	2	164	2	164	2	164	2	164	2				
3	西脇 京子	東京都加悦谷高校	89	62.82	68	x	70	x	90	x	93	x	68	1	93	1	158	1	158	1	158	1	158	1				
4	柳原 貢	沖縄南都原高校	89	60.26	66	x	69	x	71	x	81	x	86	x	71	3	157	3	157	3	157	3	157	3				
5	柿沼 智美	東京都立命館大学	90	62.06	63	x	66	x	68	x	83	x	88	x	68	4	156	4	156	4	156	4	156	4				
6	園子絵里菜	山形平成国際大学	88	61.78	68	x	71	x	83	x	86	x	90	x	68	5	155	5	155	5	155	5	155	5				
7	鈴木 舞	秋田日本体育大学	87	60.36	68	x	68	x	68	x	80	x	83	x	85	4	155	4	155	4	155	4	155	4				
8	奥山 友紀三	東京都早稲田大学	87	60.50	63	x	63	x	66	x	82	x	84	x	87	3	155	3	155	3	155	3	155	3				
9	瀬戸夕紀子	石川津幡高校	89	61.92	60	x	63	x	63	x	73	x	77	x	80	3	143	3	143	3	143	3	143	3				

69kg級

順位	姓 名	所属	生年	体重	スナッチ	1	2	3	スナッチ	1	2	3	C&J	スナッチ	1	2	3	クリーン&ジャーク	1	2	3	S	クリーン&ジャーク	1	2	3	バスケット	トータル
1	谷 伸	山形平成国際大学	87	68.86	80	x	84	x	84	x	100	x	104	x	84	1	104	1	188	1	188	1	188	1				
2	長谷川由佳	東京明治大学	87	68.24	70	x	73	x	75	x	90	x	93	x	75	2	171	2	171	2	171	2	171	2				
3	矢野 健	東京都加悦谷高校	88	63.56	68	x	68	x	68	x	88	x	88	x	68	3	154	3	154	3	154	3	154	3				
4	高田 淳理	山形平成国際大学	87	68.56	63	x	68	x	72	x	75	x	80	x	85	4	153	4	153	4	153	4	153	4				
5	端木 静	和歌山和歌山東高校	90	65.40	67	x	67	x	71	x	80	x	80	x	86	5	147	5	147	5	147	5	147	5				

75kg級

順位	姓 名	所属	生年	体重	スナッチ	1	2	3	スナッチ	1	2	3	C&J	スナッチ	1	2	3	クリーン&ジャーク	1	2	3	S	クリーン&ジャーク	1	2	3	バスケット	トータル
1	井上 佐織	三重県立中央工業高校	90	74.30	75	x	80	x	83	x	100	x	107	x	113	x	107	1	187	1	187	1	187	1				
2	山田 翔子	埼玉埼玉栄高校	90	72.54	68	x	71	x	73	x	90	x	92	x	93	2	166	2	166	2	166	2	166	2				
3	榎木 博美	沖縄珠洲実業高校	88	69.24	64	x	67	x	67	x	84	x	105	x	105	1	186	1	186	1	186	1	186	1				
4	玉村 順生	日本体育大学	87	74.32	67	x	67	x	67	x	90	x	90	x	90	4	147	4	147	4	147	4	147	4				

+75kg級

順位	姓 名	所属	生年	体重	スナッチ	1	2	3	スナッチ	1	2	3	C&J	スナッチ	1	2	3	クリーン&ジャーク	1	2	3	S	クリーン&ジャーク	1	2	3	バスケット	トータル
1	嶋本 康美	宮城金沢学院大学	87	100.54	93	x	97	x	100	x	118	x	123	x	97	1	127	1	224	1	224	1	224	1				
2	制野 真理	宮城金沢学院大学	87	87.64	85	x	90	x	84	x	105	x	105	x	110	2	160	2	160	2	160	2	160	2				
3	比嘉真理子	沖縄豊見城高校	86	92.02	80	x	84	x	84	x	105	x	111	x	80	3	185	3	185	3	185	3	185	3				
4	大西 はるか	東京都加悦谷高校	88	96.80	72	x	74	x	100	x	105	x	105	x	74	4	174	4	174	4	174	4	174	4				
5	谷上 蛍	石川飯田高校	89	85.66	64	x	64	x	64	x	80	x	84	x	87	5	151	5	151	5	151	5	151	5				
6	林 美佳	長野野々村高校	93	83.10	60	x	63	x	65	x</																		

女子
紐

53KG級	
1 真吉聖美沙滑	冲縄南部工業高校
2 田中八千代	埼玉県立玉川高校
3 吉野千枝	埼玉県立玉川高校
4 太田朝子	埼玉西施籠業高校
5 今井彩香	埼玉県立土板商業高校
6 今永幸力	埼玉県立春香寺高校
7 松本真理恵	埼玉県立工業高校
8 福本真理恵	埼玉県立山形高等学校
9 平尾由佳	埼玉県立鳩山高校
10 田原志帆	埼玉県立明成高校
11 横井三重	埼玉県立龜山高校
58KG級	
1 木下ちひろ	高崎市立羽鳥高校
2 中井美保	兵庫県立鷹友が丘高校
3 飯塚沙弥	埼玉県立玉川高校
4 山本優子	埼玉県立若葉東高校
5 本城平洋	都城東高校
6 渡辺桂奈	宮崎県立高城高校
7 新城美咲	沖縄県立豊見城高校
8 小賀央実	沖縄県立第一高校
9 高橋寛子	茨城県立津幡高校
10 渡辺奈子	茨城県立手取高等学校
63KG級	
1 柳沼沙苗	埼玉県立玉川高校
2 佐藤奈緒	埼玉県立農業商業高校
3 谷山祐里菜	沖縄県立豊見城高校
4 奈良麻衣	沖縄県立那珂川北高校
5 濑戸夕紀子	石川県立工業高校
6 中島未恵	兵庫県立明石城西高校
69KG級	
1 岛本愛	和歌山県立東山高校
2 大城裕里江	沖縄県立沖縄工業高校
3 稲木博美	石川県立農業高校
75KG級	
1 仲村理奈	沖縄県立東山高校
2 山田智子	埼玉県立玉川高校
+75KG級	
1 藤岡佳菜	山口県立農業高校
2 林美生	長野県立西高校

77kg級

順位	都道府県	氏名	学校名	生年			学年			スナッチ			クリーン&ジャーク			ベスト		
				年	年	年	1	2	3	1	2	3	1	2	3	S團(CJL)順	トータル	
1	関東	祐太	都 加悦谷高校	89	2	69.2	69.15	105	108	110	110	127	134	138	108	2	1246	
2	上島	晋	長嶺	89	2	69.2	69.15	107	110	110	110	127	131	131	110	1	237	
3	塚越	俊	梨川高校	89	2	70.63	95	100	102	102	102	127	130	136	102	5	232	
4	安達	貴弘	知恵山高等学校	91	1	71.28	96	100	x	100	126	129	132	100	7	192	232	
5	加勢	知寛	城陽工業高校	89	2	74.82	97	x	97	100	125	129	129	100	8	129	4	
6	高月	拓志	山笠岡工業高校	90	2	74.82	101	103	105	120	122	123	123	103	4	123	226	
7	坂井	吉泰	山重工業高校	89	2	76.72	101	104	x	104	115	118	122	104	3	123	6	
8	津波達也	三郎	沖縄南西部工業高校	89	2	74.49	100	102	104	118	123	123	123	102	6	123	226	
9	三浦 宏也	和也	山川清瀬高校	90	1	74.40	91	95	x	95	116	122	126	97	9	122	8	
10	仲瀬 大輔	和也	川津瀬高校	90	2	73.04	90	x	90	90	115	115	115	95	10	120	10	
																215		
85KG級																		
1	大村	祐之	東山	都 加悦谷高校	89	2	84.23	103	110	115	120	130	138	143	110	1	253	
2	山川	小徹	米山	梨吉田高校	90	2	80.94	97	100	x	100	126	129	134	100	3	229	
3	小川	宏利	山	根出雲高校	89	2	81.00	101	103	106	123	125	125	106	2	229		
4	又吉	康斗	鳥	繩木原工業高校	89	2	84.36	95	x	95	120	125	125	98	6	223		
5	多和田	史平	島	糸満商業高校	90	1	81.83	93	97	100	120	125	126	97	7	222		
6	小山	誠平	島	早土坂商工高校	89	2	81.89	100	x	100	115	120	122	100	4	222		
7	鈴木	勝	島	山笠岡工業高校	89	2	83.05	95	98	100	120	123	125	98	5	221		
8	荒川	喜馬	島	知恵山高等学校	89	2	83.63	90	95	x	95	120	125	95	9	220		
9	山口	祐基	山	梨桂高校	89	2	82.90	93	97	99	122	125	126	97	8	219		
10	田口	達介	木	木山北陵高校	89	2	77.08	88	93	95	122	127	127	93	10	215		
94KG級																		
1	白石	聰明	福	闇九郎國際大学付属高校	89	2	91.43	120	127	127	130	130	135	163	x	155	1	282 CR
2	比嘉	敏士	良士	沖	城堀	都 加悦谷高校	89	2	90.86	105	108	111	130	134	138	111	3	249
3	荒井	敏也	島	大分芦北高等学校	89	2	92.80	100	100	110	130	135	140	106	4	246		
4	加藤	温恭	島	勿来工業高校	89	2	90.18	100	104	x	104	133	133	137	x	140	5	
5	竹内	陽祐	島	市立中央工業高校	89	2	88.62	100	103	105	130	133	133	105	5	237		
6	大谷	祥悟	島	多摩工業高校	89	2	88.88	97	101	104	120	125	130	104	6	235		
7	熊谷	喜馬	島	木下田高校	89	2	91.93	95	100	102	120	125	125	104	8	229		
8	西涼	涼闘	沖	川瀬来工科高校	90	1	91.9	95	98	x	100	125	130	135	x	125	9	
9	木林	亮己	宮	都 加悦谷高校	90	1	87.49	98	x	98	100	125	130	135	x	130	6	—
105KG級																		
1	前沢	拓哉	京	都 加悦谷高校	89	2	100.38	105	109	111	113	138	142	145	x	148	1	259
2	岸沢	拓哉	山	大石	都 加悦谷高校	89	2	95.45	108	x	108	115	130	135	140	145	2	258
3	佐藤	亮介	島	大分芦北高等学校	90	2	104.27	110	112	114	125	135	140	143	145	3	255	
4	大畠	昌士	島	津幡高校	90	2	94.78	105	108	110	130	132	137	144	x	140	4	248
5	藤原	眞太郎	島	倉敷商業高校	89	2	98.11	100	103	103	125	132	137	103	5	240		
6	岡崎	暁	島	津幡高校	89	2	103.09	105	108	110	120	125	130	110	4	240		
7	松本	裕希	島	木下山南高校	90	2	101.19	97	102	x	102	120	125	102	7	227		
8	鶴巣	彩	島	木下川高校	90	2	101.78	97	101	x	101	125	125	130	97	9	227	
9	増田	幹也	島	五所川原工業高校	89	2	102.20	95	100	103	120	120	120	100	8	226		
10	光岡	圭太	島	都 加悦谷高校	89	2	94.60	93	97	x	97	125	130	133	100	6	223	
11	山田	圭太	島	都 加悦谷高校	89	2	103.87	93	x	93	100	120	125	130	93	12	218	
12	大村	耕大	島	都 加悦谷高校	90	2	94.12	85	90	93	110	115	120	125	130	125	11	213
+105KG級																		
1	中瀬	隼太	香	川多摩工業高校	89	2	125.57	117	122	125	x	145	150	155	x	122	1	272
2	前沢	拓哉	群	馬川津幡高校	90	2	114.24	110	115	118	140	146	146	146	x	118	4	264
3	美山	隼哉	石	都 加悦谷高校	89	2	113.67	115	118	120	140	140	140	150	x	118	3	258
4	山田	篤哉	都	都 加悦谷高校	90	2	112.68	100	105	108	126	130	132	138	130	5	240	
5	小林	誠	都	尼崎工大高校	89	2	117.06	95	100	102	125	129	134	134	102	9	236	
6	長谷川	康	都	神戸高工高校	90	1	114.29	95	100	105	120	125	130	130	105	6	235	
7	大庭	誠	都	神戸高工高校	90	2	137.83	95	100	105	125	130	134	134	100	11	230	
8	青木	昇	都	都 加悦谷高校	90	2	127.17	101	x	103	106	122	122	122	106	6	228	
9	中菜	昇	都	都 加悦谷高校	89	2	120.88	95	100	105	120	125	125	125	100	6	225	
10	小林	翔	都	都 加悦谷高校	89	2	111.68	92	97	x	102	122	127	131	125	9	225	
11	木村	翔太	都	都 加悦谷高校	90	2	108.95	95	100	103	120	125	130	130	125	8	224	
12	高倉	隼大	都	都 加悦谷高校	90	2	109.83	113	116	120	140	140	140	140	120	2	224	

第22回関東高等学校選抜大会

2007.01.20~21 群馬県前橋市

階級	順位	姓氏名	学籍名	学校名	都道府県	学年	体重	スナック			クリーン＆シャワー			バス・ト				
								1	2	3	1	2	3	S	暖	CeO	脂	
53Kg 1	高岡 悠	吉田高枝	2	52.56	63	56	69 ×	80	84	97	66	1	87	66	1	87	153	
53Kg 2	榎本 風	吉田高枝工業高校	2	52.22	63	56	69 ×	80	73	97	56	2	86	56	2	86	132	
53Kg 3	金沢 大	吉田高枝工業高校	1	51.38	48	53 ×	53	63	68	71	53	3	71	3	71	3	124	
56Kg 1	大河内 優	吉田高枝	2	55.62	74	74 ×	74	95 ×	95	101 ×	74	1	95	1	95	1	169	
56Kg 2	石森裕太	吉田高枝	2	55.42	63	66 ×	64	80	86	86 ×	86	2	86	2	86	2	152	
56Kg 3	金沢 大	吉田高枝	2	55.34	64 ×	64 ×	64	80	85	88 ×	88	3	85	3	85	3	149	
56Kg 4	阿部 良	吉田高枝	2	54.82	60	63 ×	63	75	81 ×	85 ×	83	4	75	4	75	4	138	
56Kg 5	丸木 貴	吉田高枝	2	55.24	50	55 ×	55	60	65	68	68	5	68	5	68	5	123	
62Kg 1	原塚 嘉	吉田高枝	2	61.14	95	95 ×	95	99 CR	115	120	124 ×	99	1	99	1	99	1	219
62Kg 2	茅場 武志	吉田高枝	2	60.72	85	89 ×	89	103	107	110 ×	105	2	107	2	107	2	192	
62Kg 3	斎藤 遼	吉田高枝	2	60.88	80	83 ×	85	100	105	107 ×	103	3	105	3	105	3	188	
62Kg 4	西村 真	吉田高枝	1	61.50	78	63 ×	63	102	105	107	76	5	105	5	105	5	183	
62Kg 5	池田 大輝	吉田高枝	1	61.08	70	80 ×	82	90	95 ×	98	82	4	98	5	98	5	180	
62Kg 6	井石 千	吉田高枝	1	61.42	65	70	73 ×	85	90	92	70	8	92	6	92	6	162	
62Kg 7	岳山 理智	吉田高枝	2	57.94	70	75 ×	78	85 ×	85	90 ×	95	9	85	9	85	9	160	
62Kg 8	大澤 浩	吉田高枝	2	61.66	65	70 ×	70	90	95 ×	98	86	10	95	10	95	10	155	
62Kg 9	菅谷 実	吉田高枝	1	60.28	61	60 ×	60	83	87 ×	87	65	9	87	8	87	8	152	
62Kg 10	吉川 充	吉川法政大学第二高校	1	57.84	53	58 ×	58	72	77 ×	77	58	11	77	10	77	10	135	
62Kg 11	相馬 健	吉田高枝	1	61.40	67	67 ×	67	90 ×	90	90 ×	90	7	90	7	90	7	—	
62Kg 12	武井誠一	吉田高枝	2	65.88	95	99 ×	103	115	120	125	103	1	125	1	125	1	228	
68Kg 1	大森 伸	吉田高枝	2	68.66	80	85 ×	85	105	109	111 ×	103	1	111	1	111	1	198	
68Kg 2	大森 良	吉田高枝	2	65.12	82	85 ×	84	103	107	111 ×	103	2	107	2	107	2	195	
68Kg 3	斎藤 遼	吉田高枝	2	66.82	85	90 ×	90	107	110	113 ×	103	3	110	3	110	3	195	
68Kg 4	長尾 千	吉田高枝	2	68.16	83 ×	83	87	102	106 ×	106	3	107	3	107	3	193		
68Kg 5	飯島 勝	吉田高枝	2	65.94	70	75 ×	76	100	105	107	76	8	107	5	107	5	183	
68Kg 6	白川 伸	吉田高枝	2	67.40	70 ×	70	75	97	102	106	75	10	106	6	106	6	181	
68Kg 7	山本 勝	吉田高枝	2	66.06	72 ×	72	76	98	101	104 ×	76	9	104	8	104	8	180	
68Kg 8	出山 千	吉田高枝	2	68.26	75	80 ×	80	97	100	102 ×	80	10	99	10	99	10	180	
68Kg 9	鈴木 康	吉田高枝	2	65.58	72	76 ×	78	90	95 ×	95	78	7	95	10	95	10	173	
68Kg 10	土屋 壮	吉田高枝	1	65.68	70	70 ×	72	85 ×	85	93 ×	93	11	93	11	93	11	150	
68Kg 11	山口保直	吉田高枝	1	63.18	68	63 ×	63	73 ×	73	78	80	12	80	12	80	12	138	
69Kg 1	山口淳洋	吉田高枝	1	75.98	95	99 ×	102	125	129	132 ×	102	1	129	1	129	1	231	
69Kg 2	大森 伸	吉田高枝	2	70.16	90	95 ×	98	110	115	120 ×	98	2	120	2	120	2	218	
69Kg 3	大森 良	吉田高枝	2	75.44	85	90 ×	92	115	120	124 ×	90	3	120	3	120	3	210	
69Kg 4	長尾 千	吉田高枝	1	72.80	80	83 ×	85	108 ×	108	111 ×	85	4	108	4	108	4	193	
69Kg 5	佐藤 隆介	吉田高枝	1	72.50	75	80 ×	83	95	100	103 ×	80	6	100	5	100	5	180	
69Kg 6	金井 一輝	吉田高枝	1	73.16	75	78 ×	81	92	97	100 ×	81	5	97	6	97	6	178	
69Kg 7	金澤 宏	吉田高枝	1	71.62	70 ×	70	75	95	102	105 ×	75	8	97	9	97	9	165	
69Kg 8	渡辺 千	吉田高枝	2	75.66	60	70 ×	72	80 ×	80	80 ×	80	9	80	9	80	9	150	
69Kg 9	遠山 太	吉田高枝	1	70.44	60	65 ×	70	80	87 ×	87	80	10	80	8	80	8	145	
77Kg 1	岩田太郎	吉田高枝	1	76.04	75	80 ×	83	95 ×	95	95 ×	95	8	95	8	95	8	—	
77Kg 2	加勢 伸	吉田高枝	2	79.84	95	99 ×	102	125	130	132	102	1	132	1	132	1	234	
77Kg 3	坪井 勇	吉田高枝	2	80.32	92	95 ×	95	120	125	130 ×	90	5	130	2	130	2	220	
77Kg 4	佐藤 勇	吉田高枝	2	82.42	93 ×	93	97 ×	120	125 ×	125	125	3	120	3	120	3	213	
77Kg 5	佐藤 隆	吉田高枝	1	78.36	78	82 ×	82	100	105	108 ×	93	2	108	4	108	4	201	
77Kg 6	伊藤 勇	吉田高枝	1	80.52	78 ×	78	81	102	107 ×	107	107	1	107	1	107	1	188	
77Kg 7	大曾根 勇	吉田高枝	1	83.88	75	80 ×	80	105	109 ×	109	109	1	109	1	109	1	185	
77Kg 8	鶴見 勇	吉田高枝	2	84.24	80	85 ×	80	95	100	105 ×	85	6	105	6	105	6	185	
77Kg 9	鶴見 勇	吉田高枝	2	80.98	75	80 ×	80	92	95	100 ×	80	8	100	8	100	8	185	
77Kg 10	鶴見 勇	吉田高枝	2	84.88	70	80 ×	80	92	96 ×	96	97	10	97	10	97	10	180	
77Kg 11	鶴見 勇	吉田高枝	2	78.32	72	75 ×	75	90 ×	90	90 ×	90	11	90	10	90	10	165	
77Kg 12	鶴見 勇	吉田高枝	2	82.82	60	65 ×	65	80 ×	80	86 ×	86	11	86	11	86	11	145	
95Kg 1	山口 勇	吉田高枝	2	84.42	87	92 ×	95	115 ×	115	115 ×	92	4	115	4	115	4	—	
95Kg 2	田口 勇	吉田高枝	2	92.34	88	91 ×	95	115 ×	115	115 ×	92	4	115	4	115	4	—	
95Kg 3	山口 勇	吉田高枝	1	86.66	80	85 ×	88	110 ×	115	115 ×	117	2	117	2	117	2	202	
95Kg 4	田口 勇	吉田高枝	1	86.36	78	84 ×	84	108 ×	111	116 ×	84	4	116	4	116	4	200	
95Kg 5	山口 勇	吉田高枝	2	90.96	87	92 ×	95	104 ×	104	108 ×	111	2	110	4	110	4	198	
95Kg 6	高橋 勇	吉田高枝	1	91.90	75	80 ×	83	95 ×	95	100 ×	106	4	106	4	106	4	196	
95Kg 7	鶴見 勇	吉田高枝	2	87.34	75	80 ×	80	95 ×	95	100 ×	104	2	104	2	104	2	194	
95Kg 8	高橋 勇	吉田高枝	1	92.58	65	75 ×	75	95 ×	95	100 ×	104	4	104	4	104	4	197	
95Kg 9	早坂 勇	吉田高枝	1	95.35	60	65 ×	65	80 ×	80	85 ×	85	11	85	11	85	11	197	
95Kg 10	鶴見 勇	吉田高枝	2	95.25	65	70 ×	70	95 ×	95	100 ×	104	2	104	2	104	2	197	
95Kg 11	鶴見 勇	吉田高枝	2	95.35	65	70 ×	70	95 ×	95	100 ×	104	2	104	2	104	2	197	
95Kg 12	鶴見 勇	吉田高枝	2	95.35	65	70 ×	70	95 ×	95	100 ×	104	2	104	2	104	2	197	
95Kg 13	鶴見 勇	吉田高枝	2	95.35	65	70 ×	70	95 ×	95	100 ×	104	2	104	2	104	2	197	
95Kg 14	鶴見 勇	吉田高枝	2	95.35	65	70 ×	70	95 ×	95	100 ×	104	2	104	2	104	2	197	
95Kg 15	鶴見 勇	吉田高枝	2	95.35	65	70 ×	70	95 ×	95	100 ×	104	2	104	2	104	2	197	
95Kg 16	鶴見 勇	吉田高枝	2	95.35	65	70 ×	70	95 ×	95	100 ×	104	2	104	2	104	2	197	
95Kg 17	鶴見 勇	吉田高枝	2	95.35	65	70 ×	70	95 ×	95	100 ×	104	2	104	2	104	2	197	
95Kg 18	鶴見 勇	吉田高枝	2	95.35	65	70 ×	70	95 ×	95	100 ×	104	2	104	2	104	2	197	
95Kg 19	鶴見 勇	吉田高枝	2	95.35	65	70 ×	70	95 ×	95	100 ×	104	2	104	2	104	2	197	
95Kg 20	鶴見 勇	吉田高枝	2	95.35	65	70 ×	70	95 ×	95	100 ×	104	2	104	2	104	2	197	
95Kg 21	鶴見 勇	吉田高枝	2	95.35	65	70 ×	70	95 ×	95	100 ×	104	2	104	2	104	2	197	
95Kg 22	鶴見 勇	吉田高枝	2	95.35	65	70 ×	70	95 ×	95	100 ×	104	2	104	2	104	2	197	
95Kg 23	鶴見 勇	吉田高枝	2	95.35	65	70 ×	70	95 ×	95	100 ×	104	2	104	2	104	2	197	
95Kg 24	鶴見 勇	吉田高枝	2	95.35	65	70 ×	70	95 ×	95	100 ×	104	2	104	2	104	2	197	
95Kg 25	鶴見 勇	吉田高枝	2	95.35	65	70 ×	70	95 ×	95	100 ×	104	2	104	2	104	2	197	
95Kg 26	鶴見 勇	吉田高枝	2	95.35	65	70 ×	70	95 ×	95	100 ×	104	2	104	2	104	2	197	
95Kg 27	鶴見 勇	吉田高枝	2	95.35	65	70 ×	70	95 ×	95	100 ×	104	2	104	2	104	2	197	
95Kg 28	鶴見 勇	吉田高枝	2	95.35	65	70 ×	70	95										

第20回 北信越高等学校選抜大会

新潟県三条市 007.02.04

53Kg	1 小河 優哉	根井 雪路	若狭高等学校	2	52.49	73 ×	73 ×	90	95	97 ×	73 1	95 1	168
53Kg	2 荻南寺 健太	鴻 沢	新潟工業高等学校	1	52.54	55	60	62	80	83	83	62	90
53Kg	3 三森 康一	村上 明	新潟工業高等学校	1	52.35	55	58	60	70	70	73	58	3
56Kg	1 村上 朋	富山	山形高等学校	2	54.96	78	80	84	98	102 ×	80	1	98 1
56Kg	2 石崎 成秀	山形	新潟工業高等学校	1	55.60	65 ×	65	70	90	93 ×	65 2	90 2	155
56Kg	3 今嶋 良要	榎本 哲	井并 小糸水高等学校	1	55.78	47	50	52	60	69	71	71	123
56Kg	4 横木 大輔	福士	新潟工業高等学校	2	54.31	58 ×	58	60	73	73 ×	58	3	—
56Kg	5 佐々木 勇士	富山	小糸水高等学校	2	55.54	78 ×	78 ×	—	—	—	—	—	—
62Kg	1 藤井 順太	富山	山形高等学校	2	59.21	75	78	80	85	90	93	80	1
62Kg	2 國口 豊	福井	山形高等学校	2	61.54	70	70	74	90 ×	92	74 2	90	3
62Kg	3 藤田 活吉	福井	井并 小糸水高等学校	1	60.92	70 ×	70	74	80	83	86	70	4
62Kg	4 北口 義博	福井	饭田高等学校	2	60.15	68 ×	68	72	75	80 ×	80	88	4
62Kg	5 金子 敦紀	福井	山形高等学校	1	60.15	62	67	80	83	85	85	85	148
62Kg	6 梅川 雄志	富山	新潟工業高等学校	2	60.59	80 ×	80 ×	80	100	103 ×	103	65	148
62Kg	7 田中 駿	福井	川越高等学校	1	66.91	87	90	93 ×	107 ×	111	115 ×	90	2
69Kg	1 西中 馬鹿	石川	富山商科高等学校	1	66.81	78 ×	7	82	98	102	105	82	4
69Kg	2 山口 富士	福井	山 富山商科高等学校	2	68.30	95	86	88	95	100	102	85	3
69Kg	3 竹本 陽輔	福井	若狭高等学校	2	67.53	91 ×	71	76 ×	100	103	107	78	187
69Kg	4 木林 岳	福井	長野県西高等学校	2	64.34	75	80	85 ×	95	100 ×	100	80	187
69Kg	5 小林 守生	福井	坂井農業高等学校	1	67.22	75	75	77 ×	90	95	97	95	175
69Kg	6 木原 功次	福井	若狭高等学校	2	65.51	70	73	76 ×	85	88	90	73	172
69Kg	7 林 喜太郎	福井	山形高等学校	1	67.95	63	65	67	76 ×	78	78	77	161
69Kg	8 閒本 貴大	富山	山形高等学校	2	68.39	90	95	95	120 ×	120 ×	120 ×	95	1
69Kg	9 村田 佑樹	石川	津幡高等学校	2	73.66	85	88	90	110	115	118 ×	92	122
77Kg	1 前川 大輔	富山	山形高等学校	2	73.08	86	90	93	110	115	118 ×	90	115
77Kg	2 松原 透	福井	山形高等学校	2	71.27	90	93	95 ×	110 ×	110	117 ×	93	110
77Kg	3 木原 透	福井	坂井農業高等学校	2	72.87	80	83	85 ×	100	103	105 ×	83	103
77Kg	4 古家 幸裕	富山	山形高等学校	2	75.05	78	80	90	95	98	100	80	186
77Kg	5 下村 吾司	福井	新潟工業高等学校	1	72.24	65	68	71	80	83	86 ×	71	100
77Kg	6 宮崎 大剛	富山	山形高等学校	2	77.16	86	91 ×	91 ×	104 ×	104 ×	104	86	1
85Kg	1 佐藤 中敬	石川	新潟工業高等学校	1	83.08	70	73	75	90	92	95 ×	75	104
85Kg	2 松原 伸	福井	松原高等学校	2	77.66	52	56	60	70	75	80	70	205
85Kg	3 高橋 透	福井	若狭高等学校	2	88.63	98 ×	98	102 ×	120 ×	125 ×	125 ×	98	110
94Kg	1 鹽谷 健悟	石川	能代高等学校	2	92.58	92	82	86	98	110	115	115	167
94Kg	2 竹原 稔輝	福井	若狭高等学校	1	85.57	91	95	98	106	111	115	115	140
105Kg	1 木間 壮吾	石川	津幡高等学校	2	97.01	100	105	107 ×	135 ×	135	140	105	1
+105Kg	1 五成 一成	石川	津幡高等学校	2	112.74	110 ×	115 CR	120 ×	140 CR	145 ×	150 ×	115 1	140 1
48Kg	1 松山 智洋	富山	野松高等学校	1	47.94	45 ×	45	48 ×	58	61	61 CR	45	1
53Kg	1 手冢 香美	富山	野松高等学校	1	47.03	45 ×	37	37 ×	47	49 ×	50 ×	50	1
53Kg	2 三森 康一	山本	松原高等学校	1	52.49	35	37	38	42 ×	48 ×	51	54	89
58Kg	1 山本 優子	山本	松原高等学校	1	55.21	45	48	58	60 ×	66	73	65	110
58Kg	2 佐々木 球音	山本	松原高等学校	1	57.66	45	48	58	60 ×	66	73	65	110

階級	順位	姓氏	名	都道府県	学校名	学年	休量	スナッチ			クリーン＆ジャーフ			ベスト							
								1	2	3	1	2	3	S	順位	C&J面					
53kg	1	上野	範司	東京都	羽根高等学校	2	51.44	65	70	×	70	×	82	89	65	2	89	1	154		
53kg	2	中谷	洋登	兵庫県	神戸大谷高等学校	1	55.95	42	42	×	43	×	45	52	55	45	1	55	1	100	
53kg	3	和田	尚子	岐阜県	岐阜県立岐阜商業高等学校	1	56.35	40	40	×	43	×	45	48	50	43	1	50	1	93	
53kg	4	伊藤	千穂	奈良県	奈良県立奈良商業高等学校	1	60.75	48	50	×	50	×	57	59	60	×	46	1	59	1	107
53kg	5	野田	華恵	三重県	四日市中央工業高等学校	3	76.45	65	70	×	75	101	106	111	×	175	1	106	1	181	
57kg	1	井上	佳穂	兵庫県	兵庫県立播磨農業高等学校	2	55.68	85	85	×	85	cs	100	103	106	×	85	1	188		
57kg	2	大庭	大佑	兵庫県	兵庫県立播磨農業高等学校	2	55.46	80	80	×	80	×	80	83	83	×	85	3	78	3	143
57kg	3	坂本	雄大	兵庫県	兵庫県立播磨農業高等学校	2	55.66	60	65	67	×	74	55	58	60	62	4	54	1	100	
57kg	4	鈴木	大祐	兵庫県	兵庫県立播磨農業高等学校	2	55.66	42	44	×	44	×	55	58	60	62	4	54	1	100	
57kg	5	武市	大祐	兵庫県	兵庫県立播磨農業高等学校	2	54.04	65	65	65	69	×	80	83	85	×	65	4	83	4	148
58kg	1	高木	達也	兵庫県	兵庫県立播磨農業高等学校	2	55.66	63	63	×	63	×	66	78	80	×	80	2	100	2	180
58kg	2	伊藤	千穂	兵庫県	兵庫県立播磨農業高等学校	2	55.54	60	62	64	×	74	76	78	80	80	5	85	1	146	
58kg	3	山下	亮樹	兵庫県	兵庫県立播磨農業高等学校	1	55.74	55	58	58	×	75	75	77	77	77	6	78	6	140	
58kg	4	卓志	亮樹	兵庫県	兵庫県立播磨農業高等学校	1	54.34	53	58	58	×	70	70	76	77	73	8	70	8	123	
58kg	5	中司	亮樹	兵庫県	兵庫県立播磨農業高等学校	1	53.18	53	53	55	×	70	70	75	75	73	9	70	9	123	
59kg	1	大庭	大佑	兵庫県	兵庫県立播磨農業高等学校	1	53.74	44	46	50	63	63	65	68	68	×	50	10	65	10	115
59kg	2	大庭	大佑	兵庫県	兵庫県立播磨農業高等学校	1	60.56	75	70	82	×	74	77	80	93	97	101	101	92	1	181
59kg	3	大庭	大佑	兵庫県	兵庫県立播磨農業高等学校	2	60.02	75	75	77	80	80	83	90	95	100	101	97	1	177	
59kg	4	大庭	大佑	兵庫県	兵庫県立播磨農業高等学校	2	61.04	70	73	73	73	73	79	90	95	100	100	95	1	168	
59kg	5	大庭	大佑	兵庫県	兵庫県立播磨農業高等学校	2	61.98	65	70	72	72	72	75	85	90	95	100	94	1	160	
60kg	1	大庭	大佑	兵庫県	兵庫県立播磨農業高等学校	2	60.98	70	70	75	75	75	75	85	90	95	100	94	1	155	
60kg	2	大庭	大佑	兵庫県	兵庫県立播磨農業高等学校	2	60.98	56	61	63	63	63	76	79	81	85	90	95	1	142	
60kg	3	大庭	大佑	兵庫県	兵庫県立播磨農業高等学校	2	60.56	53	56	59	59	59	72	75	73	77	80	85	1	133	
60kg	4	大庭	大佑	兵庫県	兵庫県立播磨農業高等学校	2	57.98	50	52	55	55	56	67	70	73	73	79	85	1	131	
60kg	5	大庭	大佑	兵庫県	兵庫県立播磨農業高等学校	2	60.18	107	107	107	112	106	135	140	145	145	140	1	252	CR	
62kg	1	大庭	大佑	兵庫県	兵庫県立播磨農業高等学校	2	61.62	82	82	82	85	85	105	110	110	110	112	2	197		
62kg	2	大庭	大佑	兵庫県	兵庫県立播磨農業高等学校	2	67.44	80	85	87	80	83	100	105	107	105	105	3	190		
62kg	3	大庭	大佑	兵庫県	兵庫県立播磨農業高等学校	2	68.32	75	80	80	84	84	100	105	105	105	100	5	183		
62kg	4	大庭	大佑	兵庫県	兵庫県立播磨農業高等学校	2	65.92	80	80	80	83	83	100	105	105	105	100	4	180		
62kg	5	大庭	大佑	兵庫県	兵庫県立播磨農業高等学校	2	62.66	75	80	80	83	83	82	87	90	90	87	8	167		
62kg	6	大庭	大佑	兵庫県	兵庫県立播磨農業高等学校	2	62.66	63	67	70	70	73	76	80	80	80	77	7	157		
62kg	7	大庭	大佑	兵庫県	兵庫県立播磨農業高等学校	2	64.36	53	56	56	56	56	73	76	80	80	80	7	157		
62kg	8	大庭	大佑	兵庫県	兵庫県立播磨農業高等学校	2	66.00	75	75	75	90	90	95	95	95	95	95	6	—		
69kg	1	白草	竜太	大分県	大分県立大分高等学校	3	66.06	90	93	95	95	95	113	117	120	120	117	212			
69kg	2	白草	竜太	大分県	大分県立大分高等学校	2	76.32	100	105	108	108	108	130	135	135	135	135	1	240		
69kg	3	白草	竜太	大分県	大分県立大分高等学校	2	70.88	87	92	92	92	92	106	111	111	113	113	2	198		
69kg	4	白草	竜太	大分県	大分県立大分高等学校	2	73.70	79	82	82	82	82	105	107	107	112	112	3	186		
69kg	5	白草	竜太	大分県	大分県立大分高等学校	2	75.52	75	80	80	82	82	95	100	100	100	100	5	185		
77kg	1	大庭	大佑	兵庫県	兵庫県立播磨農業高等学校	2	72.20	78	78	78	80	80	95	100	100	100	100	5	182		
77kg	2	大庭	大佑	兵庫県	兵庫県立播磨農業高等学校	2	72.18	75	80	80	83	85	93	93	93	93	93	9	176		
77kg	3	大庭	大佑	兵庫県	兵庫県立播磨農業高等学校	2	71.32	73	75	75	75	75	93	98	98	100	100	4	175		
77kg	4	大庭	大佑	兵庫県	兵庫県立播磨農業高等学校	2	73.14	70	75	75	77	79	90	95	95	95	95	1	165		
77kg	5	大庭	大佑	兵庫県	兵庫県立播磨農業高等学校	2	74.94	65	70	76	76	76	85	90	90	95	95	1	165		
77kg	6	大庭	大佑	兵庫県	兵庫県立播磨農業高等学校	2	75.44	70	75	75	75	75	90	95	95	100	100	12	165		
77kg	7	大庭	大佑	兵庫県	兵庫県立播磨農業高等学校	2	74.26	75	75	75	75	75	95	95	95	100	100	13	164		
77kg	8	大庭	大佑	兵庫県	兵庫県立播磨農業高等学校	2	71.14	68	71	71	71	71	90	90	90	95	95	100	130		
77kg	9	大庭	大佑	兵庫県	兵庫県立播磨農業高等学校	2	71.98	60	65	70	75	75	80	85	85	90	90	100	140		
77kg	10	大庭	大佑	兵庫県	兵庫県立播磨農業高等学校	2	75.76	55	60	60	60	60	75	80	80	85	85	117			
77kg	11	大庭	大佑	兵庫県	兵庫県立播磨農業高等学校	2	73.80	105	110	110	110	110	130	140	140	145	145	111			
77kg	12	大庭	大佑	兵庫県	兵庫県立播磨農業高等学校	2	76.82	100	103	103	103	103	130	130	130	135	135	130			
77kg	13	大庭	大佑	兵庫県	兵庫県立播磨農業高等学校	2	74.26	90	90	90	90	90	107	120	120	120	120	120			
77kg	14	大庭	大佑	兵庫県	兵庫県立播磨農業高等学校	2	75.70	100	105	105	105	105	135	135	135	135	135	120			
77kg	15	大庭	大佑	兵庫県	兵庫県立播磨農業高等学校	2	78.00	90	95	95	95	95	115	115	115	115	115	110			
85kg	1	森本	文智	奈良県	奈良県立大和高尙高等学校	2	80.88	75	80	80	80	80	90	95	95	100	100	1	205		
85kg	2	松川	秀太	奈良県	奈良県立大和高尙高等学校	2	83.64	75	85	85	85	85	90	95	95	100	100	2	175		
85kg	3	中西	功一	奈良県	奈良県立大和高尙高等学校	2	81.32	63	68	71	71	71	90	95	95	100	100	3	173		
85kg	4	今田	匡俊	奈良県	奈良県立大和高尙高等学校	2	83.30	75	75	75	75	75	93	99	99	100	100	4	170		
85kg	5	福井	泰斗	奈良県	奈良県立大和高尙高等学校	2	83.76	80	85	85	85	85	93	99	99	100	100	5	163		

階級	順位	氏名	県名	都道府県名	学校名	学年	休量	スナック			クリーン＆シャーベット			ベスコ			トータル	
								1	2	3	1	2	3	S	C&J	順		
63Kg 1	新井 夕紀子	石川	津幡高校	1	62.02	57 ×	57	60 ×	75 ×	75 ×	93	95 ×	73 ×	93	1	186	127	
63Kg 2	谷島 芙弥	富山	滑川高校	1	59.01	47 ×	47	52 ×	68 ×	68 ×	90	90	70 ×	90	2	160	115	
63Kg 3	五十嵐 彩乃	新潟	新潟西高校	2	62.41	42 ×	45	47 ×	53 ×	53 ×	86	86	75 ×	87	1	148	102	
65Kg 1	橋本 石博美	石川	滑川高校	2	67.72	63 ×	63	66 ×	83 ×	83 ×	93	93	75 ×	97	2	115	83 OR	
75Kg 1	人井 康平	富山	滑川高校	1	73.07	52 ×	54	60 ×	63 ×	63 ×	87	87	75 ×	87	1	118	67	
75Kg 2	白川 純子	新潟	新潟西高校	1	70.91	49 ×	52	52 ×	64 ×	64 ×	86	86	66 ×	89	2	115	66	
+75Kg 1	林 美佳	長野	野沢西高校	2	82.38	60 ×	63	63 ×	71 ×	71 ×	93	93	70 ×	93	1	134	74	
第12回東海高校選抜大会兼記録挑战会																	2007.01.20~21 三重県輪鹿市	
53Kg 1	新井 黃博	三重	鈴鹿高校	2	49.40	70	73	75 ×	90	90	93	95 ×	73 ×	93	1	186	127	
53Kg 2	加藤 雅也	三重	鈴鹿高校	2	51.45	67	70	73 ×	86 ×	86 ×	90	90	70 ×	90	2	160	115	
53Kg 3	松本 安弘	四日市	市中央工業高校	2	52.40	65	68	70 ×	75	76	80	80	68 ×	80	3	148	57	
53Kg 4	近藤 咲	岐阜	岐阜商業高校	1	47.30	52	57	60 ×	77	77	80	80	57 ×	77	4	134	102	
53Kg 5	下川 黄貴	静岡	清水高校	1	53.00	57	60	62	70 ×	70	72	62	62	74 ×	76	3	134	115
53Kg 6	井林 大愛	愛知	知立工業高等学校	1	51.30	55	57	57 ×	70	70	73	73	55 ×	72	5	127	—	
53Kg 7	井林 韶哉	愛知	豊田市中央工業高等学校	1	51.70	58	63	63 ×	75 ×	75 ×	—	—	61	5	—	—	—	
56Kg 1	黒宮 晴太	三重	鈴鹿高校	2	55.90	70	73	75	90	93	93	93	93 ×	75 ×	91	1	165	123
56Kg 2	服部 元紀	三重	鈴鹿高校	2	55.85	63 ×	63	65	83	85	87	87	87	87	2	152	123	
56Kg 3	松本 直矢	三重	鈴鹿高校	2	55.40	53	66	66 ×	77	81	86	86	86	86	3	148	—	
56Kg 4	水野 大輔	三重	鈴鹿高校	2	55.35	68	70	75 ×	80	80	85	85	88	88	4	148	—	
56Kg 5	久野 野矢	三重	鈴鹿高校	2	54.45	53	55	55 ×	65	65	83	83	88	88	5	123	—	
62Kg 1	黒崎 昭太	三重	鈴鹿高校	2	61.80	95	98	101	120	125	130 ×	101	101	101	1	125	123	
62Kg 2	水井 幸子	三重	鈴鹿高校	2	60.05	70	75	75	90	93	93	93	93	93	3	165	123	
62Kg 3	渡辺 俊輝	三重	鈴鹿高校	2	59.85	65	70	72	85	90	90	90	90	90	2	160	123	
62Kg 4	篠原 俊洋	三重	鈴鹿高校	2	61.25	70	73	73	85	88	90	90	90	90	5	160	123	
62Kg 5	正木 太正	三重	鈴鹿高校	2	60.10	65 ×	65	68	85	90	93	93	93	93	4	158	—	
62Kg 6	西尾 天祐	三重	鈴鹿高校	1	61.65	60 ×	63	63	82	86	86	86	86	88	6	153	—	
62Kg 7	瀬波 憲徳	三重	鈴鹿高校	1	60.75	60 ×	60	65 ×	82	86	86	86	86	87	7	142	—	
62Kg 8	伴野 久彌	三重	鈴鹿高校	2	59.85	67	70	70 ×	70	70	90 ×	90	90	90	6	127	—	
69Kg 1	原田 裕志	岐阜	笠原和歌高校	2	67.85	90	95	95 ×	110	110	110 ×	110	115 ×	90	1	110	120	
69Kg 2	原田 大輝	岐阜	笠原和歌高校	2	67.90	85	88	91 ×	100	100	110 ×	110	110 ×	88	2	108	120	
69Kg 3	新藤 勝	岐阜	市中央工業高校	2	66.30	85	85	87	102	102	106	106	108 ×	87	4	195	123	
69Kg 4	神谷 拓哉	岐阜	市中央工業高校	2	64.00	80	85	87	100	105	108 ×	108 ×	108 ×	87	3	192	123	
69Kg 5	伊藤 真一	岐阜	市中央工業高校	2	65.65	80 ×	80	80	100	103	105	105	105	105	5	185	123	
69Kg 6	大庭 翼	岐阜	市中央工業高校	2	67.10	80 ×	80	80	100	103	107	101	104	104	6	185	123	
69Kg 7	福森 篤施	岐阜	市中央工業高校	2	66.25	75	80	83 ×	97	97	101	104	104	100	7	181	123	
69Kg 8	矢田 篤志	岐阜	市中央工業高校	2	65.40	70 ×	70	75	90	95	95	95	95	95	8	170	123	
69Kg 9	吉田 卓也	岐阜	市中央工業高校	2	67.35	75	78	78 ×	95	95	98	98	98	98	9	170	123	
69Kg 10	田中 宗祐	岐阜	市中央工業高校	2	69.40	65	70	70 ×	87	91	94	94	94	97	10	110	123	
69Kg 11	斎藤 祥瑞	岐阜	市中央工業高校	1	63.20	65	70	70 ×	85	90	90	90	90	90	11	120	123	
77Kg 1	安達 遼真	岐阜	吉井高校	1	73.00	95	99	102 ×	120	120	120 ×	120	125 ×	99	2	127	—	
77Kg 2	山内 崇治	岐阜	吉井高校	2	75.70	95	100	100 ×	122	125	110 ×	110	115 ×	102	1	117	217	
77Kg 3	飯田 寛出	岐阜	吉井高校	2	74.00	80 ×	80	80	105	110	113	108 ×	108 ×	108	3	193	123	
77Kg 4	伊藤 祐一	岐阜	吉井高校	2	76.40	80	85	85	105	108 ×	108 ×	108	108	4	193	123		
77Kg 5	山本 純一	岐阜	吉井高校	2	74.80	80	90	90 ×	100	100	105	105	105	105	5	190	123	
77Kg 6	木村 光陽	岐阜	吉井高校	2	74.30	70	73	75 ×	90	95	97	97	95 ×	97	6	172	123	
65Kg 1	小倉 鉄平	岐阜	土岐商業高校	2	82.90	90	95	100	115	120	123	120	125 ×	100	1	123	223	
65Kg 2	柳川 真史	岐阜	土岐商業高校	2	79.00	80	83	83 ×	98	98	101	105	105 ×	83	2	105	188	
65Kg 3	木村 宽典	岐阜	土岐商業高校	1	81.45	70	73	73 ×	85	85	90	92	90 ×	90	4	180	180	
64Kg 1	松永 実	岐阜	名古屋大学附属高等学校	1	87.00	75	80	80 ×	100	105	110 ×	110	110 ×	75	3	105	123	
64Kg 2	中嶋 亮	岐阜	名古屋大学附属高等学校	2	95.60	93	98	101 ×	123	128 ×	128 ×	128	98	1	128	226		
64Kg 3	中嶋 真吾	岐阜	名古屋大学附属高等学校	1	101.90	75 ×	81	81	105	112 ×	112 ×	112 ×	112 ×	2	105	3	186	
105Kg 1	中嶋 早希	岐阜	名古屋大学附属高等学校	2	102.55	90 ×	90	90 ×	120	125 ×	125 ×	125 ×	125 ×	—	2	120	—	
+105Kg 1	中嶋 吾郎	岐阜	名古屋大学附属高等学校	2	121.85	90	95	95 ×	110	120 ×	120 ×	120 ×	120 ×	1	110	120	200	
48Kg 1	伊藤 奈央	三重	鶴山高校	1	47.00	56	60	63 ×	75	81	88 ×	88 ×	88	1	81	1	141	
48Kg 2	藤川 久美	三重	鶴山高校	2	47.40	45	48	48 ×	55	55	60	60	62	64	4	109	123	
48Kg 3	前田 純一	三重	鶴山高校	2	48.00	43	43	46 ×	50	55	58	58	59	53	5	108	123	
48Kg 4	三浦 明日香	三重	鶴山高校	1	46.25	40	42	42 ×	51	53	55	55	55	49	4	93	105	
48Kg 5	木村 樊帆	三重	鶴山高校	1	42.40	26	29	31 ×	37	40	42	42	42	42	5	71	—	
53Kg 1	大庭 彩帆	三重	鶴山高校	1	51.05	50	52	52 ×	65	67	67 ×	67 ×	67	52	1	117	—	
53Kg 2	今井 彩那	三重	鶴山高校	2	52.15	45	48	48 ×	60	60	62	62	64	64	5	109	123	
53Kg 3	福澤 菊莉	三重	鶴山高校	1	52.00	45	47	47 ×	57	59	61	61	61	67	2	108	123	
53Kg 4	平尾 里美	三重	鶴山高校	2	52.35	44	47	47 ×	55	55	58	58	58	58	4	105	123	
53Kg 5	木村 石丸	三重	鶴山高校	2	52.65	45	47	47 ×	54	58	61	61	61	64	5	93	123	
53Kg 6	大庭 瑞央	三重	鶴山高校	1	51.80	40	43	43 ×	47	47	50	50	50	56	5	93	123	

階級	順位	氏名	都道府県名	学校名	学年	体重	スナッチ			クリーン&ジャーク			ベスト			
							1	2	3	1	2	3	S	断続GJ	断続	
85kg	1	小川 宏和	岩手 県	出雲義林高等学校	2	81.64	97	100	102	120	123	126	X	102	123	1
85kg	2	横野 勝	福島 県	笠置工業高等学校	2	83.68	95	95	97	122	122	124	X	97	121	2
85kg	3	梅田 尚希	山口 県	下関国際高校	2	82.42	85	90	105	110	115	115	X	90	115	4
85kg	4	石井 雄之	岡山 県	倉敷商業高等学校	2	79.66	85	85	85	110	115	120	X	85	115	3
94kg	1	藤原 太朗	岡山 県	倉敷商業高等学校	2	91.74	98	101	125	128	131	131	X	101	131	2
94kg	2	高橋 聰	岡山 県	倉敷商業高等学校	2	85.54	70	75	95	100	105	105	X	75	101	1
105kg	1	廣瀬 和志	山口 県	下関国際高等学校	1	101.80	95	100	115	120	123	123	X	95	123	1
+105kg	2	青木 寛也	岡山 県	水谷工業高等学校	2	128.05	100	100	100	125	125	125	X	—	—	—
40kg	1	谷村 幸哉	香川 県	山倉教諭高等学校	1	48.05	70	72	72	80	84	84	X	86	86	70
55kg	1	牧野 大輔	香川 県	山倉教諭高等学校	1	50.84	43	45	46	58	60	62	X	45	62	62
55kg	2	辻井 美奈子	岡山 県	倉敷商業高等学校	1	50.92	42	45	46	52	54	56	X	46	56	56
55kg	3	幸恵 由起	岡山 県	倉敷商業高等学校	1	54.42	43	43	43	58	60	60	X	43	61	—
65kg	1	白井理子	岡山 県	倉敷商業高等学校	1	62.26	49	51	52	65	67	69	X	52	67	119
65kg	2	早瀬 由香	岡山 県	倉敷商業高等学校	1	59.68	43	43	45	45	60	62	X	45	62	62
65kg	3	大庭 智	岡山 県	倉敷商業高等学校	1	59.68	43	43	45	45	60	62	X	45	62	107
第7回四国高等学校選抜大会				2007.01.21			徳島県毫島市									
55kg	1	高田裕太郎	香川 県	香川中央高等学校	1	52.90	63	63	68	73	82	85	X	68	82	150
55kg	2	吉澤 卓矢	香川 県	新居浜工業高等学校	1	52.05	55	57	60	70	75	80	X	60	80	140
55kg	3	青木 豊	愛媛 県	新居浜工業高等学校	1	49.00	49	55	62	67	70	70	X	55	70	125
55kg	4	大澤 優	香川 県	多度津工業高等学校	2	55.95	57	57	62	75	75	81	X	62	79	141
62kg	1	曾部 嘉一	香川 県	多度津工業高等学校	2	60.50	90	90	94	110	114	117	X	90	114	204
62kg	2	大澤 一樹	香川 県	鳴門工業高等学校	2	61.35	75	75	80	95	100	105	X	75	100	175
62kg	3	元木 敦太	香川 県	鳴門工業高等学校	2	61.45	70	74	76	90	94	94	X	74	90	164
62kg	4	井上 順	香川 県	鳴門工業高等学校	1	61.50	70	75	75	90	95	95	X	70	90	160
62kg	5	鷹見 駿	香川 県	新居浜工業高等学校	1	58.65	53	56	58	73	77	79	X	56	75	135
68kg	1	望月 由利	香川 県	鳴門工業高等学校	2	64.20	70	75	75	80	85	85	X	70	88	158
77kg	1	大島 伸貴	香川 県	多度津工業高等学校	2	76.35	83	83	83	90	115	115	X	120	120	210
85kg	1	小林 実貴	香川 県	多度津工業高等学校	2	83.45	85	88	90	110	115	115	X	83	102	185
85kg	2	蓮井 真貴	香川 県	多度津工業高等学校	2	81.70	83	86	88	100	106	106	X	88	101	198
85kg	3	大庭 真也	香川 県	多度津工業高等学校	1	84.40	80	80	80	100	105	110	X	80	110	195
85kg	4	鈴木 直人	香川 県	新居浜工業高等学校	2	82.00	71	73	76	90	96	96	X	73	94	169
77kg	1	中西 亮介	香川 県	多度津工業高等学校	2	91.15	100	100	100	120	130	130	X	100	130	230
105kg	1	間崎 幸平	香川 県	多度津工業高等学校	2	102.50	100	100	100	120	125	125	X	128	128	—
+105kg	2	中西 太哉	香川 県	多度津工業高等学校	2	126.25	115	120	120	145	145	150	X	115	145	260
+105kg	3	辻井 貴大	香川 県	多度津工業高等学校	1	107.90	100	103	105	120	120	125	X	103	120	222
48kg	1	岡本 美沙	香川 県	新居浜南高等学校	1	47.40	36	39	41	45	47	49	X	41	47	88

階級	顧 姓	氏名	都道府 県	学校名	学年	体重	スナッチ			クリーン&ジャーク			ベント	ト-タル	
							1	2	3	1	2	3			
94kg	小林	克己	京 都 加悦谷高等学校	1	85.62	90	93 ×	93 ×	120 ×	120	130 ×	90	1	210	
94kg	小林	亮介	兵 庫 大阪府立高砂高等学校	1	87.22	80	83 ×	83 ×	95	98	102 ×	80	2	182	
94kg	太田	圭祐	兵 庫 大阪府立高砂高等学校	2	91.56	75 ×	80	90	95	100 ×	80	3	175		
94kg	大口	大翼	兵 庫 淡路島生昇陽高等学校	1	88.26	63	68	71 ×	77 ×	82	88 ×	82	4	150	
94kg	柳川	智弘	兵 庫 良實 長洲工業高等学校	1	93.30	45	50 ×	50 ×	55	58 ×	55	5	100		
94kg	山田	義太	京 都 羽羽高松高等学校	3	93.70	100	105 ×	108 ×	130 ×	133 ×	100	—	—		
105kg	山田	義太	京 都 羽羽高松高等学校	2	102.42	90 ×	90	95	115	120	125	95	1	220	
105kg	湯本	祐基	兵 庫 紀元工業高等学校	2	102.18	85	90 ×	90	105	110	113	90	2	203	
105kg	鶴見	健太	兵 庫 濱縣櫻野高等学校	1	95.72	74	79 ×	81 ×	91	96	100 ×	74	3	170	
105kg	竹本	淳	兵 庫 真豊田高等学校	2	102.96	45	50	55 ×	68	73 ×	73	4	173		
105kg	伊藤	選	兵 庫 真豊田高等学校	2	101.12	95 ×	95 ×	115	120 ×	120	—	120	3	—	
105kg	津田	拓輝	兵 庫 紀元工業高等学校	2	99.12	75 ×	80 ×	80 ×	95	100 ×	100	—	95	6	—
105kg	前田	拓哉	兵 庫 紀元工業高等学校	2	98.56	105 ×	105 ×	108 ×	135 ×	135 ×	135	—	135	1	—
105kg	木下	拓矢	兵 庫 紀元明石北高等学校	3	95.98	90 ×	90	90	110	115	120 ×	90	115	205	
105kg	梅原	龍二	兵 庫 纏賀農業高等学校	3	99.30	100 ×	105	110	130	136 ×	139 ×	110	130	240	
+05kg	山本	和也	京 都 羽羽高松高等学校	2	112.56	98	103	105	125	132 ×	137 ×	105	1	235	
+05kg	大矢	泰輔	京 都 纏賀農業高等学校	2	131.74	93	95	97	123	125	130	97	130	227	
+05kg	坂本	宏士	大 阪 纏賀農業高等学校	2	137.68	85 ×	85	85	105	110	115	85	115	200	
+05kg	中村	一	大 阪 大阪府立高砂高等学校	1	116.50	80	85 ×	85	100	105 ×	105	105	85	100	185
48kg	井上	美和	兵 庫 羽羽高松高等学校	2	47.48	48 ×	44 ×	44 ×	53 ×	62	64 ×	64	51	1	
48kg	西	森本	兵 庫 羽羽高松高等学校	1	45.64	32	35	35	38 ×	44	58	60	44	2	
48kg	太田	優子	兵 庫 羽羽高松高等学校	1	47.40	35 ×	35	35	35 ×	45 ×	47	47	3	84	
48kg	森本	真美	兵 庫 羽羽高松高等学校	1	49.46	46	48	50	55	58	60 ×	58	49	3	
48kg	章田	英保	兵 庫 羽羽高松高等学校	1	50.76	39	42	44	53	56	59	44	56	108	
53kg	中井	今井	兵 庫 羽羽高松高等学校	2	52.62	40	43	45 ×	57	60	62 ×	43	60	103	
53kg	今井	幸乃	兵 庫 羽羽高松高等学校	2	53.00	60 ×	60	62	81	83 ×	83	62	83	145	
53kg	中井	義美	兵 庫 羽羽高松高等学校	3	52.00	62 ×	62 ×	62	70	73	76	62	76	136	
53kg	今井	幸乃	兵 庫 羽羽高松高等学校	2	52.48	63 ×	63	63	65 ×	65	67	61 ×	67	118	
53kg	今井	義美	兵 庫 羽羽高松高等学校	2	52.58	55 ×	55	55	58	60	64	67	61	146 CR	
53kg	松本	有加	兵 庫 羽羽高松高等学校	1	49.46	46	48	50	55	58	60 ×	58	56	108	
53kg	三上	愛理	兵 庫 羽羽高松高等学校	2	52.62	40	43	45 ×	57	60	62 ×	43	60	103	
53kg	中安	喬子	兵 庫 羽羽高松高等学校	3	53.00	60 ×	60	62	81	83 ×	83	62	83	145	
53kg	越谷	綾美	京 都 羽羽高松高等学校	3	52.00	62 ×	62 ×	62	70	73	76	62	76	136	
58kg	1	木下ちひろ	京 都 羽羽高松高等学校	2	56.14	62	65	67	78	81 ×	81	67	81	148	
58kg	2	木下ちひろ	京 都 羽羽高松高等学校	2	56.50	55 ×	55	55	58	60	64	67	72	131	
58kg	3	寺岡	加奈子	兵 庫 羽羽高松高等学校	1	55.64	45 ×	45	50 ×	55	58	60 ×	58	60	105
58kg	4	松村	有弥	兵 庫 羽羽高松高等学校	2	55.46	28	30 ×	30	40	42	44	30	4	74
63kg	1	木本	新洋子	兵 庫 羽羽高松高等学校	2	59.16	55	57	59 ×	70	73 ×	73	59	71	136
63kg	2	木本	朱恵	兵 庫 羽羽高松高等学校	1	61.34	55	58 ×	58 ×	70	73 ×	74 ×	55	70	130
63kg	3	中島	朱恵	兵 庫 羽羽高松高等学校	2	64.64	63	66	70	78 ×	78	81 ×	70	71	125
69kg	1	幡本	和也	兵 庫 羽羽高松高等学校	2	65.28	50	53 ×	54	65	68	71 ×	70	71	148
69kg	2	榎本	千尋	兵 庫 羽羽高松高等学校	3	63.10	65	68	70 ×	85	90	92 ×	68	72	122
69kg	3	木本	愛香	兵 庫 羽羽高松高等学校	1	71.36	50	52	54 ×	65 ×	65	68	52	61	120
+75kg	4	木本	愛香	兵 庫 羽羽高松高等学校	3	97.06	70	74 ×	74 ×	95	101	103	70	103	173

階級	順位	氏名	都道府県	学校名	学年	学年体重	スナッズ			グリーン＆ジャーブ			ペースト	トータル
							1	2	3	1	2	3		
69Kg	1	金城 聖丸	沖縄県	豊見城高等学校	1	64.50	95	100	103 ×	120	122	124	100	224
69Kg	2	下原 玄大	鹿児島県	入来商業高等学校	2	67.15	95	100	102	115	118	121 ×	102	224
69Kg	3	下村 防生	熊本県	鍋島高等学校	2	68.55	92 ×	96	118 ×	118	121 ×	122	118	214
69Kg	4	片平 学	宮崎県	都城農業高等学校	2	68.15	90	95	100 ×	110	115	121 ×	96	210
69Kg	5	山口 延平	宮崎県	小林工業高等学校	2	69.30	90	95 ×	95 ×	110	115	118 ×	90	208
69Kg	6	長崎 幸典	福岡県	諫早農業高等学校	2	67.45	82	85	88 ×	100	103	106 ×	106	191
69Kg	7	村永 甲斐	福岡県	諫早農業高等学校	2	66.50	66	90 ×	90 ×	98	100 ×	100	86	186
69Kg	8	大分 信哉	大分県	杵築高等学校	1	66.95	60 ×	80 ×	80 ×	80	98	102 ×	80	97
69Kg	9	大輔 佐野	福岡県	四日市高等学校	2	62.50	76	79 ×	82 ×	95	100 ×	100	76	176
69Kg	10	眞子 智行	福岡県	有田工業高等学校	1	65.55	65	76	79 ×	85 ×	85	87	70	157
69Kg	11	池田 広生	佐賀県	有田工業高等学校	1	67.95	70 ×	70 ×	70 ×	85 ×	95	97	70	157
71Kg	1	上島 菜作	沖縄県	豊見城高等学校	2	69.30	104	109	113 CR	130 ×	130	130	113	243
71Kg	2	和 沢	沖縄県	豊見城高等学校	2	72.25	90	93	95	115 ×	115	120 ×	95	215
71Kg	3	北澤大介	宮崎県	小林高等学校	2	76.25	90	90	93	115	120 ×	123 ×	93	208
71Kg	4	中原 健二	熊本県	八代農業高等学校	2	75.80	85 ×	88	113	117 ×	117 ×	117 ×	88	201
71Kg	5	内尾 政和	大分県	四日市高等学校	1	74.80	82	85 ×	85 ×	105	110 ×	110	82	192
71Kg	6	瀧川 進成	大分県	杵築高等学校	1	69.75	78	80	82	95 ×	95	100 ×	95	177
71Kg	7	江口 动樹	宮崎県	八幡中央高等学校	1	69.45	75 ×	75 ×	90	95	98 ×	—	95	6
88Kg	1	多田真史	沖縄県	糸満高等学校	1	81.70	92	94 ×	113	116	119	92	119	211
88Kg	2	高橋 昌斗	福岡県	柳川高等学校	2	77.90	90	90	94 ×	115	118 ×	118 ×	90	208
88Kg	3	山口 大輔	福岡県	筑紫台高等学校	2	84.05	85	90	93 ×	110	116 ×	116 ×	90	200
88Kg	4	坂上 浩輝	福岡県	小林高等学校	2	77.80	85	88 ×	88	100	103	105 ×	88	191
88Kg	5	工藤 哲也	福岡県	諫早農業高等学校	2	87.00	83 ×	83	87 ×	100	105	110 ×	84	189
88Kg	6	濱田 雄介	福岡県	八幡中央高等学校	1	81.25	75	80	82	95 ×	95	100 ×	80	175
94Kg	1	白石 宏明	福岡県	九州国際大学付属高等学校	2	92.40	110	117	120 ×	155 CR	163 ×	166 CR	117	283 CR
94Kg	2	高木 萬木	福岡県	向陽高等学校	2	90.70	110 ×	110	116	130	135 ×	135	116	251
94Kg	3	比嘉 良士	福岡県	大分工業高等学校	2	88.25	87	90	92	105	110 ×	113	113	208
94Kg	4	大浦 康成	福岡県	大分工業高等学校	2	84.05	85	90	90 ×	115	120 ×	123	120	200
94Kg	5	阿多 正興	福岡県	天草高等学校	1	85.40	83	88 ×	88	100	105	110 ×	88	198
94Kg	6	宮崎伸一郎	福岡県	諫早農業高等学校	2	87.00	83 ×	83	87 ×	100	105	110 ×	83	188
94Kg	7	岩下 哲也	福岡県	南福岡高等学校	1	88.90	80 ×	80 ×	80 ×	100 ×	100	102 ×	—	102
105Kg	1	佐藤 光介	大分県	杵築高等学校	2	103.30	105 ×	105 ×	105 ×	135	140 ×	143 ×	140	245
105Kg	2	井村 光斗	福岡県	豊見城高等学校	2	103.75	82	85 ×	85 ×	115	120 ×	123 ×	82	220
105Kg	3	丸尾 康成	福岡県	大分工業高等学校	2	103.65	85	90	90 ×	115	120 ×	120 ×	85	205
105Kg	4	石橋 征巳	福岡県	熊本県立鶴見高等学校	1	97.80	83 ×	83 ×	84 ×	105	110 ×	113	92	205
105Kg	5	宮崎伸一郎	福岡県	諫早農業高等学校	2	87.00	83 ×	83	87 ×	100	105	110 ×	84	194
+105Kg	1	高倉 雄介	福岡県	杵築高等学校	2	109.30	110 ×	110 ×	110 ×	135	140 ×	140	110	140
+105Kg	2	下村 鋼太	宮崎県	小林工業高等学校	1	140.60	90	96	100 ×	115	124	130 ×	96	220
48Kg	1	瀬良 勝	沖縄県	豊見城高等学校	2	47.05	52	55	58	67	70	73 ×	58	128
48Kg	2	花城 愛里	沖縄県	豊見城高等学校	2	47.90	50	53	55 ×	65	67	70 ×	53	120
48Kg	3	森田加奈子	沖縄県	沖縄工業高等学校	2	44.25	50	52 ×	52	60	63	65 ×	52	115
48Kg	4	西崎奈那美	熊本県	熊本第一高等学校	1	47.05	38	41 ×	41 ×	49	52	54 ×	38	92
48Kg	5	永木 瑛	福岡県	南福岡高等学校	1	44.45	30	33 ×	33 ×	35	38	40 ×	30	92
53Kg	1	眞衣香沙希	沖縄県	南福岡高等学校	2	51.90	68 CR	71 CR	75 ×	75 ×	78 CR	81 CR	71	156 CR
53Kg	2	大田 鞠子	沖縄県	豊見城高等学校	2	52.15	50	53 ×	53 ×	65	68	63 ×	50	113
53Kg	3	永村 知美	沖縄県	熊本第一高等学校	1	51.30	37	40 ×	42 ×	46	49	51 ×	40	91
53Kg	4	南風原悠	沖縄県	南風原高等学校	2	52.15	34	36	37 ×	43	47	50 ×	36	83
53Kg	5	岩野 望加	沖縄県	南風原高等学校	1	52.25	31	33	34 ×	42	44 ×	45 ×	33	82
53Kg	6	岩永瑞美子	沖縄県	有田工業高等学校	2	52.45	35	37 ×	37 ×	40	42 ×	42 ×	35	80
58Kg	1	瀬良 優	沖縄県	豊見城高等学校	2	57.75	52 ×	52 ×	52 ×	57	60	63	50	113
58Kg	2	新城 美咲	沖縄県	豊見城高等学校	1	56.30	42	45	47	57	60	64 ×	47	107
58Kg	3	与儀 ひなみ	沖縄県	熊本第一高等学校	1	53.60	37	40	43	47	50	53 ×	43	96
58Kg	4	河野 仁美	沖縄県	光陽高等学校	2	56.50	38	41	43 ×	48 ×	48	50 ×	41	91
58Kg	5	西下 美奈	沖縄県	八幡中学校	1	53.40	27	31	33	40	45	47	33	80
58Kg	6	瀬良 優	沖縄県	豊見城高等学校	2	57.25	30	34 ×	36 ×	35	40	44	30	80
58Kg	7	宮原 里奈	沖縄県	高嶺高等学校	1	62.15	60 ×	60	66	77	83 ×	83	66	149
58Kg	8	宮原 真衣	沖縄県	豊見城高等学校	2	60.15	48 ×	48	50	58	62	65	50	115
58Kg	9	西川 鹿歩	沖縄県	宮古島高等学校	2	61.95	43	45	47	50	55 ×	55	47	102
58Kg	10	西川 淳	沖縄県	佐土原高等学校	2	61.50	35	38	41	48	50	52	41	93
58Kg	11	大城裕里江	沖縄県	富貴島高等学校	2	62.65	52 ×	52 ×	52 ×	62	65	69 ×	47	80
58Kg	12	宮城 故子	沖縄県	南風原高等学校	2	66.60	65	68 ×	70 ×	75 ×	78 ×	65	65	140
58Kg	13	宮城 美智子	沖縄県	宮原高等学校	3	64.35	35	37	39	45	48	50	39	89
58Kg	14	園田 瑞実	沖縄県	宮原高等学校	2	64.65	81	84	86 ×	98	103	105	84	105
58Kg	15	仲村 舞	沖縄県	豊見城高等学校	1	73.05	62	68 CR	70 ×	82	88 CR	90 ×	68	169
75Kg	1	堂園 伸昭	沖縄県	入来商業高等学校	2	69.75	50 ×	50 ×	50	60	62	63	50	113
75Kg	2	宮原 理恵	沖縄県	宮古島体操高校	1	121.20	43	47	50 ×	63	67	71 ×	47	114
75Kg	3	宮原 秋恵	沖縄県	宮崎高等学校	1	81.70	33	35	38	40	45	50 ×	38	83
+75Kg	1	柳川潤美	沖縄県	宮古島体操高校	1	93.15	82	88 ×	86	109 ×	111 ×	109	63	113
+75Kg	2	寺嶋 球磨	沖縄県	豊見城高等学校	3	比嘉 真理子	沖縄県	豊見城高等学校	—	—	—	—	—	—

WEIGHT LIFTING

会報 4月号 「リフターの声」

このページを切り取って、FAXしていただくか郵送してください。

FAX番号 日本ウエイト協会 03-3481-2394

*「ウエイトリフティング会報」に関するご意見・ご希望・取り上げてほしい話題・身近な良い話題など
どのようなご意見でもお寄せ下さい。、

切
り
取
り
線

*今月号で興味深かった記事をあげて下さい。

「 」 「 」 「 」 「 」

*取り上げてほしい人（ウエイト部内・部外は問いません）

・人名又は団体名 ・どんなテーマで取り上げてほしいか

「 」 「 」 「 」

*これから取り上げてほしいテーマは

「 」

住所・電話	〒	TEL	FAX
氏名		() 歳	
職業			

～自然が鍛える、 自然で癒す～

強アルカリ(pH9.5)で超軟水、極上の泉質

爽やかな汗をかき極上の湯につかると、筋肉疲労を和らげ、

練習効果を高めます。

《体育施設》

ウェイトリフティング場は、昨年リニューアル致しました。
他にも各種スポーツ、エアロビクスなど様々な合宿にご利用頂ける充実した体育施設です。

《宿泊》

人数、メンバー構成に合わせて快適にご利用いただけるよう、個室から合宿用客室までご用意致しております。



伊豆奥下田 飲泉・自家源泉かけ流しの宿



観音温泉

〒413-0712 静岡県下田市横川1092-1
フリーダイヤル 0120-01-9994
TEL:0558-28-1234(代) FAX:0558-28-1235

平成19年度（社）日本ウェイトリフティング協会 会報の広告募集について

時下、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

平素より、格別の御高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

本協会は、諸事業を推進するために弛まない努力をしておりますが、競技力向上にあつては、世界のスポーツ競技水準は目覚ましいものがあり、オリンピック大会等での国際大会で優秀な成績を収めることは、極めて難しくなってきている状況です。

2002年に、一貫指導システムであるナショナルトレーニングシステムを構築し、初心者からトップリフターに至る指導の方針・方法を策定し、それに基づく強化を展開しております。2008年の北京五輪の出場権は、2006年及び2007年の世界選手権大会2大会の合計得点により選手数が決定されます。

しかし、これらを取り巻く環境は厳しいものがあります。国の経済状況を反映してか、スポーツ振興基金及びスポーツ振興くじ助成金、並びに選手強化キャンペーン等の減額で思うように強化が出来ない現状にあります。

つきましては、財源基盤として会報広告ということで募集し、支援を賜りたいと存じます。趣旨御賢察のうえ、下記により格段の御協力を賜りたくお願い申し上げます。

記

- 1 掲載誌 平成19年度（社）日本ウェイトリフティング協会会報
(8月号、1月号、3月号、年鑑号の計4回発行)
- 2 体裁部数 会報機関誌での広告としてA4版 白黒色 600部～800部発行
- 3 契約の種類
 - ◎ 年間契約（年4回発行の掲載）
 - A、1ページ広告
 - B、半ページ広告
 - ◎ 1回契約（指定の月号）
 - C、1ページ広告
 - D、半ページ広告
- 4 申込先 ☎ 150-8050 東京渋谷区神南1-1-1
(社)日本ウェイトリフティング協会 宛
TEL 03-3481-2359
FAX 03-3481-2394
Eメール weightlifting @ japan-sports.or.jp

(社) 日本ウエイトリフティング協会賛助会員の募集について

平素より、当協会の各種事業展開に格別の御高配を賜り感謝申し上げます。
石川県金沢市で開催された第22回全国高等学校選抜大会を無事終了し、平成18年度の大会がすべて終了することができました。

また、全国高校選抜大会は、毎年金沢市で開催する事が決まり、ウエイトリフティングの拠点づくりの市として名乗りを上げました。

そして、3月下旬に昨年度の功労者、優秀者の表彰を東京と金沢市で挙行し、受賞者の皆様の功労をねぎらうとともに、選手と指導者1年間の功績を称えました。

これからも一層、当ウエイトリフティング協会の発展にご尽力をお願い申し上げます。

今後ともオリンピックに向けた強化と競技の普及で、世界により近づけるよう推進する所存あります。

つきましては、選手強化に伴う財源確保のため、定款第5条・第6条・第7条による賛助会員への加入について、下記により格段の御配慮をお願い致します。

平成19年4月

社団法人 日本ウエイトリフティング協会
会長 飛田秀一

記

- 1 賛助会員 定款第5条2号（この法人の事業を援助する個人又は法人）
2 賛助会費 定款第7条2号（1口10,000円、1口以上）
3 入会手続 ①郵便振替払込取扱票により、最寄りの郵便局で払い込みますと、自動的に入会手続きとなります。

②直接加入申し込みする場合は、下記までお願いいたします。

〒150-8050 東京都渋谷区神南1-1-1 岸記念体育館内

(社)日本ウエイトリフティング協会 TEL03-3481-2359

払込取扱票

00		払込取扱票												
		口座番号	百	十	万	千	百	十	千	百	十	円		
		001404	1	2	9	5	7	6						
加入者名	日本ウエイトリフティング協会 賛助会員係											金額	料金	特種取扱
通信欄	※													
ご依頼人	おとこ (郵便番号) おなまえ (電話番号 - - -)											受付局日附印		
裏面の注意事項をお読みください。(郵政省)														
これより下部には何も記入しないでください。														

各欄の墨印は、ご依頼人において記載してください。

払込金受領証

口座番号	001404	百	十	万	千	百	十	千	百	十	円	
		1	2	9	5	7	6					
加入者名	日本ウエイトリフティング協会 賛助会員係											
金額												
ご依頼人	おなまえ ※											
料金	(請負込み)											受付局日附印
特殊取扱												円

記号説明

新記録

WR : 世界新記録(new World Record)

J WR : ジュニア世界新記録(Junior new World Record)

AR : アジア新記録(new Asian Record)

J AR : ジュニアアジア新記録(new Junior Asian Record)

NR : 日本新記録(new Japan National Record)

J NR : ジュニア日本新記録(Junior new Japan National Record)

UR : 大学新記録(new University Record)

HR : 高校新記録(new senior Highschool Record)

MR : 中学新記録(new Middle school Record)

CR : 大会新記録(new Competition Record)

タイ記録

WS : 世界タイ記録(World Record Same)

J WS : ジュニア世界タイ記録(Junior World Record Same)

AS : アジアタイ記録(Asian Record Same)

J AS : ジュニアアジアタイ記録(Junior Asian Record Same)

NS : 日本タイ記録(japan National Record Same)

J NS : ジュニア日本タイ記録(Junior Japan National Record Same)

US : 大学タイ記録(University Record Same)

HS : 高校タイ記録(senior Highschool Record Same)

MS : 中学タイ記録(Middle school Record Same)

CS : 大会タイ記録(Competition Record Same)

ウェイトリフティング No. 97

(社) 日本ウェイトリフティング協会会報

発行日 平成19年4月

発行者 (社) 日本ウェイトリフティング協会

〒150-8050 東京都渋谷区神南1-1-1

岸記念体育館内

TEL 03-3481-2359

FAX 03-3481-2394

Eメール weightlifting@japan-sports.or.jp

編集責任者 専務理事 篠宮 稔 記録 笠原 達夫

編集長 松尾 謙資 副編集長 野呂記代志

関東地区 宮田 秀樹 関西地区 上田 貢 九州地区 福田登美男

—メモ—

支那の政治小説とその歴史

支那の政治小説とその歴史



KOSUKE KITAJIMA Swimming



SHINGO SUETSUGU Track & Field



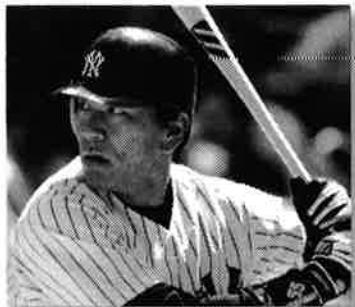
LUKE DONALD Golf



KOSTELIC Skiing



KOJI MUROFUSHI Track & Field



HIDEKI MATSUI Baseball



KOSEI INOUE Judo



ATSUSHI YANAGISAWA Soccer



AI FUKUHARA Table Tennis

世界のスポーツシーンを創造する、ミズノ

「より良いスポーツ品とスポーツの振興を通じて社会に貢献する」という理念のもと、
グローバルに活動するミズノ。物作りでは、“SOZO STUDIO”という新たな開発コンセプトから、
プレーヤーの能力を最大限に引きだす製品の数々が生み出されています。
頂点を目指すトップアスリートはもちろん、スポーツを愛するすべての人々への製品提供を通して、
ミズノはこれからも世界のスポーツシーンを創造し続けます。

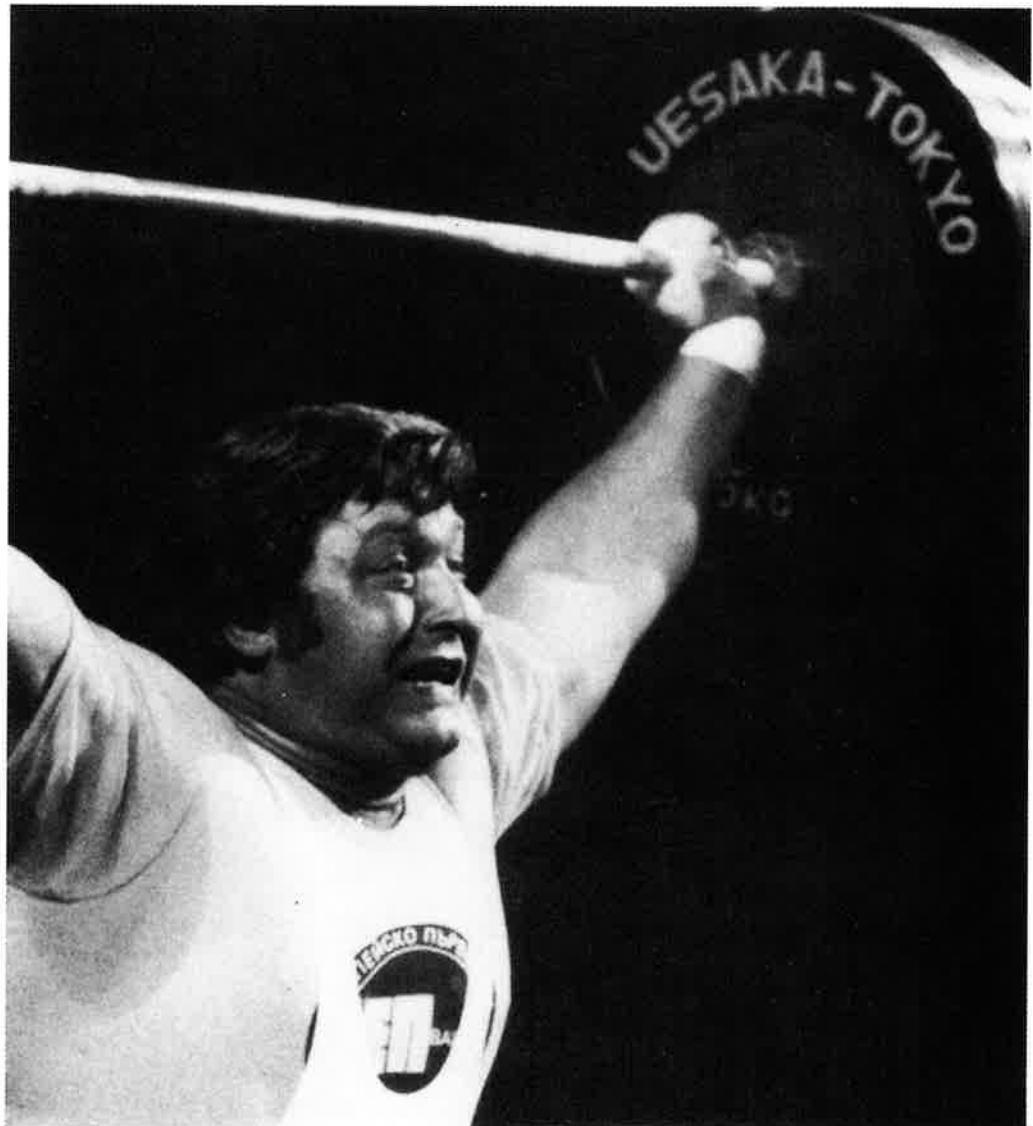


● www.mizuno.co.jp ● ☎ 0120-320-799

Majestic League Baseball trademarks and copyrights are used with permission of Major League Baseball Properties, Inc.

UESAKA

OFFICIAL BARBELL.



公認



国際ウエイトリフティング連盟認定工場
日本ウエイトリフティング協会公認器具製造販売

日本アマチュアボクシング連盟

日本体操協会器械器具

日本バスケットボール協会施設

日本バドミントン協会

日本ハンドボール協会

日本陸上競技連盟検定品製作

検定工場

製造元



上坂鉄工所

本社 〒130 東京都墨田区本所4丁目28番8号

電話 (03)3622-8171(代表)

販売元

(株)ウエサカ ティー・イー

代表取締役 鈴木 義夫

〒130 東京都墨田区本所4丁目28番8号

T E L (03)3622-8171 F A X (03)3622-8175

振込銀行 さくら銀行 本所(当) 57201